









計	何々	金額	摘要

様式第三號

飼料自給施設事業成績書

昭和 年 月 日附農第 號ヲ以テ補助金交付指令相成候標記施設完了致シ候條別紙事業成績書、支出精算書及仕拂證憑書類寫相添へ及提出候也

年 月 日

申請團體代表者

知事宛

住所氏

名

計	何々	金額	摘要

第二條第一號ノ場合

事業成績書

種別	設置者	様式(又ハ構造)	數量	單位	價額	備考		
							何々町村字何番地	何々氏名
計								

第二條第二號ノ場合

一、實施事業ノ概要(實施月日、場所、出席者數其ノ他)

第二條第三號ノ場合

一、栽培改良概要(作物別、芻草別、播種量、播種期、施肥量、收穫)

〔附合三四號〕

期、收穫方法)  
二、栽培改良成績(作物別、芻草別、收量、單位面積當收量、價額等)  
三、生産物處理方法

様式第四號

支出精算書

科目	目	支出額	豫算額	摘要
(例)	共同建設			一、基建設費：圓(材料費：圓、人工費：圓、其他：圓)蓋、重石代
	講習會(協議會等)			一、印刷費：圓、材料費：圓
	飼料作物(芻草改良)			計：圓、肥料代：圓、器具損料：圓、サ人夫賃：圓、借地料：圓、イロ：圓

様式第五號

事業実績書

飼料作物、芻草改良ノ実績  
一、栽培、改良段別、栽培改良ノ概要  
一、作物別收量、價額  
一、輪作、裏作關係



第二節 家畜傳染病 畜牛結核病

●家畜傳染病豫防法施行細則

大正十三年三月二十八日 靜岡縣令第十四號

家畜傳染病豫防法施行細則左ノ通定ム

家畜傳染病豫防法施行細則

第一條 本則ニ於テ法ト稱スルハ家畜傳染病豫防法、規則ト稱スルハ同法施行規則ヲ謂フ

第二條 法第二條本文ニ依ル届出ハ第一號様式同條但書ニ依ル届出ハ第二號様式ニ依ルヘシ但シ緊急ノ處置ヲ必要トスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 警察官吏又ハ家畜防疫委員前條ノ届出ヲ受理シタルトキハ第一、第二號様式ニ準シテ之ヲ知事ニ急報スヘシ

規則第一條第一項ニ依ル報告ノ場合亦同シ

第四條 居畜検査員居畜ノ生體検査ノ際若ハ屠殺解體後傳染病ニ罹リ又ハ其ノ疑アルコトヲ發見シタルトキハ第三號様式ニ依リ居場所轄警察官署ヲ經由シテ之ヲ知事ニ急報スヘシ

第五條 家畜傳染病終熄シタルトキハ警察署長又ハ家畜防疫委員ハ速ニ其ノ狀況ヲ調査シ遲滞ナク第四號様式ニ依リ知事ニ報告スヘシ

第六條 法第十三條第一項ニ依ル届出ハ第五號様式ニ獸醫ノ診斷書又ハ検査書ヲ添附シ死後四十八時間以内ニ警察官吏又ハ家畜防疫委員ニ届出ツヘシ

同條第二項ニ依ル届出ハ第六號様式ニ依リ届出且獸醫タル家畜防疫委員ノ検査ヲ受ケ警察官吏ノ指揮ヲ受ケヘシ

第七條 前條第一項ノ場合ニ於ケル斃畜ハ當該吏員ノ許可ヲ受クルニ非サ

〔靜岡令〕

第一號様式

家畜傳染病(疑似)發生届

病名	畜類	牝	牡	生年月	發病地	發	病	斃	殺	畜主住所		
						月	日	頭(羽)數	月	日	頭(羽)數	氏名

右及御届候也

年 月 日

住所

所有者、保管者、獸醫 氏

名印

第二號様式

家畜傳染病(疑似)發生届

病名	畜類	牝	牡	目的港	船車名	入港又ハ著車	搭	載	發	病	斃	死	
				(驛)名	又ハ番號	日	月	日	時	頭(羽)數	日	時	頭(羽)數

右及御届候也

年 月 日

官職 氏

名印

警察官吏又ハ家畜防疫委員宛

第十二編 勸業 第六章 畜産 獸醫師 蹄鐵工

〔靜岡令〕 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

レハ之ヲ移動スルコトヲ得ス

第八條 警察官吏又ハ家畜防疫委員第六條第一項ノ届出ヲ受理シタルトキハ第七號様式ニ依リ毎月十日迄ニ前月分ヲ第二項ノ場合ハ直ニ之ヲ知事ニ報告スヘシ

第九條 法第十條但書ニ依リ許可ヲ受ケムトスル者ハ發掘ノ理由ヲ記シ所轄警察官署ヲ經テ知事ニ願出ツヘシ

前項ノ願書ヲ受理シタル警察官署長ハ實地調査ノ上意見ヲ附シ進達スヘシ

第十條 警察官吏又ハ家畜防疫委員ニシテ法第十六條第二項ニ依リ交通遮斷ヲ命シタルトキハ知事ニ急報スヘシ

第十一條 法第十七條第三項ニ依リ犬ノ返還ノ請求ナキトキ警察官署長ハ規則第十一條ノ公示期間經過後ニ於テ其ノ犬ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨知事ニ報告スヘシ

第十二條 家畜傳染病ニ罹リ殺又ハ斃死シタル家畜及汚染シタル物品排泄物等ヲ埋却セムトスルトキハ規則第六條ニ依ル外尙左ノ各項ニ準スヘシ

一、國、縣道、神社、學校病院及公園ヲ距ルコト直徑百メートル以外ノ場所タルコト

二、土地高燥ニシテ湧水ノ虞ナキ土地

三、埋却シタル場所ニハ方一デシメートル長サ地上一メートル以上ノ標木ヲ建ルコト

第十三條 本則ニ依ル警察官吏又ハ警察官吏タル家畜防疫委員ノ報告又ハ通報ハ所屬警察署長又ハ分署長之ヲ爲スヘシ

第十四條 本則第六條第一項第七條ニ違反シタルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス



第十二編 勸業 第六章 畜産 獸醫師 踏鐵工  
第三號樣式 家畜傳染病(疑似)發見報告

病名	畜類	牝	牡	生年月	發見月日	症	狀	畜主住所氏名	居場名

右及報告候也  
年 月 日

知事宛

屠畜検査員 氏

名印

第四號樣式

家畜傳染病終熄報告

病名	畜類	牝	牡	生年月	發病月日	病數	死	殺	快	復	所有者、保管者住所氏名

備考 傳染系統、病勢其ノ他參考トナルヘキ事項  
右及報告候也  
年 月 日

知事宛

警察官署長(家畜防疫委員)

氏

名印

第五號樣式

家畜斃死届

〔附合三號〕

病名	畜類	名	畜類	名	號	牝	牡	毛色	生年月	發病月日	地	病名	斃死月日時	地

右斃死シタルニ付獸醫ノ診斷書(檢案書)相添ヘ此段及御届候也  
年 月 日

所有者 保管者 氏

名印

第六號樣式

家畜斃死届

畜類	牝	牡	入港又ハ著車日時(驛)	目的港名	搭	日	港(驛)名	載	發	時	頭(羽)數	病斃	日	時	頭(羽)數	死

右及御届候也  
年 月 日

警察官吏(家畜防疫委員)宛

官職 氏

名印

第七號樣式

家畜斃死表(年 月分)

病名	畜類	牝	牡	發病月日	斃死月日時	所有者(保管者)住所氏名

第十二編 勸業 第六章 畜産 獸醫師 踏鐵工



計頭	
備考	

備考 斃死多キ疾病ニ付キテハ其ノ原因、其ノ他參考トナルヘキ事項  
 (注意) 本表中ニハ法律ニ規定シタル傳染病ノ爲斃死シタルモノヲ含マス  
 年 月 日

警察(分)署長 名

●家畜傳染病豫防法第十六條第一項ニ依リ牛ノ種付禁止ノ件

昭和十一年四月十八日  
 静岡縣令第六號

敬正 昭和十一年三月縣令第一五號  
 牛ノ傳染性流産豫防ノ爲家畜傳染病豫防法第十六條第一項ニ依リ左記地域内ニ於ケル乳牛ニシテ別記様式ノ「トリコモナス」検査證無キモノハ其ノ種付ヲ禁止ス

尙當該病牛ハ屠殺ノ目的並右地域内ノ移動ニ付家畜防疫委員タル獸醫師若ハ所轄警察署長ノ許可ヲ得タルモノノ外其ノ移動ヲ停止ス  
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ昭和十一年ニ於テハ一齊検査ヲ開始セサル市町村ニハ開始ノ日マテ之ヲ適用セス  
 賀茂郡 城東村、稻取町、上河津村、下河津村、白濱村、稻梓村、稻生澤村、濱崎村、下田町、朝日村、竹麻村、南上村、南中村、南崎村、三濱村、三坂村、宇久須村、安良里村、田子村、仁科村、松崎町、中川村、岩科村

〔静岡令一四號〕

名	田方郡 三島町、錦田村、國南村、中郷村、韭山村、江間村、伊豆長岡町、田中村、北狩野村、修善寺町、下狩野村、下大見村
名	駿東郡 大平村、清水村、大岡村、金岡村、愛鷹村、片濱村、原町沼津市
名	志太郡 一圓(東川根村、徳山村ヲ除ク)
名	榛原郡 吉田村、初倉村、川崎町、勝間田村、坂部村、萩間村

「トリコモナス」検査證様式

名	牛ノ傳染性流産(トリコモナス)検査證
市郡	村町 字
村町	字
管理者	
第一回	月 日
第二回	月 日
第三回	月 日
第四回	月 日
第五回	月 日
主任印	第五回 月 日
主任印	

診	第二回	月 日	第六回	月 日
診	第三回	月 日	第七回	月 日
診	第四回	月 日	第八回	月 日

右検査ノ結果(トリコモナス)ヲ認メズ  
 昭和 年 月 日  
 静岡縣

備考	有効期間ハ検査ノ日ヨリ一ヶ月半トス
----	-------------------

備考	有効期間ハ検査ノ日ヨリ四ヶ月トス但シ同期間内ニ拘ラス第一回種付後ニ於テハ三十日間トシ特別ノ事由アリ家畜防疫委員ノ許可ヲ得タル場合ハ之ヲ五十日トス同一検査ヲ以テ二回以上種付スルヲ得ス
----	--

名	牛ノ傳染性流産(トリコモナス)検査證
市郡	村町 字
村町	字
所有者	
第一回	月 日
第二回	月 日
第三回	月 日
第四回	月 日
主任印	
主任印	



用シ又ハ特別ノ豫防法ヲ制定セラレルコト能ハスト雖本疫ノ傳染性タルコトハ疑ヲ容レサルノミナラス其ノ病症ノ間歇期ニ於テハ病馬ノ外觀殆ト健馬ト異ナラサル爲各地方ニ轉々賣買セラレルモノ多ク病源日ヲ追フテ蔓延スルノ狀況ナルカ故ニ今ニ於テ適當ノ豫防手段ヲ講スルニ非サレハ遂ニ産馬上回復スヘカラサル損害ヲ醸スヘキヲ以テ馬匹所有者ハ宜シク此主旨ヲ體シ左記豫防心得並病症説明書ニ依リ病性ヲ知悉スルト共ニ豫防法ヲ勵行シ專ラ本病ノ制歇ニ盡瘁スヘシ

馬疫豫防心得

- 第一 本疫ハ主トシテ放牧期中ニ多發スルモ他ノ期節ニ於テモ往々發病シ又放牧セサル使役馬ニモ發生スルコトアリ
- 第二 本疫ノ傳播ハ病馬及治癒不全ナル快復馬ノ媒介ニ基クモノニシテ殊ニ轉賣移動ノ爲漸次東北地方ヨリ南方ニ蔓延スルノ傾向アリ
- 第三 本疫ノ豫防ニ關シ馬匹ノ所有者又ハ管理人ハ左ノ事項ヲ實行スルヲ可トス
  - 一、本疫ノ初期ニ十分ノ手當ヲ施ストキハ治癒ノ望ナキニ非サルヲ以テ平素馬匹ノ容態ニ注意シ聊タリトモ異狀ヲ發見セハ直ニ獸醫ノ診斷ヲ受クルコト
  - 二、凡テ馬匹ノ健康ヲ増進スルハ豫防上緊要ナルヲ以テ流行地ニ於テハ飼料飲料ニ注意シ成ルヘク滋養物ヲ給シ飲料水ヲ選ムコト水ハ煮沸ノ後飲用セシムレハ尤モ可ナリ
  - 三、病馬ハ勿論快復馬ト雖急劇ニ使役スルハ宜シカラス之カ爲病勢ヲ増進シ又ハ再發ノ虞アルヲ以テ可成永ク休養セシムルコト
  - 四、本疫流行地ニ於テ買入レタル馬匹ハ獸醫ヲシテ検査セシメ尙成ルヘク一、二箇月間隔離觀察シ其ノ健全ナルヲ認メタル後ニ非サレハ在來ノ馬匹ト混同シ又ハ同一放牧場ニ放タサルコト

馬疫豫防心得

明治四十二年十二月十日 靜岡縣報告第三號

近來北海道及東北地方ニ流行スル馬疫ノ豫防ニ關シテハ政府ハ曩ニ臨時馬疫調査委員會ヲ設ケ專ラ之カ研究調査ニ從事セシメラレタルモ未タ其ノ原因病症等ヲ斷定スルノ域ニ達セス從テ目下直チニ之ニ對シ獸疫豫防法ヲ適

〔靜岡令三號〕

〔靜岡令〕

- 五、本疫ノ發生セル原野ニハ他ノ健馬ヲ放牧セサルコト
- 六、共用放牧場ニ於テ本疫發生シタルトキハ病馬ハ直ニ厩舎ニ收容シテ手當ヲ爲シ殘餘ノ放牧馬モ成ルヘク厩舎ニ牽入ルルヲ可トス若シ厩舎ニ牽入ルルコト能ハサルトキハ放牧ノ儘一、二箇月間嚴重ニ觀察シ獸醫ヲシテ時々健康診斷ヲ行ハシムルコト
- 七、本疫流行地ニ於テハ成ルヘク蚊蠅ヲ避ケヘキ手段ヲ講スルコト
- 八、全治ノ見込ナキ重症病馬又ハ恢復後體質不良ニシテ到底使役ニ供シ難キモノハ成ルヘク撲殺スルコト
- 九、屍體排泄物器具等ハ凡テ消毒ヲ行フコト糞便及敷糞ハ安全ナル場所ニ堆積シ約四尺立方積ニ達スルノ後土ヲ以テ之ヲ覆ヒ二箇月間醗酵セシメタル後肥料ニ供スルコト
- 十、厩舎等ノ消毒ニハ熱油汁石灰乳等ノ消毒藥ヲ用ユルコト屍體ハ深ク埋沒スルコト但シ皮膚ハ豫メ亂裁シ參兒「クレシン」等ノ惡臭粗毒藥ヲ注キ發掘ヲ防クコト
- 第四 本疫流行地ノ產馬組合等ニ於テ規約ヲ定メ左ノ事項ヲ實行スルコトキハ豫防ノ效果一層大ナルヘシ
  - 一、放牧原野殊ニ入會地ハ適當ニ區劃シ亂牧ヲ禁スルコト
  - 二、放牧地ニ於ケル排水ノ便ヲ圖ルコト
  - 三、獸醫ヲシテ隨時放牧馬ノ健康診斷ヲナサシムルコト
  - 四、本疫流行地ヨリ他ニ轉出スル馬匹ニハ獸醫ノ健康證明書ヲ添附シ又流行地ヨリ購入スル馬匹ハ必ス獸醫ヲシテ検査セシムルコト
  - 五、各流行地ニハ隔離病舎ヲ設ケルコト但シ隔離病舎ハ成ルヘク人家及放牧地ヨリ遠サカリ且相當ノ設備ヲナスコト
- 第五 前諸項ノ外流行地方ニ對シ取締上左ノ事項ヲ實施スルコトヲ要ス
  - 一、馬匹ノ所有者管理人又ハ獸醫本疫ニ罹リ又ハ其ノ疑アル病馬ヲ發見

シタルトキハ直チニ其ノ旨警察官署又ハ市町村役場ニ届出ルコト

- 二、届出ノ病馬ハ時々地方廳ノ主任技手又ハ經驗アル獸醫ヲ派遣シ検査ノ上其ノ診斷ノ當否ヲ確認セシム
- 三、現ニ本疫ニ罹レル馬匹ハ成ルヘク移動放牧ヲ止メ症候減退後ト雖約二箇月間ハ觀察ニ付シ其ノ間發症スルトキハ更ニ觀察期ヲ延長スルコト但シ觀察中ノ馬匹ハ場所ヲ限リテ使役セシムルコトヲ得
- 四、本疫ニ罹リタル疑アル馬匹ハ前號ニ準シ少クトモ一箇月間觀察ニ付スルコト
- 五、屍體排泄物其ノ他病馬ニ汚染シタル物件ハ之ヲ消毒スルコト

傳染性貧血 俗稱ぶらり病

本病ハ馬屬固有ノ傳染病ニシテ放牧地ニ於テ蔓延シ易ク主ニ放牧季節ニ流行スルモ舍飼ノ馬春冬ノ季節ニモ發生スルコトアリ病性頑固ニシテ治療ニ應シ難ク死亡率ハ百頭中四十乃至七十ニ達ス

病馬ノ本體ハ尙不明ナレトモ病馬及快復馬ノ血液及内臟中ニ存スルコトハ試驗ニ依リテ證明セラレタリ乃チ血液ヲ健馬ニ注射スルカ又ハ之ヲ嚥下セシムルトキハ五六日乃至二十二日平均二週間ノ後ニ發病ス

(傳染法)ハ未タ詳カナラス佛獨ノ研究者中消化器傳染ニ重キヲ置キ病毒ニ汚染セル厩舎、飼槽水槽等ノ媒介ニ依リテ傳染スルモノト信シ或ハ昆蟲類ノ媒介ニ因ルト唱フルモノアリ

一部落ヨリ他ノ部落ニ傳播スルハ常ニ病馬ヲ移轉スルニ依ル殊ニ本疫ニ罹リテ一時症候ノ減退セル馬ハ轉賣セラレ易キヲ以テ甚タ危險ナリ

(症候)本病ノ特徵ハ腹痛感冒等ノ原因ナクシテ發熱シ心悸脈搏ニ異狀ヲ來タシ漸次貧血ニ陥リ羸瘦スルモ食慾多クハ減損セズ

通常畜主ノ目ニ觸ルルノ症候ハ大略左ノ如シ



病馬ハ底舎内ノ一隅ニ佇立シ頭ヲ垂レテ沈鬱シ毫モ身傍ノ事ニ注意セズ使役中ハ倦怠疲勞シテ發汗シ易ク歩様蹣跚タリ放牧地ニ於テハ他ノ馬群ト離レ頭ヲ垂レテ沈鬱スルヲ見ル此際檢温スレハ概ネ三十九度以上四十一二度ノ高熱ヲ示シ脈數ハ増加シ甚シキハ百内外ヲ算ス手ヲ左胸壁ニ抵スレハ心悸ノ亢進セルヲ觸知ス或ハ其ノ部ニ於テ心臟ノ鼓動ヲ目視ス又下頸部ニ於テハ屢々頸靜脈ノ搏動スルヲ見ル眼鼻口ヲ開キ其ノ粘膜ヲ檢スルニ概シテ黃色ヲ帶フ病ノ初期ハ黃色赤若ハ濃赤色ニシテ黄色判然セサルコトアルモ一度貧血ニ陥リタルモノハ顯著ノ黃白色ヲ呈スルヲ特徴トス此色彩ハ殊ニ結膜ニ著シク且結膜ハ眼瞼ト共ニ多少浮腫スルモノ多シ又結膜及鼻粘膜ニハ細少ノ血斑ヲ生シ顔面頸部胸腹下部四肢等ニハ浮腫ヲ見ルコト多シ更ニ精密ニ診査シ且排泄物ニ注目スルコトキハ左ノ症狀ヲ發見スヘシ頸間部ニ輕微ノ腫脹アルモ腺症ニ於ケルカ如ク甚シカラス且熱痛ヲ帶ス腰部ノ知覺ハ鈍クシテ尾ニ力ナシ呼吸ハ増加スルコトアルモ打診及聽診上著シキ異常ナク肺ハ健全ナルヲ常トス

心臟ノ濁音界ハ擴張シ心音ニモ屢々異狀ヲ認ム例之貧血性雜音心音ノ重複濁濁強間歇等ノ如シ糞ハ褐色ノ小塊ヲナス青草ノミヲ食スルモノニ在リテハ必スシモ然ラズ往々下痢スルモノアリ

尿量ハ増加スルヲ常トス而シテ發熱中並ニ重症ノ貧血ニ陥リタル馬ノ尿ハ概ネ多量ノ蛋白ヲ含有ス尿ニ醋酸ヲ加ヘテ煮沸スレハ絮狀ノ沈澱ヲ生ス畜主ノ注意如何ニ依リテ病馬ノ發見ニ遲速アリ隨テ發見當時ノ容態一様ナラサルハ論ナシ然レトモ初期ノ症候ハ輕々看過セラレ多クハ既ニ慢性ニ陥リ顯著ノ貧血ヲ呈シ或ハ已ニ瘦削スル病馬ニ於テハ循環器ノ異狀ヲ主トシ熱候ハ缺如スルコトアリ

心臟ノ異常ハ運動後殊ニ顯著ナリ試ニ病馬ヲ厩舎ヨリ牽出スニ概シテ歩行

〔醫問合〕

外胎ト平日ニ異ナラス糞尿ノ性状ハ前ニ述ブルカ如シ

脈數ハ常ニ五六十以上ニ居リ心悸亢進鼓動變調シ呼吸數ハ増加シ疲勞倦怠發汗シ易ク力役馳走負重ニ耐ヘズ殊ニ後體ニ力ナシ

浮腫ハ屢々増減消長シ傷創ハ癒合シ難シ

熱候ノ回歸スル度數及無熱期ノ長短ハ一様ナラサルモ通常十日乃至十四五日ヲ隔テテ發病シ極熱期一日乃至三日ニシテ二三回ノ發作ヲ呈スルモノ最多ク五回以上ニ及フハ稀ナリ

血液ハ稀薄ニシテ其ノ凝固ハ緩慢不全ナリ之ヲ試驗管ニ受ケテ靜置スルトキハ赤血球ハ速ニ沈澱シテ管底ニ集リ其ノ上ニ多量ノ黃白色軟凝塊ヲ生シ血清ノ分離ハ不良ナリ赤血球層ノ容積ハ健康馬ニ在リテハ血液全量ノ十分ノ四以上ナルヲ常トスレトモ本病馬ニ在リテハ十分ノ二、五以下ニ居ル又健康馬ノ血液ハ一立方「ミリメートル」中ニ約六七百萬個ノ赤血球ヲ算フルモ本病馬ニ在リテハ其ノ數三四百萬若ハ一百万以下ニ減ス此他白血球小血板等ニモ多少ノ異狀ヲ見ル

勞働放牧不適當ノ飼養管理法ハ本病ノ再發ヲ促シ經過ヲシテ不良ナラシム寄生蟲及合併症モ亦本病ノ經過ニ不良ノ影響ヲ及ボスモノナリ

(剖觀)本病ノ屍體ニ於テハ熱ト貧血トノ結果タル循環器系統血液製造器ノ變狀臟器實質ノ變性ノ外特種ノ病的變狀ヲ見サルヲ常トス

急性症ノ屍體ハ概シテ敗血症ノ變狀ヲ呈シ血液ハ暗色濃厚ニシテ凝固不全ナリ此他皮下粘膜炎膿液淋瀝ニ心臟ノ内外膜腎臟腸粘膜炎等ノ出血皮下及心臟水腫心肝腎ノ濁腫急性脾腫淋瀝ノ腫脹充血又ハ出血骨髓出血等ヲ主要ノ變狀トシ腦脊髓ニハ水腫若ハ大出血ヲ見ルコトアリ

慢性症ノ屍體ニ於テハ水腫出血實質炎脾腫淋瀝大ノ外大貧血ヲ呈シ皮下血管ハ血液ニ乏シク大血管内ニハ少量ノ凝集血球ヲ交ヘタル黃白色ノ血塊又ハ黃白色ノ軟凝塊ヲ含有ス

〔醫問合〕

臟器中變狀ノ最著シキハ心臟ニシテ屢々極度ノ脂肪變性ヲ見ル脾臟及肝臟ノ淋巴腺腫肝臟腫脹血脂化及白血性浸潤ノ如キモ亦屢々遭遇スル變狀ナリトス

大貧血ノ外著明ノ解剖的變狀ヲ見サル場合モ亦少トセス

(類症)本病ト最モ誤診セラレ易キハ血斑病白血病流行性感胃「ホルナ」病其ノ他内臟寄生諸症ナリ或ハ老衰使役過度慢性胃腸病營養不給其ノ他症候隱微ノ慢性病ニシテ本病ノ疑ヲ起サシムルモノナキニアラズ

血斑病ハ概ネ腺疫ニ繼發シ大腫脹大出血ヲ呈シ「コロイド」銀ノ注射ニ應シ血液ニ傳染力ナク屍體ニ於テハ淋巴腺ノ腫脹又ハ其ノ周圍組織ノ浸潤ヲ見ル

白血病ニ於テハ血液ニ特異ノ變狀アリ

流行性感胃ハ屢々大流行ヲ來シ熱ノ回歸ヲ呈セス其ノ屍體ニ於テハ肺臟及呼吸器ノ他部ニ變狀ヲ見ル

他ノ諸症ハ各自ノ症候ニ據リテ容易ニ鑑識スルコトヲ得

(診察)本病ノ診斷上最難シトスル所ハ其ノ經過ニ弛張間歇アリテ症候ノ消退後ハ一見殆ト健康ト異ナル所ナキニ在リ故ニ症候不全ノ場合ニハ一回ノ檢査ニ依リテ輕ミシク否認ノ斷案ヲ下スヘカラス必ス一定ノ期間觀察スルヲ要ス他ニ合併症アルトキハ殊ニ然リ

疲勞倦怠發汗シ易ク營養不良ニシテ粘膜ノ血色ニ乏シキ或ハ之ニ黃色ヲ帶フルモノ脈數五十以上ノモノ輕微ノ運動ニ因リテ脈搏増加シ心悸亢進シ易キモノ時々沈澱スルモノ他ニ異狀ナクシテ體温ノ高キモノ浮腫血斑ヲ呈スルモノ放牧中馬群ニ離ルルモノ歩様蹣跚トシテ尾ニ力ナキモノ等ハ本病ノ疑アルヲ以テ他ノ馬匹ト隔離シ一二箇月間觀察スヘシ但シ觀察中ハ時々運動ヲ課シテ心機變調ノ有無ヲ檢スルヲ要ス

診斷ニ疑アルトキハ試驗管沈澱法ニ依リテ赤血球層ヲ檢シ又ハ尿ノ蛋白



實檢査死後剖檢等ヲ要ス  
 特異ノ熱候回歸シ心忪亢進失常シ粘膜黃白色ヲ呈シテ試驗管ニ受ケタル赤  
 血球層十分ノ二以下ニ居リ他ニ特殊ノ病徴ヲ呈セサルモノハ本病ト鑑定シ  
 テ可ナリ

### 馬疫豫防ノ件

明治四十二年十二月十日  
 靜岡縣訓令甲第二十六號

〔郡〕市役所 警察署〔分署〕 町村役場  
 近來北海道及東北地方ニ流行スル馬疫豫防ニ關シテハ本縣諭告第三號ノ主  
 旨ニ基キ之レカ豫防心得並症說明書ヲ普ク管内ニ示シ馬匹所有者ヲシテ  
 病理ヲ知悉セシムルト共ニ豫防ノ實行ヲ諭達獎勵シ萬一本病ヲ發見シタル  
 トキハ直ニ左ノ手續ヲ行ヒ以テ本馬疫ノ傳播ヲ防止スルニ努力スヘシ  
 一 本病ノ届出ニ接シタル町村役場ハ直チニ〔郡〕市役所〔分署〕ヘ報告スヘシ  
 一 同上警察署〔分署〕ハ直チニ當廳ヘ報告スヘシ  
 一 同上〔郡〕市役所ハ直チニ當廳ヘ報告スヘシ  
 一 郡接〔郡〕市役所及警察署〔分署〕ハ本疫發生傳播ノ狀況ヲ相互通知スヘシ

### 豚傳染病豫防規程

昭和二年三月二十八日  
 靜岡縣令第二十四號

豚傳染病豫防規程左ノ通定ム  
 第一條 豚傳染病豫防規程ノ爲家畜傳染病豫防法第七條ニ據リ豫防注射

種	類	毛	色	牝	牡	畜	生	年	月	用	途	目	測	體	量
合計															

右及御届候也  
 昭和 年 月 日  
 靜岡縣 郡 町 字 番地  
 靜岡縣 郡 町 字 番地  
 靜岡縣知事 殿  
 管理者

### 第二號樣式

豚豫防注射票

注射日時	昭和 年 月 日 午前	町村役場印
	後 時 分	技術員

○所有者  
 郡 町 字 番地  
 ○管理者  
 郡 町 字 番地

種類	毛色	牝	牡	畜	生	年	月	用	途	目	測	體	重	摘	要	注	射	液	名	及	數	量	血	清	豫	防	液	術	後	狀	況
----	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

注意 ○印欄ノミ町村役場ニテ記入スルモノトス

●〔獸疫豫防法〕第十條畜牛結核病  
 豫防法第十三條第三項評價書及  
 〔明治三十四年勅令第三百二十九  
 號〕第一條第一號費用請求書並  
 仕譯書樣式  
 明治三十六年九月二十六日  
 靜岡縣訓令甲第十二號

〔明治二十九年〕三法律第六十號獸疫豫防法第十條明治三十四年四法律第三

第十二編 勸業 第六章 畜産 獸醫師 蹄鐵工

ヲ施行ス  
 注射施行ノ區域並期日ハ之ヲ告示ス  
 第二條 前條注射施行區域内ニ於ケル豚ノ所有者又ハ管理者ハ注射施行期  
 日五日前ニ第一號樣式ニ據ル豚現在届ヲ其ノ市役所又ハ町村役場ヲ經由  
 シ知事ニ届出ツヘシ  
 前項届出後ニ於テ移動ヲ生シタル時ハ速ニ届出ツヘシ  
 第三條 市役所町村役場ハ第二條ノ届出ニ據リ第二號樣式ニ據ル豫防注射  
 票ヲ作製シ注射施行期日前日迄ニ家畜防疫委員ニ提出スヘシ  
 第四條 第二條ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス  
 附則  
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 大正十五年三月靜岡縣令第三十七號豚虎列刺豫防規程並大正十五年六月靜岡縣  
 令第五十七號豚丹毒豫防規程ハ本令公布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス  
 第一號樣式  
 豚現在届

十五號畜牛結核病豫防法第十三條第三項評價書及〔明治三十四年〕勅令第  
 百三十九號〕第一條第一號費用請求書並仕譯書樣式左ノ通相定ム  
 但本文評價書ハ二通請求書仕譯書ハ總テ各一通宛調製シ警察署若クハ  
 〔分署〕ヲ經テ提出セシムヘシ  
 第一號樣式 (用紙半紙野紙)  
 評價書

一金 何程  
 〔但何郡(市)町(村)大字何々何某所有ノ牛種類(馬羊豚)何々ノ爲メ(評  
 名等)撰殺ニ係ル評價格  
 右之通候也

明治 年 月 日  
 何郡(市)町(村)大字何々  
 評價人 何 某印  
 知事 宛

備考 官吏吏員ニシテ評價シタル場合ハ官職氏名ヲ記スヘシ

第二號樣式 (用紙半紙野紙)  
 評價書  
 一金 何程  
 〔但何郡(市)町(村)大字何々何某所有ノ牛種類(馬羊豚)何々ノ爲メ(評  
 名等)撰殺ノ際棄却物品評價格  
 内譯

金 何程 何々品何個一個金何程  
 金 何程 何々品何枚一枚金何程  
 右之通候也  
 何郡(市)町(村)大字何々



質検査死後剖検等ヲ要ス  
特異ノ熱候回歸シ心忪亢進失常シ粘膜黄白色ヲ呈シテ試験管ニ受ケタル赤血球層十分ノ二以下ニ居リ他ニ特殊ノ病徴ヲ呈セサルモノハ本病ト鑑定シテ可ナリ

### 馬疫豫防ノ件

明治四十二年十二月十日  
静岡縣訓令甲第二十六號

近來北海道及東北地方ニ流行スル馬疫豫防ニ關シテハ本縣驗告第三號ノ主旨ニ基キ之レカ豫防心得並症説明書ヲ普ク管内ニ示シ馬匹所有者ヲシテ病理ヲ知悉セシムルト共ニ豫防ノ實行ヲ諭達獎勵シ萬一本病ヲ發見シタルトキハ直ニ左ノ手續ヲ行ヒ以テ本馬疫ノ傳播ヲ防止スルニ努力スヘシ  
一 本病ノ届出ニ接シタル町村役場ハ直チニ〔郡役所〕ヘ報告スヘシ  
一 同上警察署〔分署〕ハ直チニ當廳ヘ報告スヘシ  
一 同上〔郡〕市役所ハ直チニ當廳ヘ報告スヘシ  
一 郡接〔郡〕市役所及警察署〔分署〕ハ本疫發生傳播ノ狀況ヲ相互通知スヘシ

### 豚傳染病豫防規程

昭和二年三月二十八日  
静岡縣令第二十四號

豚傳染病豫防規程左ノ通定ム  
第一條 豚虎列刺豚丹毒豫防ノ爲メ畜傳染病豫防法第七條ニ據リ豫防注射

種	類	毛	色	牝	牡	生	年	月	用	途	目	測	體	量
合	計													

右及御届候也  
昭和 年 月 日  
静岡縣 郡 町 字 番地  
所有者  
静岡縣 郡 町 字 番地  
管理者

### 第二號樣式

豚豫防注射票	町村役場印
注射日時	昭和 年 月 日 午前 時 分
	技術員

○所有者 郡 町 字 番地  
○管理者 郡 町 字 番地

種類	毛色	牝牡	生年	用途	目測	摘要	注射液名及數量	術後
					體重		血清 豫防液	狀況

注意 ○印欄ノミ町村役場ニテ記入スルモノトス

### 〔獸疫豫防法〕第十條畜牛結核病豫防法第十三條第三項評價書及〔明治三十四年勅令第三百二十九號〕第一條第一號費用請求書並仕譯書樣式

明治三十六年九月二十六日  
静岡縣訓令甲第十二號

〔明治二十九年三月法律第六十號獸疫豫防法〕第十條明治三十四年四月法律第三

第十二編 勸業 第六章 畜産 獸醫師 蹄鐵工

ヲ施行ス  
注射施行ノ區域並期日ハ之ヲ告示ス  
第二條 前條注射施行區域内ニ於ケル豚ノ所有者又ハ管理者ハ注射施行期日五日前ニ第一號樣式ニ據ル豚現在届ヲ其ノ市役所又ハ町村役場ヲ經由シ知事ニ届出ツヘシ  
前項届出後ニ於テ移動ヲ生シタル時ハ速ニ届出ツヘシ  
第三條 市役所町村役場ハ第二條ノ届出ニ據リ第二號樣式ニ據ル豫防注射票ヲ作製シ注射施行期日前日迄ニ家畜防疫委員ニ提出スヘシ  
第四條 第二條ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス  
附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
大正十五年三月静岡縣令第三十七號豚虎列刺豚丹毒豫防規程並大正十五年六月静岡縣令第五十七號豚丹毒豫防規程ハ本令公布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス  
第一號樣式

### 〔静岡令〕

十五號畜牛結核病豫防法第十三條第三項評價書及〔明治三十四年六月勅令第三百二十九號〕第一條第一號費用請求書並仕譯書樣式左ノ通相定ム  
但本文評價書ハ二通請求書仕譯書ハ總テ各一通宛調製シ警察署若クハ〔分署〕ヲ經テ提出セシムヘシ  
第一號樣式 (用紙半紙野紙)  
評價書  
一金 何 程  
但何郡(市)町(村)大字何々何某所有ノ牛種類(馬羊豚)何々ノ爲メ(詳病名等)撰殺ニ係ル評價格  
右之通候也  
明治 年 月 日  
何郡(市)町(村)大字何々  
評價人 何 某印  
備考  
官吏吏員ニシテ評價シタル場合ハ官職氏名ヲ記スヘシ  
第二號樣式 (用紙半紙野紙)  
評價書  
一金 何 程  
但何郡(市)町(村)大字何々何某所有ノ牛種類(馬羊豚)何々ノ爲メ(詳病名等)撰殺ノ際棄却物品評價格  
内課  
金 何 程  
何々品何個一個金何程  
金 何 程  
何々品何枚一枚金何程  
右之通候也  
何郡(市)町(村)大字何々



明治年月日

評價人 何

某印

備考

官吏吏員ニシテ評價シタル場合ハ官職氏名ヲ記スヘシ

第三號樣式 (用紙半紙罫紙)

請求書 (仕譯書)

一金 何程 撲殺手當

但私所有ノ牛種類(馬羊豚)何病(病症鑑定ノ爲メ)ニ罹リ何年何月何日  
撲殺ニ係ル手當評價格金何圓ノ何分ノ一  
右請求(右之通)候也

明治年月日

何郡(市)町(村)大字何々何番地

何

某印

備考

評價格ニ於ケル手當金額カ獸疫豫防法第十條第二項及畜牛結核病豫防  
法第十三條第二項ノ法定額ニ超過スルトキハ其事由ヲ但書ニ記載スヘシ

第四號樣式 (用紙半紙罫紙)

請求書 (仕譯書)

一金 何程 物品棄却手當

但私所有ノ牛種類(馬羊豚)何病(病症鑑定ノ爲メ)ニ罹リ何年何月何日  
撲殺ノ際(病汚染又ハ其疑アル)物品棄却手當評價格金何圓ノ何分ノ一  
内譯  
金 何程 何々品何個一個何程

(附四令)

金 何程 何々品何枚一枚何程

右請求(右之通)候也

明治年月日

何郡(市)町(村)大字何々何番地

何

某印

備考

第五號樣式 (用紙半紙罫紙)

請求書 (仕譯書)

一金 何程 獸醫手當

但何月何日ヨリ何月何日迄勤務日數何日分一日金何程程  
右請求(右之通)候也

明治年月日

何郡(市)町(村)大字何々何番地

何

某印

備考

第六號樣式 (用紙半紙罫紙)

請求書 (仕譯書)

一金 何程 評價人手當

但何年何月何日何郡(市)町(村)大字何々何某所有ノ牛種類(馬羊豚)撲  
殺及物品棄却評價手當  
右請求(右之通)候也

明治年月日

何郡(市)町(村)大字何々何番地

何

某印

(附四令)

仕拂命令官  
知事宛

第七號樣式 (用紙半紙罫紙)

請求書 (仕譯書)

一金 何程 旅費

但何々ノ件(出張要務詳記)  
内譯  
金 何程 汽車何哩 一哩ニ付金何程  
金 何程 陸路何里 一里ニ付金何程  
金 何程 日數何日 一日ニ付金何程  
金 何程 宿泊何夜 一夜ニ付金何程  
此譯

月日	發着及經由地名	汽車哩數	陸路里數	日數	夜數
何何日	何々發何々何々ヲ經由何々々々著	二、三、五	三、二、三	一	一
何何日	.....	六、三	八、一、七	一	一
何何日	.....	一、二、三	一、二、〇、三	一	一
計	.....	四、二、一	二、四、〇、七	三	二

右請求(右之通)候也

明治年月日

何郡(市)町(村)大字何々何番地

某印

仕拂命令官

知事宛

雇監督獸醫 (評價人) 何

(雇補助獸醫)

第十二編 勸業 第六章 畜産 獸醫師 蹄鐵工







ツベルクリン下付ノ件

大正二年六月三日 静岡縣告示第百三十八號

獸醫ニシテ畜牛結核病有無診斷ノ爲「ツベルクリン」ヲ注射セントスル場合ニ於テ左ノ各項ニ依リ申請スルトキハ之レヲ下付スルコトアルヘシ  
一、「ツベルクリン」ノ下付ヲ受ケントスル者ハ左記様式ニ據リ畜牛所在地ノ所轄警察官署ヲ經由シ當廳ニ申請スヘシ  
一、下付ヲ受ケタル「ツベルクリン」ハ一ヶ月以内ニ使用シ殘餘アルトキハ遲滞ナク當廳ニ返納スヘシ

「ツベルクリン」下付申請

種類	性	生年	月	日	用途	注射事由	注射豫定期日	畜主	
								住所	氏名

右ニ要スル「ツベルクリン」御下付相成度此段申請候也

年月日

住所

獸醫氏

名印

知事宛

家畜防疫委員任命ノ件

大正十五年一月十二日 静岡縣訓令乙第三號

〔静岡令〕

左記ノ者ハ別ニ辭令ヲ用ヒシテ家畜防疫委員ヲ命セラレタルモノト心得フヘシ  
記  
一、〔郡〕市長  
一、衛生主任産業主任タル〔郡〕市書記  
一、警察官署長  
一、警察署〔分署〕勤務警部警部補巡查部長  
一、衛生主任及衛生保タル巡查

知事官房〔内務部〕醫務部〔郡役所〕  
警察署〔警察分署〕

第三節 獸醫師 蹄鐵工

獸醫師法施行細則

昭和二年八月十三日 静岡縣令第五十四號

〔静岡令〕

獸醫師法施行細則左ノ通定ム

獸醫師法施行細則

- 第一條 獸醫師ノ免許及登録ノ申請書ニハ獸醫師法第二條第三號ニ關スル醫師ノ診斷書及同法第二條第一號第二號ニ該當セサル旨ノ市町村長ノ證明書ヲ添付スヘシ
- 申請者ニシテ獸醫師法第三條各號ノ一ニ該當スル者ハ其ノ事實ヲ申請書ニ記載スヘシ
- 第二條 獸醫師ニシテ獸醫師法第二條各號又ハ第三條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ旨届出ツヘシ
- 第三條 獸醫師法施行規則第七條ニ依リ住所變更届ニハ本籍、新舊住所及變更ノ年月日ヲ記載スヘシ
- 第四條 獸醫師法施行規則第八條ニ依リ獸醫師開業届ニハ左記事項ヲ記載シ獸醫師免許證書ヲ添付スヘシ  
一 住所、氏名及生年月日  
二 開業年月日  
三 診療所又ハ治療所ノ所在地  
四 出張所ナルトキハ其ノ所在地及設置年月日
- 第五條 獸醫師ハ検査簿ヲ備ヘ難畜ノ種類、性、年齢、毛色、用途、特徴、病名、検査概要、斃死年月日、検査年月日及所有者又ハ管理者ノ住所氏名ヲ記載スヘシ但シ其ノ不明ナルモノハ其ノ旨記載スヘシ

獸醫師會令施行細則

昭和二年七月二十八日 静岡縣令第五十二號

〔静岡令〕

獸醫師會令施行細則左ノ通定ム

- 第一條 獸醫師會總會ヲ召集セムトスルトキハ開會ノ日七日前迄ニ會議ノ日時場所及目的タル事項ヲ知事ニ届出ツヘシ
- 前項ノ届出事項ヲ變更シタルトキハ速ニ其ノ旨届出ツヘシ
- 第二條 獸醫師會總會ヲ終了シタルトキハ左記事項ニ付閉會後十日以内ニ届出ツヘシ  
一 會員ノ現在總數及出席者員數  
二 議事ノ概要及議決事項
- 第三條 獸醫師會役員ノ選任解任死亡等其ノ異動アリタルトキハ十日以内ニ届出ツヘシ
- 第四條 獸醫師會ノ毎年度決算ハ別記様式ニ依リ事業年度開始前ニ報告スヘシ



獸醫師會ノ毎年度決算ハ別記様式ニ依リ會務ノ狀況ト共ニ事業年度經過後三月以内ニ報告スヘシ  
 第五條 獸醫師會ニ於テ左記事項ヲ施行シタルトキハ其ノ成績ヲ報告スヘシ  
 一 獸醫事衛生ノ研究及施設ニ關スル事項  
 二 救療ニ關スル事項  
 第六條 獸醫師會ニ於テ獸醫師會令第二十二條ノ懲戒ヲ行ヒタルトキハ被懲戒者ノ住所氏名懲戒ノ種別及其ノ理由ヲ懲戒ヲ行ヒタル後十日以内ニ報告スヘシ  
 別記様式

昭和 年度靜岡縣獸醫師會歳入出豫算(決算)書  
 歳入  
 歳出  
 歳入出差引

科 目	額		増 減 比	附 記
	本年度豫算 (決算額)	前年度豫算額 (本年度豫算額)		
第 一 項 何々				
第 二 項 何々				
第 三 項 何々				
第 四 項 何々				
第 五 項 何々				
第 六 項 何々				
第 七 項 何々				
第 八 項 何々				
第 九 項 何々				
第 十 項 何々				
歳入合計				
歳出合計				
歳入出差引				

●蹄鐵工規則

昭和二年八月十三日  
 靜岡縣令第五十五號

蹄鐵工規則左ノ通定ム

- 蹄鐵工規則
- 第一條 蹄鐵工開業シタルトキ又ハ出張所ヲ設置シタルトキハ十日以内ニ左ノ事項ヲ具シ蹄鐵工免狀寫ヲ添ヘ知事ニ届出ツヘシ
    - 一 住所、氏名及生年月日
    - 二 開業年月日
    - 三 開業ノ場所
    - 四 出張所ノ所在地及設置年月日
  - 第二條 前項ノ届出ヲ爲シタル後住所、氏名、開業ノ場所又ハ出張所ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ届出ツヘシ
  - 第三條 蹄鐵工會ヲ設立セムトスルトキハ會員トナルヘキモノ五人以上設立委員トナリ一定ノ區域及會則ヲ定メ設立總會ノ議決ヲ經テ左ノ事項ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ
    - 一 区域内ニ於テ會員トナルヘキ者ノ總數
    - 二 會員トナルヘキモノニシテ設立總會ニ出席シタル者ノ員數
    - 三 設立總會ニ於ケル議事ノ概要及議決事項
    - 四 設立總會ヲ合併シ又ハ解散セムトスルトキハ總會ノ議決ヲ經テ知事ノ認可ヲ受クヘシ
  - 第四條 蹄鐵工會ノ會則ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
    - 一 名稱及區域
    - 二 事業
    - 三 事務所ノ所在地
    - 四 役員ノ種類、數、權限、選任、解任及任期ニ關スル規定
- 第十二編 勸業 第六章 畜産 獸醫師 蹄鐵工

歳出

科 目	額		増 減 比	附 記
	本年度豫算 (決算額)	前年度豫算額 (本年度豫算額)		
第 一 項 何々				
第 二 項 何々				
第 三 項 何々				
第 四 項 何々				
第 五 項 何々				
第 六 項 何々				
第 七 項 何々				
第 八 項 何々				
第 九 項 何々				
第 十 項 何々				
歳出合計				

●獸醫師免許申請書進達ニ關スル件

昭和二年五月二十一日  
 農第二三〇一號内務部長通牒

其筋ヨリ通牒有之候條獸醫師ノ免許及登録申請書ニハ獸醫師法第二條及第三條各號ノ一ニ該當セザル旨ノ賞職ノ證明書添付セラレ度  
 追而第三條各號ノ一ニ該當スルモノニ在リテハ犯罪又ハ不正ノ行爲ニ關スル事實ヲ具シ進達相成度

(靜岡令)

- 五 會員ノ加入及脱退ニ關スル規定
- 六 會議ニ關スル規定
- 七 財産ニ關スル規定
- 八 經費ノ分賦徴收及會計ニ關スル規定
- 九 前各號ノ外必要ナル事項
- 第五條 蹄鐵工會ノ會則ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ其ノ旨届出ツヘシ
- 第六條 蹄鐵工會總會ヲ終了シタルトキハ十日以内ニ左ノ事項ヲ知事ニ届出ツヘシ
  - 一 會員ノ現在總數及出席者員數
  - 二 議事ノ概要及議決事項

附則  
 大正十二年三月靜岡縣令第九號獸醫師蹄鐵工規則ニ依リ設立シタル蹄鐵工會ニシテ本令施行ノ際現ニ存スルモノハ本令ニ依リ設立シタルモノト見做ス



第七章 水産 附船舶

●静岡縣水産試驗場規程

昭和四年十一月七日

静岡縣訓令甲第三十二號

知事官房 (内務部) 水産試驗場

明治三十八年八月訓令丙第四六二號静岡縣水産試驗場規程左ノ通改正ス

静岡縣水産試驗場規程

- 第一條 水産試驗場ハ水産業ノ改良發達ヲ圖ル爲左ノ業務ヲ行フ
  - 一 漁撈、製造及養殖ニ關スル試驗及調査
  - 二 水族ノ蕃殖及海洋並漁場ニ關スル調査
  - 三 水産ニ關スル講習、講話、傳習及指導
  - 四 魚介藻類ノ蕃殖、育成並種苗ノ配付
  - 五 其ノ他水産業ノ改良發達ニ關スル事項ノ調査及研究
- 第二條 水産試驗場ニ分場ヲ置キ其ノ業務ノ一部ヲ分掌セシム
- 第三條 水産試驗場ニ左ノ職員ヲ置ク

- 分場 長
- 技師及技手
- 主事 補

- 場長ハ技師分場長ハ技師又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ
- 第四條 場長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ場務ヲ掌理ス
- 第五條 技師及技手ハ場長又ハ分場長ノ指揮ヲ受ケ場務ニ従事ス
- 第六條 主事補ハ場長又ハ分場長ノ指揮ヲ受ケ庶務及會計ノ事務ニ従事ス

第十二編 勸業 第七章 水産

第七條 場長又ハ分場長事故アルトキハ上席職員其ノ職務ヲ代理ス

●静岡縣水産試驗場處務規程

昭和四年十一月七日

静岡縣訓令乙第二百八十二號

知事官房 (内務部) 水産試驗場

静岡縣水産試驗場處務規程左ノ通定ム

静岡縣水産試驗場處務規程

- 第一條 左ノ事項ハ知事ノ決裁ヲ經テ場長之ヲ處理スルモノトス
  - 一 場内諸規則ノ制定改廢ニ關スル事項
  - 二 各種試驗ノ設計調査及施行方法
  - 三 委託試驗
  - 四 職員ノ管外出張
- 第二條 左ノ事項ハ場長ニ於テ之ヲ處理ス、シ
  - 一 製造物養成魚介類及漁獲物ノ拂下
  - 二 助手及所屬船乘組員(但シ船長、機關長及無線電信手ヲ除ク)ノ命免
  - 三 職員ノ事務分掌
  - 四 職員ノ管内出張、乗船出張又ハ除服出仕
  - 五 職員ノ私事旅行及歸省
  - 六 雇傭人ノ命免並臨時雇傭人及試驗職工人夫ノ雇入
  - 七 地所建物ノ臨時貸借
- 第三條 場長ハ分場ノ業務執行ニ必要ナル事項ヲ處務細則中ニ規定シ分場長ヲシテ主掌セシムヘシ
- 第四條 場長分場長ハ主掌事務ニ關シ職名場名ヲ以テ文書ノ往復ヲ爲スコ



トフ得

- 第五條 場長ハ職員ノ進退黜陟ニ關シ知事ニ具申スルコトヲ得
- 第六條 場長管外ニ出張ヲ要スルトキハ知事ニ伺出ツヘシ
- 第七條 職員出張シタルトキハ歸場後五日以内ニ復命書ヲ作り場長ハ知事ニ技師以下ハ場長ニ之ヲ提出スヘシ但シ技師以下ノ復命書ニシテ必要ト認ムルモノハ場長之ヲ知事ニ報告スヘシ
- 第八條 場長ハ毎年五月拾五日迄ニ前年度ニ於ケル事務ノ功程ヲ知事ニ報告スヘシ但シ緊急必要ノ事項ト認ムル試験ノ成績等ハ其ノ都度之ヲ報告スヘシ
- 第九條 本規程ニ定メナキモノハ本廳處務細則ヲ準用ス

### ●水産試験場移轉

大正元年八月三十日  
 靜岡縣告示第三十五號  
 靜岡縣水産試驗場ヲ安倍郡清水町ニ移轉シ大正元年九月十一日ヨリ事務ヲ取扱フ

### ●水産試験場分場設置

昭和四年十一月七日  
 靜岡縣告示第六百六十五號  
 靜岡縣水産試驗場伊東分場ヲ左ノ地ニ設置ス  
 靜岡縣田方郡伊東町地内

昭和九年一月二十七日  
 靜岡縣告示第六十五號  
 靜岡縣水産試驗場濱名湖分場ヲ左記ノ地ニ設置シ昭和九年一月二十七日ヨ

〔靜岡令〕

- 一 水産會法ニ依リ設立シタル水産會
- 二 産業組合又ハ産業組合聯合會
- 三 市町村又ハ之ニ準スヘキモノ
- 四 前各號ノ外知事ニ於テ適當ト認ムル法人又ハ組合
- 第五條 第一條ニ掲ケル設備ニ對スル獎勵金ノ額ハ左ノ費用ノ二分ノ一以內トス
- 一 船揚又ハ船溜設備ニ在リテハ漁船ノ船揚場、船溜場又ハ其ノ附屬設備ノ新設、増設又ハ改設若ハ航路障礙物ノ除去ニ要シタル費用
- 二 販賣設備ニ在リテハ水産物ノ共同販賣所又ハ其ノ附屬設備ノ新設、増設、改設又ハ買入ニ要シタル費用
- 三 製造加工又ハ處理設備ニ在リテハ水産物ノ製造加工場若ハ處理場ノ新設、増設、改設又ハ水産物ノ製造、加工若ハ處理ノ爲使用スル機械器具ノ買入ニ要シタル費用
- 四 貯藏設備ニ在リテハ水産倉庫其ノ他水産物ノ貯藏設備ノ新設、増設、改設又ハ買入ニ要シタル費用
- 五 冷蔵設備ニ在リテハ水産物ノ冷蔵車及冷蔵用貯水車、冷蔵設備ノ新設、増設、改設又ハ買入ニ要シタル費用
- 六 漁船又ハ漁具設備ニ在リテハ漁船、漁具、副漁具、漁船ノ機關若ハ保護設備又ハ染網場、網干場其ノ他漁具ノ保護設備ノ新設、改設又ハ買入ニ要シタル費用
- 七 運搬設備ニ在リテハ水産物ノ運搬ノ用ニ供スル船車又ハ機械器具ノ新設、改設又ハ買入ニ要シタル費用
- 八 増殖設備ニ在リテハ蕃殖場、蓄養場、種場、人工孵化場、漁獲其ノ他ノ新設、増設、改設又ハ漁場ノ改善若ハ種苗ノ買入ニ要シタル費用

開始ス  
 靜岡縣濱名郡舞阪町舞阪

### ●漁業共同施設獎勵規程

昭和四年七月九日  
 靜岡縣令第六十六號  
 改正 昭和七年四月縣令第二四號、九年一月第一號  
 漁業共同施設獎勵規程左ノ通定ム

#### 漁業共同施設獎勵規程

- 第一條 漁業ニ關スル共同施設ヲ獎勵スル爲本規程ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ左ニ掲ケル設備ニ對シ獎勵金ヲ交付ス但シ本設備ハ施設團體員全般ノ利用ニ充ツル施設タルコトヲ要ス
- 一 船揚及船溜設備
- 二 水産物ノ販賣設備
- 三 水産物ノ製造、加工及處理設備
- 四 水産物ノ貯藏設備
- 五 水産物ノ冷蔵設備
- 六 漁船漁具設備
- 七 水産物ノ運搬設備
- 八 水産物ノ増殖設備
- 九 漁船救難設備
- 十 漁業用消耗品ノ貯藏設備
- 第二條 獎勵金ノ交付ヲ受ケルコトヲ得ヘキ者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ限ル
- 一 漁業組合又ハ漁業組合聯合會

〔靜岡令〕

- 九 漁船救難設備ニアリテハ漁船遭難ノ救護又ハ豫防ノ用ニ供スル救護船、救護船格納庫、標識信號標、無線電信裝置、無線電話裝置其ノ他ノ新設、改設又ハ買入ニ要シタル費用
- 十 漁業用消耗品ノ貯藏設備ニ在リテハ漁業用石油、カーバイト其ノ他漁業用消耗品ノ貯藏ニ要スル設備ノ新設、増設、改設又ハ買入ニ要シタル費用
- 第四條 獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ三月末日迄ニ之ヲ知事ニ提出スヘシ
- 一 設備ニ關スル事業計劃書
- 二 設計書
- 三 設備ニ關スル收支豫算書
- 四 獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者第二條第五號ニ該當スル者ナルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ提出スヘシ
- 一 規約、會則、定款又ハ寄附行爲
- 二 代表者ノ氏名
- 三 前二項ノ書類ノ外知事ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ
- 第五條 本規程ニヨリ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル設備ハ他ニ讓渡スルコトヲ得ス但シ特別ノ事情アル場合知事ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 第六條 規定ニヨリ讓渡ノ認可ヲ受ケタルトキハ讓受人ヲ以テ獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタルモノト看做ス
- 第六條 獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者第四條ノ各號ノ書類ニ記載シタル事項ニ重大ナル變更ヲ加ヘムトスルトキハ知事ノ認可ヲ受ケヘシ
- 第七條 知事ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケヘキ設備ニ付何時ニテモ検査ヲ爲スコトヲ得



第八條 獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者獎勵金ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ設備完成又ハ物件買入終了後精算書ヲ添へ請求書ヲ知事ニ提出スヘシ

第九條 獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者解散シタルトキハ指令ハ其ノ效力ヲ失フ但シ合併後存続スル法人若ハ合併分割ニ因リテ設立シタル法人ニシテ獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル設備ニ付引續キ共同ノ施設ヲ行フトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者又ハ其ノ設備ノ承継人ハ第四條第一項第一號ノ事業計劃書ニ定ムル目的及用途ニ從ヒ其ノ設備ヲ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ要ス但シ使用ニ支障ナキ限り他ノ用途ニ之ヲ使用セシムルコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ豫メ知事ノ承認ヲ受ケルコトヲ要ス

第十一條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者又ハ其ノ承継人ハ毎事業年度終了後二月以内ニ其ノ共同施設事業ノ報告書ヲ知事ニ提出スヘシ

第十二條 知事ハ必要アリト認ムルトキハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者又ハ其ノ設備承継人ニ對シ何時ニテモ其ノ共同施設ニ關スル報告ヲ命シ書類帳簿又ハ事務執行ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第十三條 前三條ノ規定ニ依ル義務年限ハ獎勵金交付ノ日ヨリ五年ヲ超エサル範圍ニ於テ知事之ヲ定ム

第十四條 獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者又ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者若ハ其ノ設備ノ承継人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ知事ハ獎勵金交付ノ指令ヲ取消シ又ハ既ニ交付シタル獎勵金ノ全部又ハ一部ノ還附ヲ命スルコトヲ得

一 本規程ニ違反シタルトキ  
二 獎勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

〔附則一七號〕

三 事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ  
第十五條 本規程ニ依リ知事ニ差出スヘキ書類ハ所轄町村役場又ハ市役所ヲ經由スヘシ

第四條中三月末日迄トアルハ昭和四年度ニ限り七月末日迄トス

● 漁業共同施設獎勵ニ關スル件

昭和十二年五月六日 市町村長宛  
一 水第三五號經濟部長依命通牒

大正十四年六月二十六日付農林省令第二十一號漁業共同施設獎勵規則

昭和八年六月五日省令第十二號改正  
昭和十年七月六日省令第十六號改正  
昭和十一年四月二十三日省令第三號改正

ハ以テ同規則中一部改正同日官報登載相成候處右ハ漁村ノ實狀ニ鑑ミ新ニ漁船設備及給水設備ニ對シテ補助成スルコトニ相成タルモノニ候條御了知ノ上關係ノ向ハ周知方可能御取計相成度

追而右獎勵金交付ニ付テハ左記ニ依リ御取扱相成度尙追加設備ニ對スル獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ノ願書ニ付テハ本年度ニ限り五月三十一日迄ニ候條爲念申添候

一 本獎勵金交付ノ願書提出アリタルトキハ市町村長ハ願書及添附書類ニ關シ調査ヲ爲シ不備ノ點アラバ之ヲ補正セシメタル上進達スルコト  
二 本獎勵規則第二條第六號ニ依リ獎勵金ノ交付ヲ受ケルコトヲ得ル者

〔附則一七號〕

ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限リ

(一) 水産業ノ改良發達ヲ目的トスル公益法人  
(二) 漁業者又ハ養殖業者ヲ以テ構成スル組合ニシテ組合員數相當多數ナルモノ

三 前項(二)ニ掲グル組合ヨリ提出スル願書ニハ各組合員ノ氏名、職業及住所ヲ記載シタル書面並ニ代表者タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコト

本獎勵規則第十二條第三號ニ依リ組合員ノ加入又ハ脱退ノ届出ニハ加入又ハ脱退シタル者ノ氏名、職業及住所並ニ加入又ハ脱退ノ年月日ヲ明示スルコト

四 本獎勵規則第一條第五號ニ掲グル設備中漁船ニ對スル獎勵金ハ原則トシテ總噸數二十噸以下ノ漁船ニ限り之ヲ交付スルコト

五 本獎勵規則第一條第六號ニ掲グル設備中水産物ノ運搬船ニ對スル獎勵金ハ原則トシテ總噸數五十噸以下ノ船舶ニ限り之ヲ交付スルコト

六 本獎勵規則第一條第十一號又ハ第十二號ニ掲グル事業費ニ對スル獎勵金ハ該事業ノ經營ニ要スル通信費、荷造費、容器費、宣傳費又ハ事務員給料、旅費等ノ事業費ノ範圍内ニ於テ適宜之ヲ交付スルコト但シ荷造費又ハ容器費ニ對スル獎勵金ハ荷造改善又ハ容器改善ノ爲特ニ必要ナル經費ニ限り之ヲ交付スルコト

七 本獎勵規則第三條第三號ニ掲グル燃油槽中ニハ燃油ノ浮油槽ヲ含ムコト

八 本獎勵金交付ノ願書ハ事業ノ經營上一聯ノ關係ニアル設備又ハ事業費ニ對シ出願スル場合ヲ除クノ外同一人ノ出願ニ係ルモノト雖モ本獎勵規則第一條ニ掲グル設備又ハ事業費ニ之ヲ作成スルコト  
九 本獎勵規則第四條第一項各號ノ書類ハ別紙様式ニヨリ之ヲ作成シ様

第十二編 勸業 第七章 水産

- (一) 事業計劃書様式  
事業又ハ設備ノ種類  
事業又ハ設備ヲ必要トスル理由  
獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル年度ニ於ケル事業計劃ノ概要  
(設備ニ對スル獎勵金ノ交付ヲ受ケントスルモノニ在リテハ設備完成後ノ事業經營目論見概要ヲモ記載スルコト)  
事務員ノ俸給、旅費ニ對シ獎勵金ノ交付ヲ受ケントスルモノニ在リテハ當該事務員ノ擔任事務及新設、既設ノ別將來ニ於ケル事業計劃ノ概要  
其ノ他參考トナルベキ事項



注意

其ノ他参考トナルベキ事項中ニハ事業經營ノ現況、事業經營ニ關シ  
地元商人又ハ他ノ團體トノ關係等ヲモ記載スルコト

二 收支豫算書様式

第一 設備ニ關スル收支豫算

科	目	金額	附記
國庫獎勵金			
何設備獎勵金			
借入金			
何々々			
何々々			
合計			

支出

左記項目ニ依リ作成スルコト

イ、販賣設備

敷地買入費

建築物工費(設計監督費ヲ含ム)

附屬設備費(種類別ニ記載ノコト)

雜費

合計  
製造、加工又ハ處理設備

〔附則令一七號〕

〔附則令一七號〕

建築物工費(設計監督費及防熱設備費ヲ含ム)

雜費

合計

丁 燃油槽(浮油槽ニ在リテハ漁船ノ設備ニ準ズルコト)

敷地買入費

燃油槽工費(設計監督費ヲ含ム)

建築物工費(設計監督費ヲ含ム)

附屬設備費(種類別ニ記載ノコト)

雜費

合計

ニ、漁業用水製造設備

敷地買入費

建築物工費(設計監督費ヲ含ム)

製氷設備費(設計監督費ヲ含ム)

一、冷凍機械(据附費、基礎工事費ヲ含ム)

二、原動機(傳導裝置費、据附費、基礎工事費ヲ含ム)

三、製氷裝置

四、貯氷室ノ配管裝置

五、貯氷室ノ防熱設備

雜費

合計

敷地買入費  
建築物工費(設計監督費ヲ含ム)  
機械、器具買入費(運搬費及据附費ヲ含ム)  
附屬設備費(種類別ニ記載ノコト)

ハ、貯藏設備

甲 水産倉庫

販賣設備ニ準ズルコト

乙 冷藏庫

敷地買入費

建築物工費(設計監督費ヲ含ム)

冷藏設備費(設計監督費ヲ含ム)

一、冷凍機械(据附費、基礎工事費ヲ含ム)

二、原動機(傳導裝置費、据附費、基礎工事費ヲ含ム)

三、配管裝置

四、防熱裝置

雜費

合計  
丙 貯氷庫又ハ水蔵庫

敷地買入費

ホ、漁船及漁具設備

甲 漁船、漁具

體(設計監督費及織裝、屬具費ヲ含ム)

關(運搬費及据附費ヲ含ム)

漁具ノ製作費又ハ買入費

副漁具ノ買入費(据附費ヲ含ム)

雜費

合計

乙 船納屋、漁具納屋、染網場、網干場

敷地買入費

建築物工費(設計監督費ヲ含ム)

土木工費(設計監督費ヲ含ム)

雜費

合計

イ、運搬設備

甲 運搬船

體(設計監督費及織裝、屬具費ヲ含ム)

關(運搬費及据附費ヲ含ム)

防熱裝置アラバ其ノ工費

雜費

合計







第十二編 勸業 第七章 水産

ノ給料、旅費ニ付左記様式ニ依ル内課書ヲ添附スルコト

項	目	員數	單價	金額	備考
事務員	給料				月俸何圓ノモノ何月何月分
事務員	旅費				月俸何圓ノモノ何月何月分
計					當何圓(何月分)

八 設備買入ノ場合ニ在リテハ設備支出豫算記載事項ニ準ジ買入費ノ内課ヲ記載スルコト

イ、販賣設備設計書

設備ノ場所

(一) 設備場所附近ノ略圖(停車場、魚市場、船着場、方位其ノ他設備利用上關係アル他ノ設備ノ位置ヲ明示スルコト)

(二) 設備場所ノ坪數及建造物ノ建坪數

(三) 設計ノ概要(平面圖ヲ添附スルコト)

(四) 起工豫定年月日

(五) 完成豫定年月日

(六) 製造加工又ハ處理設備設計書

(一) 設備場所附近ノ略圖(停車場、魚市場、船着場、方位其ノ他設備利用上關係アル他ノ設備ノ位置ヲ明示スルコト)

〔附則令一七號〕

用上關係アル他ノ設備ノ位置ヲ明示スルコト)

(一) 設備場所ノ坪數及建造物ノ建坪數

(二) 設備又ハ機械器具ノ設計ノ概要(平面圖又ハ配置圖ヲ添附スルコト)

(三) 機械器具ノ種類、名稱、使用方法及其ノ能力

(四) 機械器具ノ製作所又ハ販賣所ノ所在地及氏名又ハ名稱

(五) 起工豫定年月日

(六) 完成豫定年月日

(七) 貯藏設備設計書

(一) 設備ノ場所

(二) 設備場所附近ノ略圖(停車場、魚市場、船着場、方位其ノ他設備利用上關係アル設備ノ位置ヲ明示スルコト)

(三) 設備場所ノ坪數及建造物ノ建坪數

(四) 設計ノ概要(平面圖ヲ添附スルコト)

(五) 貯藏物ノ種類及收容量(冷蔵庫ニ在リテハ最低保持溫度記入ノコト)

(六) 機械器具設備ノ概要(配置圖ヲ添附スルコト)

(七) 機械器具ノ製作所又ハ販賣所ノ所在地及氏名又ハ名稱

(八) 起工豫定年月日

(九) 完成豫定年月日

ニ、漁業用水製造設備設計書

〔附則令一七號〕

(九)

完成豫定年月日

乙 漁具

種類、名稱

構造ノ概要

屬具又ハ副漁具ノ種類及數

使用方法

主ナル漁獲物

製作又ハ買入豫定年月日

丙 船納屋、漁具納屋

設備ノ場所

(一) 設備場所附近ノ略圖(魚市場、船着場、方位其ノ他設備利用上關係アル設備ノ位置ヲ明示スルコト)

(二) 設備場所ノ坪數及建造物ノ建坪數

(三) 設計ノ概要(平面圖ヲ添附スルコト)

(四) 收容スル物ノ種類及數

(五) 起工豫定年月日

(六) 完成豫定年月日

(七) 染網場、網干場其ノ他漁具補強設備

(八) 設備ノ場所

(九) 設備場所ノ坪數

(一)

設備ノ場所

(二) 設備場所附近ノ略圖(停車場、魚市場、船着場、方位其ノ他設備利用上關係アル他ノ設備ノ位置ヲ明示スルコト)

(三) 設備場所ノ坪數及建造物ノ建坪數

(四) 設計ノ概要(平面圖ヲ添附スルコト)

(五) 機械器具設備ノ概要(配置圖ヲ添附スルコト)

(六) 一日製水量及滿庫貯水量

(七) 機械器具ノ製作所又ハ販賣所ノ所在地及氏名又ハ名稱

(八) 起工豫定年月日

(九) 完成豫定年月日

ホ、漁船及漁具設備設計書

甲 漁船

船種及船名

船ノ長さ、幅、深サ

總噸數

(一) 設計ノ概要(一般配置圖ヲ添附スルコト)

(二) 機關ノ種類及純馬力

(三) 船體及機關ノ製作所又ハ販賣所ノ所在地及氏名又ハ名稱

(四) 副漁具ノ種類及數

(五) 起工豫定年月日

(六) 第十二編 勸業

(七) 第七章 水産



(三)(四)(五) 設備ノ概要(平面圖ヲ添付スルコト)

(一)(二) 起工豫定年月日

(三) 完成豫定年月日

(四) 運搬設備設計書

(五) 運搬船

(六) 運搬物ノ種類及積載量

(七) 漁船設計書ニ準ズルコト

(八) 運搬車又ハ運搬用機械器具

(九) 種類、名稱

(一〇) 車體ノ重要寸法又ハ機械器具ノ構造ノ概要

(一一) 積載量又ハ能力

(一二) 製作所又ハ販賣所ノ所在地及氏名又ハ名稱

(一三) 買入豫定年月日

(一四) 車庫ハ船納屋、漁具納屋ニ準ズ

(一五) 水産物ノ養殖設備設計書

(一六) 甲 蕃殖場、蕃養場、種場

(一七) 設備ノ場所

(一八) 設備場所附近ノ略圖(販賣所其ノ他設備利用上關係アル他ノ設備ノ位置ヲ明示スルコト)

(一九) 設備場所ノ水深、底質、潮流及潮流ノ方向

(二〇) 設備場所ノ敷地及水面坪數

(二一) 設計ノ概要(平面圖ヲ添付スルコト)

〔附圖令一七號〕

(六)(七) 起工豫定年月日  
(八) 完成豫定年月日  
(九) 人工孵化場  
(一〇) 設備ノ場所  
(一一) 設備場所附近ノ地勢概況(略圖ヲ添付スルコト)  
(一二) 流水(又ハ湧水)ヲ利用スル場合ハ其ノ箇數及水温(最高最低)  
(一三) 設備場所ノ敷地及水面ノ坪數  
(一四) 建造物ノ建坪數  
(一五) 設計ノ概要(平面圖ヲ添付スルコト)  
(一六) 孵化能力及池ノ收容能力  
(一七) 起工豫定年月日  
(一八) 完成豫定年月日  
(一九) 救護設備設計書  
(二〇) 甲、救護船  
(二一) 救護船ニ附屬スル救護設備ノ概要  
(二二) 漁船設計書ニ準ズルコト  
(二三) 乙 救護船格納庫  
(二四) 設備ノ場所  
(二五) 設備場所附近ノ略圖  
(二六) 敷地ノ坪數及建造物ノ建坪數

(四)(五)(六) 設計ノ概要(平面圖ヲ添付スルコト)

(一)(二) 起工豫定年月日

(三) 完成豫定年月日

(四) 丙 標識、信號標

(五) 設備ノ場所

(六) 設備場所附近ノ地勢(略圖ヲ添付スルコト)及海況

(七) 標識、信號標ノ種類及名稱

(八) 設計ノ概要(平面圖ヲ添付スルコト)

(九) 起工豫定年月日

(一〇) 完成豫定年月日

(一一) 丁 無線電信及無線電話設備

(一二) 設備ノ場所

(一三) 設備場所附近ノ略圖

(一四) 型式

(一五) 波長

(一六) 電力及到達距離

(一七) 敷地ノ坪數及建造物ノ建坪數

(一八) 設計ノ概要(略圖ヲ添付スルコト)

(一九) 起工豫定年月日

第十二編 勸業 第七章 水産

(九) 完成豫定年月日  
(一〇) 漁礁設備設計書  
(一一) 沈設ノ場所  
(一二) 沈設場所附近ノ海面圖(沈設場所ト陸地トノ關係潮流及海底ノ狀況ヲ表示スルコト)  
(一三) 漁礁坪數  
(一四) 設計ノ概要(平面圖ヲ添付スルコト)  
(一五) 起工豫定年月日  
(一六) 完成豫定年月日  
(一七) 給水設備設計書  
(一八) 設備ノ場所  
(一九) 設備場所附近ノ地勢概要(平面圖ヲ添付スルコト)  
(二〇) 水源地ノ地形及水量  
(二一) 取水及淨化方法  
(二二) 給水量及配給方法  
(二三) 各種工事設計ノ概要(平面圖ヲ添付スルコト)  
(二四) 附屬設備ノ概要(平面圖及構造圖ヲ添付スルコト)  
(二五) 起工豫定年月日  
(二六) 竣工豫定年月日  
備考  
一、設備ヲ増設、改設(改造)スル場合ハ現在及新計畫ニ區別シテ記載



スルコト  
二、右ノ外詳細ナル工費内課設計書、仕様書及圖面ヲ提出セシムルコトアリ

### 漁業共同施設獎勵規則第十條ニ依ル事業報告書ノ件

昭和二年三月十二日  
商第四三九號内務部長通牒

市町村長宛

漁業共同施設獎勵規則第十條ニ依ル事業報告書ハ左記様式ニ依リ提出スルコトト相成候條爾今右ニ據リ每事業年度終了後二月内ニ遲滞ナク報告セシムル様御取計相成度

#### 事業報告書様式

- 一、船揚及船溜設備
- 二、設備ノ種類
- 三、獎勵金交付年月日
- 四、事業ノ概要
- 五、設備ノ改設又ハ増設ノ有無及概要
- 六、附屬設備ノ新設、増設又ハ改設ノ有無及概要
- 七、設備ヲ利用スル船舶ノ種類大サ及數
- 八、收支及損益
- 九、水産物ノ販賣設備
- 一〇、設備ノ種類
- 一一、所在ノ場所

〔附則令一七號〕

- 三、獎勵金交付年月日
- 四、所有者及使用者ノ氏名又ハ名稱
- 五、事業ノ概要
- 六、取扱水産物ノ種類別數量及金額
- 七、販賣方法
- 八、販賣手數料
- 九、設備ノ改設、増設又ハ買入ノ有無及概要
- 一〇、附屬設備ノ新設、増設、改設又ハ買入ノ有無及概要
- 一一、收支及損益
- 一二、製造、加工及處理設備
- 一三、製造場、加工場又ハ處理場
- 一四、設備ノ種類
- 一五、所在ノ場所
- 一六、獎勵金交付年月日
- 一七、所有者及使用者ノ氏名又ハ名稱
- 一八、事業ノ概要
- 一九、取扱物ノ種類別數量及金額
- 二〇、設備ノ改設、増設又ハ買入ノ有無及概要
- 二一、收支及損益
- 二二、製造、加工又ハ處理ノ爲使用スル機械器具
- 二三、設備ノ種類
- 二四、所在ノ場所
- 二五、獎勵金交付年月日
- 二六、所有者及使用者ノ氏名又ハ名稱

〔附則令一七號〕

- 六、利用ノ狀況
- 七、手數料又ハ使用料
- 八、設備ノ改設、増設又ハ買入ノ有無及概要
- 九、收支及損益
- 一〇、貯蔵設備
- 一一、設備ノ種類
- 一二、所在ノ場所
- 一三、獎勵金交付年月日
- 一四、所有者及使用者ノ氏名又ハ名稱
- 一五、事業ノ概要
- 一六、取扱貯蔵品ノ種類別數量及金額
- 一七、保管料
- 一八、設備ノ改設、増設又ハ買入ノ有無及概要
- 一九、收支及損益
- 二〇、漁船及漁具設備
- 二一、甲 漁 船
- 二二、設備ノ種類
- 二三、船種及船名
- 二四、獎勵金交付年月日
- 二五、所有者及使用者ノ氏名又ハ名稱
- 二六、漁業ノ種類及從業員
- 二七、漁具ノ種類及數
- 二八、從業期間及場所並出漁日數
- 二九、漁獲物ノ種類別數量及金額
- 三〇、使用料

- 一〇、設備ノ改設又ハ買入ノ有無及概要
- 一一、收支及損益
- 一二、管理ノ方法
- 一三、乙 漁 具
- 一四、設備ノ種類
- 一五、名 稱
- 一六、獎勵金交付年月日
- 一七、所有者及使用者ノ氏名又ハ名稱
- 一八、漁業ノ種類
- 一九、利用ノ狀況
- 二〇、漁獲物ノ種類別數量及金額
- 二一、使用料
- 二二、設備ノ改設又ハ買入ノ有無及概要
- 二三、收支及損益
- 二四、一〇、收支及損益
- 二五、一一、管理ノ方法
- 二六、丙 築網場、網干場其他漁具保強設備
- 二七、設備ノ種類
- 二八、所在ノ場所
- 二九、獎勵金交付年月日
- 三〇、所有者及使用者ノ氏名又ハ名稱
- 三一、事業ノ概要
- 三二、利用ノ狀況
- 三三、設備ノ改設又ハ買入ノ有無及概要
- 三四、使用料又ハ手數料
- 三五、收支及損益



六、運搬設備

甲 運搬船

- 一、設備ノ種類
  - 二、船種及船名
  - 三、獎勵金交付年月日
  - 四、所有者及使用者ノ氏名又ハ名稱
  - 五、事業ノ概要
  - 六、從業期間及場所並從業日數
  - 七、運搬物ノ種類別數量及金額
  - 八、運搬手數料
  - 九、設備ノ改造又ハ買入ノ有無及概要
  - 一〇、收支及損益
- 乙 運搬車又ハ運搬用機械器具
- 一、設備ノ種類
  - 二、名稱
  - 三、獎勵金交付年月日
  - 四、所有者及使用者ノ氏名又ハ名稱
  - 五、事業ノ概要
  - 六、運搬物ノ種類別數量及金額
  - 七、運搬手數料又ハ使用料
  - 八、設備ノ改造又ハ買入ノ有無及概要
  - 九、收支及損益
  - 七、水産物ノ養殖設備
  - 甲 人工孵化場
  - 一、設備ノ種類

〔附則令四〇號〕

- 二、所在ノ場所
  - 三、獎勵金交付年月日
  - 四、所有者及使用者ノ氏名又ハ名稱
  - 五、事業ノ概要
  - 六、採卵數及放流尾數
  - 七、設備ノ改造、増設又ハ買入ノ有無及概要
  - 八、附屬設備ノ新設、増設、改設又ハ買入ノ有無及概要
  - 九、收支及損益
- 乙 蕃殖場、蓄養場、種場、漁礁其他養殖設備
- 一、設備ノ種類
  - 二、所在ノ場所
  - 三、獎勵金交付年月日
  - 四、所有者及使用者ノ氏名又ハ名稱
  - 五、事業ノ概要
  - 六、利用ノ狀況
  - 七、設備ノ改造、増設又ハ買入ノ有無及概要
  - 八、收支及損益
- 甲 救護船
- 一、設備ノ種類
  - 二、船種及船名
  - 三、獎勵金交付年月日
  - 四、所有者ノ氏名又ハ名稱
  - 五、事業ノ概要
  - 六、救難事件ノ數及場所

〔附則令四〇號〕

- 五、事業ノ概要
  - 六、利用ノ狀況
  - 七、設備ノ改造、増設又ハ買入ノ有無及概要
  - 八、管理又ハ保存ノ方法
- 備考
- 一、様式ニ示サル設備又ハ單ニ附屬設備ノミノ場合ニアリテハ之ニ準シテ作成スルコト
  - 二、種類別數量ノ單位ハ可成買ニ依ルコト但シ買ニ依ラサル場合ハ記入單位ト買トノ換算法ヲ記入スルコト

- 七、設備ノ改造、増設又ハ買入ノ有無及概要
  - 八、救難以外ノ用ニ供シタルヤ否ヤ若シフリトセハ其ノ狀況
  - 九、管理又ハ保存ノ方法
- 乙 救護船格納庫
- 一、設備ノ種類
  - 二、所在ノ場所
  - 三、獎勵金交付年月日
  - 四、所有者ノ氏名又ハ名稱
  - 五、事業ノ概要
  - 六、設備ノ改造、増設又ハ買入ノ有無及概要
  - 七、管理又ハ保存ノ方法
- 丙 標識又ハ信號標
- 一、設備ノ種類
  - 二、所在ノ場所
  - 三、獎勵金交付年月日
  - 四、所有者ノ氏名又ハ名稱
  - 五、事業ノ概要
  - 六、利用ノ狀況
  - 七、設備ノ改造、増設又ハ買入ノ有無及概要
  - 八、管理又ハ保存ノ方法
- 丁 無線電信又ハ無線電話
- 一、設備ノ種類
  - 二、所在ノ場所
  - 三、獎勵金交付年月日
  - 四、所有者ノ氏名又ハ名稱



### ● 郡市水産會技術員設置獎勵金交

#### 付規程

昭和十三年四月一日  
靜岡縣告示第二百六十三號

郡市水産會技術員設置獎勵金交付規程左ノ通定ム

- 郡市水産會技術員設置獎勵金交付規程
- 第一條 郡市水産會專任技術員ノ設置ヲ獎勵スル爲本規程ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付ス
- 第二條 獎勵金ハ左ニ掲グル費用又ハ補助金ニ對シ郡市水産會又ハ縣水産會ニ之ヲ交付ス
  - 一 郡市水産會ノ專任技術員ノ設置ニ要スル費用又ハ其ノ費用ニ對シテ交付スル縣水産會ノ補助金
- 第三條 獎勵金ノ額ハ俸給年額ノ二分ノ一以内トシ其ノ俸給年額平均九百圓ヲ超ヘサルモノトス
- 第四條 獎勵金ノ交付ヲ受ケル郡市水産會專任技術員ノ資格ハ左記各號ノ一ニ該當スルコトヲ要ス
  - 一 水産講習所本科若ハ之ト同等以上ノ學校又ハ尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五箇年又ハ高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三箇年以上ノ水産學校若ハ之ト同等以上ノ水産ニ關スル講習所ニ於テ水産ニ關スル科目ヲ修メ之ヲ卒業シタル者
  - 二 水産業ニ關スル指導ニ關シ特別ノ經驗アル者ニシテ知事ニ於テ適當ト認メタル者
- 第五條 獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ左ニ掲グル書類ヲ添附シ毎年二月末日迄ニ之ヲ知事ニ提出スヘシ

第十二編 勸業 第七章 水産

- 一 事業計畫書
  - 二 收支豫算書
  - 三 補助及監督ニ關スル規程
  - 前項ノ書類ノ外知事ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ
  - 第六條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者前條第一項各號ニ掲グル書類ニ記載シタル事項ニ重大ナル變更ヲ加ヘントスルトキハ知事ノ承認ヲ受ケヘシ
  - 第七條 郡市水産會又ハ縣水産會カ獎勵金ノ交付ヲ受ケテ設置スル專任技術員ニ第四條第二號ニ該當スル者ヲ任命セントスルトキハ豫メ俸給額ヲ記載シ履歷書其ノ他參考トナルヘキ書類ヲ添附シ知事ノ承認ヲ受ケヘシ
  - 第八條 郡市水産會又ハ縣水産會ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケテ設置スル專任技術員ノ任命及其ノ罷免ヲ知事ニ届出ツヘシ但シ任命ノ場合ニ在リテハ俸給額ヲ記載シ履歷書ヲ添附スヘシ
  - 第九條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタルモノハ翌年五月末日迄ニ收支決算書及事業成績書ヲ提出スヘシ
  - 第十條 收支豫算書(收支決算書)ハ別記様式第一號ニ依リ事業成績書ハ別記様式第二號ニ依リ之ヲ作成スヘシ
  - 第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ知事ハ獎勵金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ
    - 一 本規程ノ規定ニ違反シタルトキ
    - 二 獎勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ
    - 三 事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ
    - 四 支出額力豫算額ニ比シ著シク減少シタルトキ
- 附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス







### 富士養鱒場設置

昭和八年十月一日  
静岡縣告示第九百十八號  
静岡縣富士郡上井出村地ニ設置シ昭和八年十月一日ヨリ開始ス  
静岡縣富士郡上井出村地内

### 静岡縣富士養鱒場釣場使用規程

昭和十二年四月五日  
静岡縣告示第二百八十九號

- 静岡縣富士養鱒場釣場使用規程左ノ通定ム
- 静岡縣富士養鱒場釣場使用規程
- 第一條 本場ハ其ノ目的トナス鱒増殖事業遂行ノ傍本規程ニヨリ場内河川ノ一部ヲ釣場トシテ一般公衆ノ使用ニ供ス
  - 第二條 釣場ハ左ノ日時ニ於テ公開ス但シ場務ノ都合ニヨリ臨時閉鎖及使用時間ノ變更ヲナスコトアルベシ
    - 一、自四月 一、日午前八時ヨリ午後四時迄
    - 二、自十一月 一、日午前八時ヨリ午後四時迄
    - 三、至翌年三月三十一日午前九時ヨリ午後四時迄
  - 第三條 釣場使用者ハ入場券ヲ携帶スベシ  
入場券ハ左ノ料金ニヨリ本場ニ於テ發賣ス
    - 一日券 一人ニ付金參圓五拾錢
    - 半日券 一人ニ付金貳圓
    - 二日間券 一人ニ付金壹圓
  - 第四條 入場券ヲ携帶スル者ト雖揭示事項ニ反シ又ハ係員ノ制止ニ從ハザルトキハ入場ヲ禁ズルコトアルベシ

- 第五條 釣魚ニ必要ナル釣具摺活洲等ハ無料ヲ以テ貸付ス  
入場者ノ希望ニヨリ係員ニ於テ適當ト認メタル釣具ニ限リ持參ノモノヲ使用セシムルコトアルベシ
  - 第六條 釣獲魚ハ丁寧ニ取扱ヒ活洲ニ蓄養スルモノトス
  - 第七條 釣獲魚ハ一日券一封度半日券半封度二日間券四分ノ一封度ヲ限リ無料トシ損傷魚ハ時價ヲ以テ釣獲者ニ於テ引取ルモノトス
  - 第八條 本場ノ設備器具及貸付物品ヲ損傷シタルトキハ現品若ハ相當代價ヲ以テ之ヲ償ハシム
  - 第九條 釣場使用者ニ必要ナル事項ハ隨時本場ニ之ヲ揭示ス
- 附則  
本規程ハ昭和十二年四月五日ヨリ之ヲ施行ス

### 静岡縣富士養鱒場觀覽規程

昭和十二年四月五日  
静岡縣告示第二百九十號

- 静岡縣富士養鱒場觀覽規程左ノ通定ム
- 静岡縣富士養鱒場觀覽規程
- 第一條 本場ハ其ノ目的トナス鱒増殖事業遂行ノ傍本規程ニヨリ一般ノ觀覽ニ供ス
  - 第二條 本場ハ左ノ日時ニ於テ公開ス但シ場務ノ都合ニヨリ臨時閉鎖及使用時間ノ變更ヲナスコトアルベシ
    - 一、自四月 一、日午前八時ヨリ午後四時迄
    - 二、自十一月 一、日午前八時ヨリ午後四時迄
    - 三、至翌年三月三十一日午前九時ヨリ午後四時迄

〔静岡令一六號〕

第三條 觀覽者ハ觀覽券ヲ携帶スベシ但シ六歳未満ノ者ハ觀覽券ヲ要セズ

- 觀覽券ハ左ノ料金ニヨリ本場ニ於テ發賣ス
- 一、大人(年齢十二歳以上ノ者) 一人一回ニ付金五錢
  - 二、小人(年齢十二歳未満ノ者) 一人一回ニ付金參錢
  - 三、二十人以上ノ普通團體 一人ニ付金參錢
  - 四、二十人以上ノ小學校兒童團體 一人ニ付金壹錢
- 第四條 觀覽券ヲ携帶スル者ト雖揭示事項ニ反シ又ハ係員ノ制止ニ從ハザルトキハ觀覽ヲ禁ズルコトアルベシ
- 第五條 本場ノ設備器具並ニ飼育魚苗ヲ損傷シタルトキハ現品若ハ相當代價ヲ以テ之ヲ償ハシム
- 第六條 觀覽者ニ必要ナル事項ハ隨時本場ニ之ヲ揭示ス
- 附則  
本規程ハ昭和十二年四月五日ヨリ之ヲ施行ス

### 許可漁業鑑札様式

大正十三年九月十二日  
静岡縣告示第六百十五號  
大正二年一月 静岡縣告示第十五號許可漁業鑑札様式左ノ通改正ス

第十二編 勸業 第七章 水産

第四 寸

第 號
漁業鑑札
住所
漁業者(代表者) 氏 名
漁業ノ名稱
漁業ノ場所
漁獲物ノ種類
漁業ノ時期
許可期間
制限又ハ條件

寸 三

面 裏

年
月
日
縣 印
烙 印



漁業監督吏員服務心得

大正七年三月二十三日  
静岡縣訓令乙第一二〇號

改正 大正九年訓令乙第二六五號、昭和四年六月第一九八號

漁業監督吏員服務心得左ノ通定ム

〔内務部〕 水産試験場

第一條 漁業監督吏員服務心得  
一、監督及検査ノ年月日  
二、監督及検査ノ場所又ハ氏名  
三、監督及検査ノ状況並違反ノ事實アルトキハ其事實

第二條 漁業監督吏員漁業ノ監督及検査ニ從事シタルトキハ左記事項ヲ記シ歸廳後五日以内ニ内務部ノ吏員ニ在リテハ知事ニ水産試験場ノ吏員ニ在リテハ場長ハ知事ニ其ノ他ハ水産試験場長ニ復命スヘシ

第三條 漁業監督吏員ニ於テ違反者ヲ發見シ告發セムトスルトキハ違反ノ事實ヲ詳具シ知事ノ指揮ヲ受クヘシ但シ急速ヲ要スル場合ハ直ニ告發ヲ爲シ遲滞ナク報告スヘシ

第四條 漁業監督吏員職務執行ノ際關係者ノ要求アルトキハ之ヲ示スヘシ  
第五條 漁業監督吏員證票又ハ手帳ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ旨知事ニ届出テ再交付ヲ受クヘシ其ノ職ヲ退キタルトキハ之レヲ返納スヘシ

静岡縣漁業取締規則

大正十三年九月四日  
静岡縣令第六十四號

改正 大正一五年縣令第三八號、第五三號、昭和三年第三三號、第五〇號、四年一月第一八六號、七年五月第二八號、一〇年三月第五號、四月第一號、一一年七月第一八號、一三年九月第四五號

静岡縣漁業取締規則左ノ通改正ス

第一章 總則

第一條 漁業ニ關スル出願、申請及届出ハ漁業登録令ニ依ルモノノ外其ノ漁場ノ屬スル市役所又ハ町村役場ヲ經由スヘシ但シ機船底曳網漁業ニ付テハ漁業根據地ノ屬スル市役所又ハ町村役場ヲ經由スヘシ  
前項ノ出願、申請若ハ届出ヲ爲スニ當リ其ノ漁場ニ市町村以上ニ跨ルトキ又ハ漁場ノ屬スル市町村明確ナラサルトキハ居住地ノ市役所若ハ町村役場ヲ經由スヘシ但シ本縣内ニ居住地ヲ有セサルトキハ直ニ知事ニ之ヲ爲スヘシ

第二條 漁業法施行規則ニ依リ農林大臣ニ爲スヘキ出願、申請及届出ニハ漁業法施行規則ニ定ムルモノノ外更ニ其ノ副本一通ヲ添付スヘシ

第二章 漁業許可

第三條 左ニ掲グル漁業ハ一漁業毎ニ知事ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ專用漁業權又ハ入漁權ニ依リテ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 海面ニ於テ火光其ノ他ノ照明ヲ利用スル網漁業
- 二 鮎蟹揚繰網漁業
- 三 機船揚繰網漁業
- 四 揚繰網漁業(巾着網漁業ヲ含ム)
- 五 追込網漁業
- 六 しらす船曳網漁業(方言しらす小繰網漁業、しらす手繰網漁業又ハ

〔静岡令三三號〕

しらす揚繰網漁業(特別漁業ニ該當セサルモノ)

七 養蠶漁業(定置漁業ニ該當セサルモノ)

八 河川ニ於ケル曳網漁業(特別漁業ニ該當セサルモノ)

九 河川ニ於ケル捲網漁業

十 取水器漁業(海面又ハ濱名湖ニ於テ行フモノ)

十一 船使漁業

十二 海藻刈取器漁業(方言摺器漁業)

前項ノ漁業ヲ許可シタルトキハ様式第一號ニ依リ漁業鑑札ヲ下付ス

第四條 漁業許可願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 漁業ノ名稱

二 漁業ノ場所

三 漁獲物ノ種類

四 漁業ノ時期

五 許可ヲ受ケムトスル期間

第五條 二人以上共同シテ漁業許可ヲ出願スル場合ハ内一人ノ代表者ヲ定メ願書ニ記載スヘシ

第六條 代表者ヲ變更シタルトキハ直ニ届出ツヘシ

第七條 漁業ノ許可期間ハ五箇年以内トス

第八條 水産動物ノ蕃殖保護其ノ他公益上必要アリト認ムルトキハ許可ヲ與フルニ當リ制限又ハ條件ヲ附シ既ニ許可シタル漁業ヲ制限停止シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第九條 本則又ハ本則ニ依リ附スル制限若ハ條件ニ違背シタルトキハ許可シタル漁業ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十條 第三條第一項ノ許可ヲ受ケタル者ハ漁業ニ從事中漁業鑑札ヲ携帶スヘシ但シ漁業鑑札ノ再下付又ハ書換ヲ申請中ノ者ハ第一條ノ規定ニ依



ル經由市町村長又ハ知事ノ證明セル漁業鑑札寫ヲ携帯シテ漁業ニ従事スルコトヲ得

第十條 鑑札ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ再下付ヲ、記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ書換ヲ申請スヘシ

第十一條 許可ヲ受ケタル漁業ノ廢業、許可期間ノ滿了其ノ他許可ノ效力消滅シタルトキハ十日以内ニ其ノ旨届出テ鑑札ヲ返納スヘシ

第十二條 第三條第二項、第四條乃至第十一條及第三十一條ノ規定ハ漁業法施行規則第五十條第一項ノ漁業ニ之ヲ準用ス

第十三條 左ニ掲グル漁業ハ之ヲ禁止ス但シ第二號打瀬網漁業ハ沿海三海里以外ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得

一 空釣漁業 (方言空曳漁業)

二 打瀬網漁業 (但シあめんど打瀬網漁業及濱名湖ニ於ケル夜打瀬網漁業(方言蝦曳網漁業ヲ含ム)ヲ除ク)

三 鮎流網漁業

四 鮎漁業

五 鮎鰯釣漁業ニシテ視水器又ハ水眼鏡ノ類ヲ使用スルモノ

第十四條 左ニ掲グル水産動物ハ之ヲ採捕、所持又ハ販賣スルコトヲ得ス之方製品ノ所持又ハ販賣ニ付亦同シ但シ養殖ノ目的ヲ以テ所持又ハ販賣スルハ此ノ限ニ在ラス

一 うなぎ(のぼり子ヲ含ム)全長十五釐(四寸九分五厘)以下

二 あわび 殻長十一釐(三寸六分三厘)以下

三 あさり 殻長三釐(九分九厘)以下

〔附則令六號〕

四 はまぐり 殻長四、五釐(一寸四分八厘五毛)以下

五 いせえび 重量七十五瓦(二十包)以下

六 うみかめ 腹甲長六十釐(一尺九寸八分)以下及其ノ卵子

第十五條 左ニ掲グル水産動物ハ各其ノ下ニ記載シタル期間之ヲ採捕シ又ハ其ノ採捕シタルモノ及其ノ製品ハ之ヲ所持シ若ハ販賣スルコトヲ得ス

一 あわび 一月一日ヨリ五月三十一日迄

二 いせえび 五月一日ヨリ九月三十日迄

三 しらす 一月一日ヨリ三月十日迄

四 てんぐさ 十一月一日ヨリ翌年三月三十一日迄

五 ばらこ(初年生ノモノ) 一月一日ヨリ六月三十日迄

六 なまこ 四月一日ヨリ十一月十五日迄

七 沖ぎす 四月十五日ヨリ九月三十日迄

八 櫻 蝦 六月一日ヨリ九月三十日迄

第十五條ノ二 左ニ掲グル區域ヲ禁漁區トシ水産動物ノ採捕ヲ禁止ス

一 大井川ニ於テハ志太郡徳山村東海紙料株式會社地名發電所堰堤ノ上流二百米(百十間)下流三百米(百六十五間)ノ區域

二 安倍川支流蘆科川ニ於テハ安倍郡大川村靜岡電氣鐵道株式會社蘆科川第二發電所堰堤ノ上流二百米(百十間)下流三百米(百六十五間)ノ區域

三 富士川支流、芝川ニ於テハ富士郡上井出村東京電燈株式會社猪ノ頭發電所堰堤ヨリ上流、同郡同村靜岡縣富士養蠶場拾號堰堤ニ至ル區域

第十五條ノ三 左ノ區域ヲ鮎ノ禁漁區トシ十月一日ヨリ十一月十日迄鮎ノ採捕ヲ禁止ス

四 路以南ノ濱名湖並猪鼻湖及細江湖 周年

一 二百二十間)並其ノ沖合四百米(二百二十間)ノ區域 自三月三十一日

前項第一號ニ掲グル區域内ニ於テハ 自四月一日午後六時 自三月三十一日

照明ヲ利用シテ水産動物ヲ採捕スルコトヲ得ス但シ前項第二號ニ掲グル

見通線以西ニ於テ 自四月一日 自四月一日 自四月一日

午後六時 自四月一日 自四月一日 自四月一日

午前六時 自四月一日 自四月一日 自四月一日

午後六時 自四月一日 自四月一日 自四月一日

第十八條 左記河川ニ於テ替堀又ハ瀬干ニ依リ捕魚ヲ爲スコトヲ得ス

一 河津川本支川

二 稻生澤川本支川

三 那賀川本支川

四 仁科川本支川

五 狩野川本支川

六 調井川本支川

七 富士川本支川

八 興津川本支川

九 巴川本支川

一〇 安倍川本支川

一一 瀬戸川本支川

一二 栃山川本支川

一三 大井川本支川

一四 勝間川本支川

一五 萩間川本支川

一六 國安川本支川

都田川ニ於テハ府縣道濱松田口線橋梁祝田橋ヨリ河口ニ至ル間

天龍川ニ於テハ國道東海道天龍川橋ヨリ河口ニ至ル間

太田川ニ於テハ國道東海道三ヶ野橋ヨリ河口ニ至ル間

大井川ニ於テハ東海道線鐵道鐵橋ヨリ河口ニ至ル間

安倍川ニ於テハ靜岡市安西橋ヨリ河口ニ至ル間

安倍川支流蘆科川ニ於テハ木枯森ノ東端ヲ通過スル南北線ヨリ下流

興津川ニ於テハ庵原郡興津町横山ヨリ同郡同町承元寺ニ通スル往還鐵道

橋ヨリ河口ニ至ル間

富士川ニ於テハ東海道線鐵道鐵橋ヨリ河口ニ至ル間

狩野川ニ於テハ府縣道原水沼津線石堂橋ヨリ河口ニ至ル間

第十六條 漁具及漁具使用期間ノ制限左ノ如シ

一 濱名湖ニ於ケル夜打瀬網(方言蝦曳網ヲ含ム)ハ其ノ網目十五釐(四寸九分五厘)ニ付二十節以下ノ疎目ノモノヲ使用スヘシ

二 手繰網ハ其ノ網目十五釐(四寸九分五厘)ニ付十四節以下ノ疎目ノモノヲ使用スヘシ但シ機船底曳網漁業取締規則ニ依ル手繰網ハ此ノ限ニ在ラス

三 鏝刺網及鏝流網ノ使用期間ハ四月十五日ヨリ翌年二月十五日迄トス

四 海藻刈取器ノ胴木ハ木製ノモノヲ用フヘシ尙八月及九月ハ之方使用ヲ禁ス

第十七條 左記各號ニ掲グル漁具ハ各其ノ下ニ定ムル區域及期間ニ於テハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

一 流網 田方郡西浦村大瀬崎ヨリ駿東郡原町大塚東端ヲ見通シタル線以東ノ駿河灣内 周年

二 揚繰網 田方郡西浦村大瀬崎ヨリ沼津市牛臥山西端ヲ見通シタル線以東ノ駿河灣内 周年

三 夜打瀬網(方言蝦曳網ヲ含ム)又ハあめんど打瀬網 東海道線鐵道線







第十二編 勸業 第七章 水産

濱名郡新居町今切口ヨリ同郡白須賀町西端ニ至ル間ノ地曳網及高網地曳網漁場ノ周圍ニ於テ漁場ヨリ五百五十米(三百二間半)

第二十七條 前條保護區域内ニ於テハ其ノ漁業ニ從事中其ノ目的トスル魚類ヲ捕獲スル網具ヲ使用シ又ハ魚道ヲ遮斷シ若ハ之ヲ散逸セシムヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ス但シ既ニ免許ヲ受ケタル漁業ハ本條ノ規定ニ依リ其ノ效力ヲ妨ケラレコトナシ

第二十八條 定置漁業權、區別漁業權又ハ特別漁業權ニ依リ漁業ヲ營ム者ハ毎年漁期終了後一箇月以内ニ左ノ事項ヲ報告スヘシ但シ周年操業スルモノニ在リテハ翌年一月末日迄ニ報告スヘシ

一 漁業ノ種類及名稱  
二 免許番號

三 漁業ノ開始及終了ノ年月日  
四 定置漁業ニ在リテハ月別及魚種別漁獲高

第二十九條 定置漁業及區別漁業(第二種漁業ヲ除ク)ヲ爲ス者ハ其ノ漁業ノ終了後十日以内ニ其ノ漁具及漁場内ニ於ケル建設物ヲ撤去スヘシ但シ止ムヲ得サル理由ニ依リ認可ヲ經タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 漁業ノ免許ヲ受ケタル者ハ漁場ノ附近ニ十二間(三寸九分六厘)角以上ノ木材又ハ石材ヲ用ヒ高さ一、五米(四尺九寸五分)以上ノ左ノ事項ヲ記載シタル漁場標識ヲ建設スヘシ但シ地形上已ムヲ得サル場合ハ知事ノ承認ヲ得テ岩石其ノ他顯著ナル不動物體ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

一 漁場標識タルコトヲ示スヘキ文字  
二 漁業ノ種類及名稱  
三 免許番號及免許年月日  
四 漁場ノ位置  
五 漁業權者ノ住所及氏名又ハ名稱

〔附則令〕

附則 (大正十五年陸令第五十三號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ニヨリ新ニ許可ヲ受ケルヲ要スル漁業ヲ現ニ爲ス者ハ本則施行ノ日ヨリ二月以内ハ仍從前ノ例ニ依リ漁業ヲ爲スコトヲ得

前項ニ該當スルモノニシテ前項ノ期間内ニ漁業ノ許可ヲ出願シタルモノハ其ノ許可ノ處分ヲ受ケル迄ノ間亦同シ

附則 (昭和十年陸令第五號)

本令ハ昭和十年三月十九日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ヨリ引續キ本令ニ依リ新ニ許可ヲ要スルニ至リタル漁業ヲ爲ス者ハ本令施行ノ日ヨリ七十日以内ヲ限リ本則ニ依リ許可ヲ受ケサルモ仍其ノ漁業ヲ爲スコトヲ得

前項ノ漁業者カ前項ノ期間内ニ其ノ漁業ノ許可ヲ出願シタルトキハ其ノ許可ノ處分ヲ受ケル迄ノ間亦前項ニ同シ

附則 (昭和十年陸令第十一號)

第一條 本令ハ昭和十年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 本令施行前從前ノ第三條第一項ノ規定ニ依リ漁業ノ許可ヲ受ケタル者ハ第三條第一項ノ改正規定ニ依リ漁業ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第三條 本令施行前從前ノ規定ニ依リ交付シタル漁業權札ハ本則ノ改正規定ニ依リ之ヲ交付シタルモノト看做ス

第四條 本令施行前從前ノ第三十條ノ規定ニ依リ建設シタル漁場標識ハ第三十條ノ改正規定ニ依リ之ヲ建設シタルモノト看做ス

第五條 本令施行前ヨリ引續キ本令ニ依リ新ニ許可ヲ要スルニ至リタル漁業ヲ爲ス者ハ本令施行ノ日ヨリ五十日以内ヲ限リ本則ニ依リ許可ヲ受ケサルモ仍其ノ漁業ヲ爲スコトヲ得

前項ノ漁業者前項ノ期間内ニ其ノ漁業ノ許可ヲ出願シタルトキハ其ノ許可ノ處分ヲ受ケル迄ノ間亦前項ニ同シ

第十二編 勸業 第七章 水産

四〇〇

第三十條ノ二 漁場標識ノ記載事項ニ異動ヲ生シ又ハ漁場標識滅失シ若ハ毀損シタルトキハ之ヲ書換ヘ又ハ再建スヘシ

第三十條ノ三 漁業權消滅シタルトキハ速ニ漁場標識ヲ撤去スヘシ

第三十條ノ四 定置漁業權ニ依リ漁業ヲ營ム者ハ漁具ノ敷設中其ノ見易キ場所ニ一、五米(四尺九寸五分)以上ノ高さニ晝間ニ在リテハ標識第二號ノ漁具標識ヲ、夜間ニ在リテハ二軒(一埋強)以上ヨリ認識シ得ラルル火光其ノ他ノ照明ニ依ル漁具標識ヲ設置スヘシ

第三十一條 第三條第一項、第十三條乃至第十五條、第十六條乃至第十八條、第十九條ノ二第一項、第二十五條若ハ第二十七條ニ違反シタル者、第七條、第八條若ハ第二十五條ノ二ノ規定ニ依ル制限若ハ停止ニ違反シタル者又ハ第十九條ノ二第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ第九條、第十一條、第二十條第二項、第二十一條又ハ第二十九條乃至第三十條ノ四ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第三十二條 本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十三條 本則施行前ニ許可ヲ受ケタル漁業ニシテ本則ニ牴觸セサルモノハ本則ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ其ノ許可期間ハ許可ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第三十四條 本則ニ於テ禁止シタル漁業ニシテ本則施行前ニ免許若ハ許可ヲ受ケタルモノハ其ノ期間内ニ之ヲ爲スコトヲ得

第三十五條 本則ニ依リ新ニ許可ヲ受ケルヲ要スル漁業ヲ爲ス者ハ本則施行ノ日ヨリ二月以内ハ仍從前ノ例ニ依リ漁業ヲ爲スコトヲ得

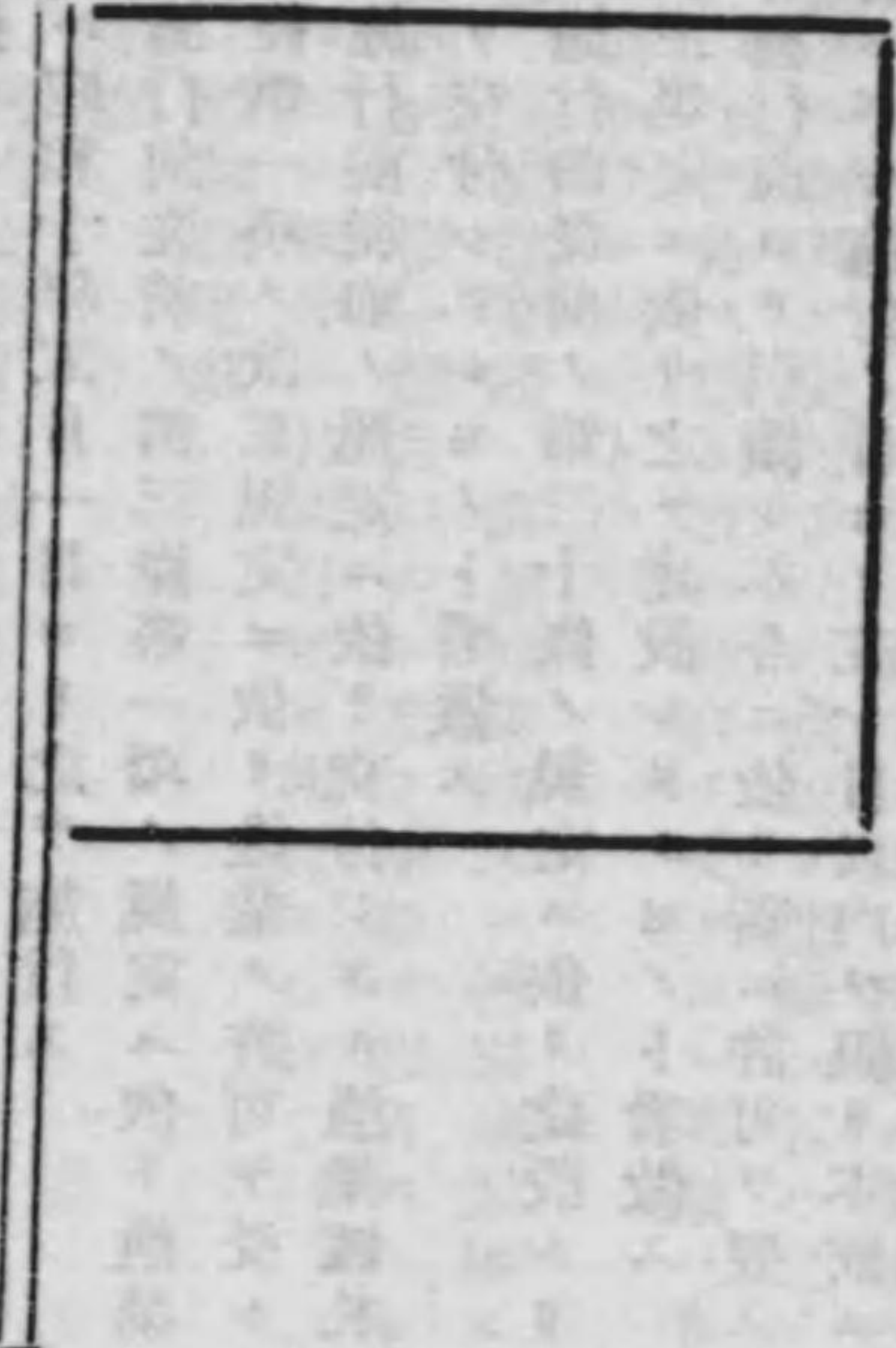
前項ノ期間内ニ漁業ノ許可ヲ出願シタルモノハ其ノ許可ノ處分ヲ受ケル迄ノ間亦前項ニ同シ

否ノ處分ヲ受ケル迄ノ間亦前項ニ同シ  
様式第一號 厚紙製  
十二間(約四寸)

第 號	漁業權者ノ住所	氏 名
一 漁業ノ名稱	住 所	氏 名
一 漁獲物ノ種類		
一 漁業ノ場所		
一 漁業ノ時期		
一 許可期間	年 月 日	縣 印
一 條件制限		



式第二號 九十一種(約三尺) 赤色



漁業法施行規則第五十條第一項 漁業名稱

- 漁業法施行規則第五十條第一項ノ漁業名稱左ノ通定ム
一 藻手練網漁業
二 藻打網漁業
三 藻曳網漁業
四 漕水器漁業
五 空釣鮟鱇漁業

改正漁業法施行後ニ於ケル水産 組合等監督其他ニ付注意事項

〔附則第八號〕

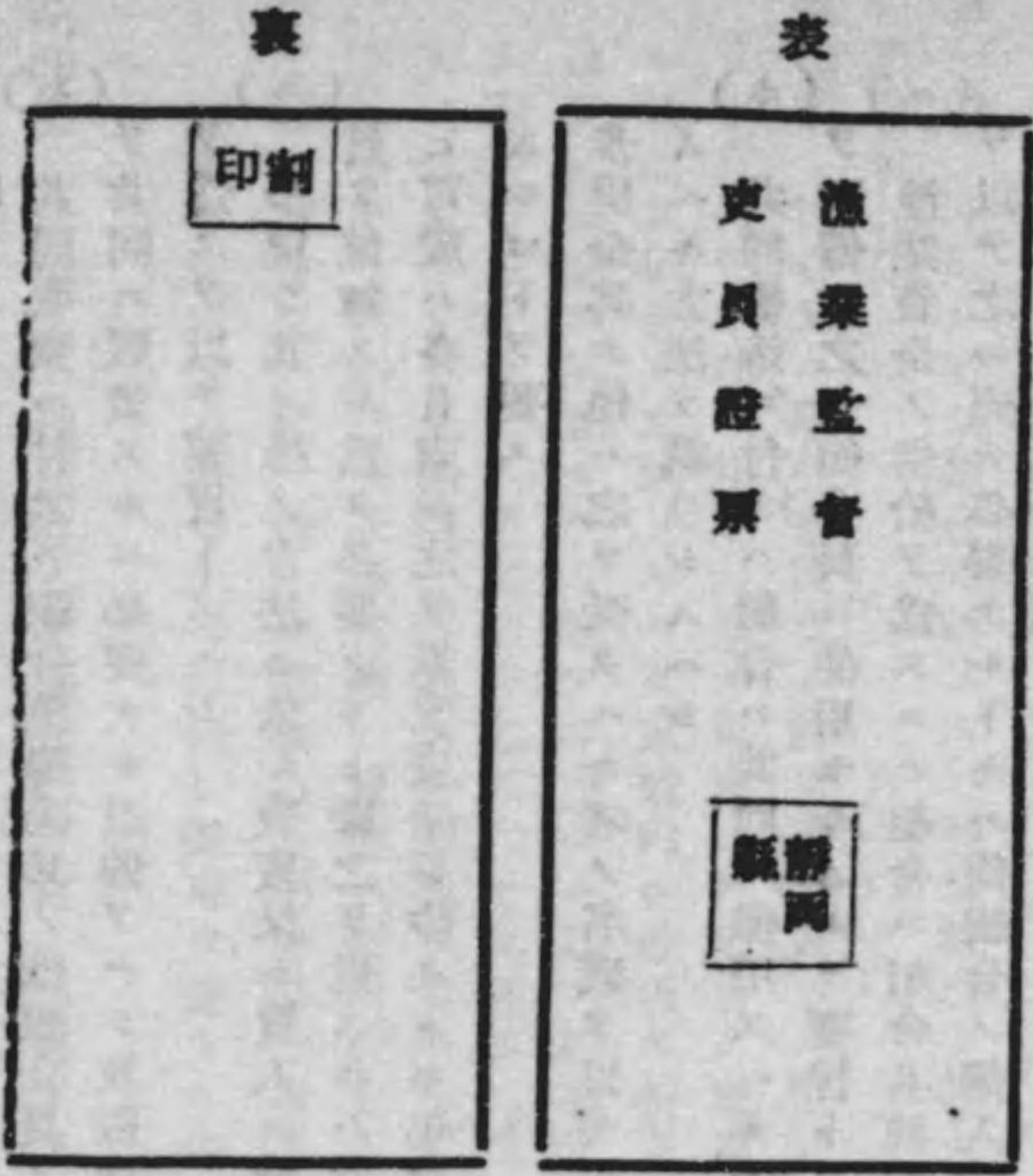
改正漁業法施行後ニ於ケル水産組合、漁業組合、同聯合會等ノ監督其他ニ付テハ率ホ左記事項ニ依リ其ノ施行上遺漏ナキヲ期スヘシ
一、漁業ニ關スル登録ハ當事者間ノ權利義務ニ關係シ最モ重要ナル事情ナルヲ以テ登録ヲ要スル事項ノ發生シタルトキハ遲滞ナク其ノ手續ヲ爲スヘシ
二、漁業免許ノ取消、免許漁業ノ制限停止ハ特ニ法律ニ規定セラレタル場合ノ外ハ之ヲ爲スコトヲ得サルヲ以テ當初該願書ヲ進達スルニ方リテハ水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他公益ノ利害並ニ組合内若ハ鄰接漁場等ニ於ケル故障ノ有無等ヲ調査シ相當意見ヲ副申セラルヘシ
三、漁業免許ノ存續期間ハ從來往々五年又ハ三年以内ノモノアリト雖公益其ノ他特別ノ理由ナキ限りハ新ニ漁業ノ免許ヲ出願スルト漁業權存續期間更新ノ免許ヲ出願スル場合トトハ充分ニ漁業經營ニ必要ナル期間ヲ與フヘキニ付キ其ノ旨心得出願セシメラルヘシ
四、漁業權存續期間ノ申請ハ其ノ漁場ニ於テ蕃殖保護公益其他ノ理由ニ依リ之ヲ免許スヘカラサル場合ヲ除クノ外可成其ノ申請者ニ免許セラレヘキ方針ナルヲ以テ申請書提出ノ際ハ之ヲ注意スヘシ
五、從來漁業者部落ノ有ニ歸スヘキモノニシテ一箇人ノ名義ヲ以テ漁業免許ヲ受ケタルモノアリト雖此等ハ漁業權存續期間ノ終了シタルトキ又ハ其ノ他適當ノ時期ニ於テ相當條件ヲ以テ漁業組合ニ讓渡セシムルノ方法ヲ講スヘシ
六、本縣漁業取締規則ヲ以テ蕃殖保護ノ目的ヲ以テ水産動植物ノ漁獲販賣又ハ所持ヲ制限シ若ハ禁止シタルモノハ其ノ要領ヲ魚市場魚揚場其ノ他水産動植物共同販賣ノ場所ニ揭示セシメ衆人ノ注意ヲ喚起スルト

明治四十四年三月三日 靜岡縣訓令甲第七號

四〇二

〔附則第八號〕

共ニ取締ノ周到ヲ期セシムヘシ
七、當廳ヨリ派出スル漁業監督吏員ニハ左ノ證據ヲ携帶セシムヘキニ付キ一般ニ之ヲ了知セシムヘシ
(用紙厚紙) 縦二寸、横一寸五分



八、漁業組合及漁業組合聯合會ノ發達ヲ圖ル目的ヲ以テ漁業法ハ勿論勸業銀行農工銀行及北海道拓殖銀行ニ關スル法律ニ重要ナル改正ヲ加ヘラレタルヲ以テ組合又ハ聯合會ノ共同施設事項ニ關シテハ別項指示スル所ニ從ヒ之ヲ指導監督ニハ更ニ一層ノ力ヲ加ヘラルヘシ
九、水産組合ノ業務ハ從來實行ノ之ニ伴ハサルモノアルヲ以テ地方ノ事情ニ應ジ水産業ノ改良發達ニ關シ適切ナル事項ヲ擇ハシムルハ勿論海外輸出水産製造品若ハ地方重要水産製造品ニ對スル検査、水産統計ニ

第十二編 勸業 第七章 水産

四〇三

關スル調査ヲ勵行セシメ又ハ漁業組合若ハ水産業者ノ組織スル產業組合ノ爲スヘキ業務ノ指導誘掖ヲ爲シ其ノ他講習若ハ講話ノ方法ニ依リ一般水産業者ヲシテ德義ヲ重セシメ其ノ智識ヲ開發セシムルニ努メラルヘシ
十、水産組合又ハ水産組合聯合會ニハ從來漁業ニ關シテ制限又ハ禁止ノ規約ヲ設ケルコトヲ得サリト雖今後ハ事體ノ輕クシテ且ツ組合員相互ノ間ニノミ於テ守ルヘキ制限事項ニシテ共同ノ利益ナルヘキモノニ限リ之レヲ規定シ得ルコトヲナラズ以テ其ノ趣旨ヲ了知セシムル樣措置セラルヘシ
十一、漁業組合及漁業組合聯合會ノ共同施設事項ニ付テハ組合ノ性質及組織ニ鑑ミ大要左ノ標準ニ依リ各漁村ノ情況ニ應ジ實行シ得ヘキ適切ナル事項ヲ先キニシ其ノ施設ノ多岐ニ涉ルノ弊ヲ戒メ苟モ過誤ナキヲ期シ漸次以テ完成ノ域ニ達セシムルノ方針ヲ執リ周到ナル監督ノ下ニ漁村トシテ堅實ナル發達ヲ遂ケシムルコトヲ期スヘシ
(イ) 施設事項ノ概目左ノ如シ
一、漁港波止場、船揚場、乾場、魚揚場、生洲貯水所其ノ他共同施設ニ必要ナル營造物ノ設置ニ關スルコト
二、人工漁礁ノ築設其ノ他漁場ノ利用ニ關スルコト
三、漁附林其ノ他漁業ニ關シ必要ナル森林ノ保護及設置ニ關スルコト
四、暴風雨警報ニ關スルコト
五、遭難救助及遺族救助ニ關スルコト
六、漁獲物又ハ漁獲物製品ノ共同販賣ニ關スルコト
七、漁獲物ノ共同製造ニ關スルコト
八、餌料其ノ他漁撈及漁獲物製造ニ要スル原料又ハ物品ノ共同購買



二 關スルコト

- 九、漁獲物漁獲物製品餌料其ノ他ノ共同運搬ニ關スルコト
- 十、漁業資本ノ供給ニ關スルコト
- 十一、貯金ノ獎勵ニ關スルコト
- 十二、組合員ノ訓育及啓蒙ニ關スルコト
- (ロ) 遭難救助及遺族救済ニ關スル方法ヲ設ケルトキハ之ニ要スル基金ノ積立テ支出及補充ニ關スル方法ヲ定メシムヘシ
- (ハ) 共同販賣ニ付テハ組合魚揚場其ノ他組合員ノ漁獲物又ハ其ノ製品ヲ共同ニ販賣スルニ必要ナル設備ヲナシ及販賣人ト買入人トノ仲介ヲ爲スヲ以テ要旨トスヘシ
- (ニ) 歩戻シ其ノ他ノ方法ニ依ル販賣又ハ買入ニ關スル獎勵方法ハ組合員ヲ鼓舞スル爲メ必要ナリト雖之ヲ爲スニハ常ニ明確ナル表示ヲ用ヒ可成ハ各月末ニ之ヲ算定表示シ少クトモ年二回ハ必ス之ヲ爲サシムルコトヲ要ス
- 歩戻金其ノ他ハ之ヲ受クヘキ者ノ名義ヲ以テ可成各自ノ貯金タラシムヘキ方法ヲ執ラシムヘシ
- (ホ) 共同製造ニ付テハ組合ハ共同ニ使用スヘキ製造所又ハ製造用器具ヲ設備シ之ヲ組合員ニ使用セシムルヲ要旨トスヘシ
- (ヘ) 漁業資金ノ供給ヲ爲スニハ組合ハ組合共同貯金其ノ他組合ノ資産ヲ以テ之ニ充テ必要ナルトキハ尙組合ノ借入金ヲ以テ之レニ充テシムヘキモ事業ノ程度及組合員ノ信用勤勉ニ注意シ資金回収ニ付確實ナル方法ヲ執ラシムヘシ
- (ト) 賣揚高ノ機部ヲ取纏メ其ノ他ノ方法ニ依リ組合員ノ貯金ヲ獎勵且ツ實行セシムルコトハ必要ナリト雖其ノ貯金ハ組合ニテ之ヲ預ラス直チニ組合員ノ名義ヲ以テ郵便貯金銀行其ノ他確實ナル預リ主ニ預

昭和十一年九月二十九日 靜岡縣令第三十一號

〔靜岡令四二號〕

漁業組合令施行細則左ノ通定ム

- 第一條 本則ニ於テ組合ト稱スルハ漁業組合ヲ聯合會ト稱スルハ漁業組合聯合會ヲ謂フ
- 第二條 組合又ハ聯合會設立ノ許可申請書ニハ組合ニ在リテハ漁業組合令第十五條第二項ノ規定ニ依ル書類ノ外組合ノ地區タルベキ區域ヲ明示スル圖面及組合ノ地區タルベキ區域内ニ住所ヲ有スル漁業者ノ各部落別數及組合設立ニ同意セザル者アルトキハ其ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ添附シ聯合會ニ在リテハ漁業組合令第六十九條第二項ノ規定ニ依ル書類ノ外其ノ地區タルベキ區域ヲ明示スル圖面ヲ添附シ正副二通提出スベシ
- 第三條 總會又ハ總代會ノ決議事項ハ閉會後七日以内ニ決議録ノ原本ヲ添ヘ知事ニ届出又ハ報告スベシ但シ認可ヲ要スル決議事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 第四條 總會又ハ總代會ノ決議録ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
  - 一 開會ノ日時及場所
  - 二 招集者ノ氏名、通知ノ事項及通知ヲ發シタル年月日
  - 三 組合員、會員又ハ總代ノ總數及出席者ノ員數(委任ニ依ル出席者アル場合其ノ數ヲ區別シテ記載スルコト)
  - 四 出席シタル役員ノ氏名
  - 五 會議ノ順序
  - 六 決議事項及之ニ對スル賛否ノ數
  - 七 閉會ノ日時

第十二編 勸業 第七章 水産

ケ入ルヘシ  
 漁業組合又ハ漁業組合聯合會ニ於テ負債ヲ起スノ認可申請書ヲ提出シタルトキハ起債ヲ爲スヘキ事由及償却ノ方法等ヲ調査詳細意見ヲ付シ進達セラルヘシ

漁業權ニ關スル出願申請ノ件

昭和十一年八月二十日 水第五四五號經濟部長通牒

市町村長宛

漁業法改正ニ伴ヒ組織設定ヲ爲シタル漁業組合ノ漁業ニ關スル出願申請等ニ付テハ往々不備ノ爲事務處理上支障ヲ來スコト不撓候條左記事項ニ付テハ特ニ御留意ノ上可然御指導相成度

- 一、漁業協同組合ノ漁業ノ免許又ハ漁業權ノ變更願書等ニ組合總會決議録ヲ添附スル場合ニ於テ漁業者ニ非ザル組合員アルトキハ其ノ決議録ニハ漁業者タル組合員ノ三分ノ二以上出席シ其ノ三分ノ二以上ノ同意アリタルコトヲ明記セシムルコト尙漁業者ニ非ザル組合員ナキトキニ於テモ其ノ旨ヲ明記セシムルコト
- 二、漁業權存続期間更新免許又ハ變更出願中ノモノ或ハ出願セントスル組合ニシテ組織設定ヲ爲シ組合名稱變更セルニ拘ラズ登録名義人表示ノ變更登録ヲ爲サザルタメ免許又ハ許可ニ當リ事務上支障アルモノ不撓ヲ以テ右ノモノニ付テハ特ニ登録手續ヲ速ニ完了セシムルコト

漁業組合令施行細則

- 漁業者ニ非ザル者ノ加入セル組合ニシテ漁業組合令第二十條第一項第三號第九號及第十號ニ掲ゲタル事項中漁業權又ハ入漁權ニ關スル事項並ニ第六號ノ二又ハ第八號ニ掲ゲタル事項ニ付決議アリタルトキハ前項第三號及第六號ニ掲ゲタル事項中組合員ノ總數、出席者ノ員數及贊成ノ數ハ漁業者タル組合員ト漁業者ニ非ザル組合員ヲ區分シテ之ヲ記載スベシ
- 第五條 組合又ハ聯合會規約變更ノ認可申請書ニハ漁業組合令第二十二條第三項ノ規定ニ依ル書類ノ外左ノ書類ヲ添附スベシ
  - 一 變更ノ理由書
  - 二 新舊條文ノ對照表
  - 三 出資一口ノ金額組合ニ在リテハ三十圓聯合會ニ在リテハ五百圓ヲ超ユルトキハ其ノ事由書
  - 四 組合員ノ有スベキ出資口數三十口、所屬組合及所屬聯合會ノ有スベキ出資口數百口ヲ超ユルトキハ其ノ事由書
  - 五 漁業組合令第五十條ノ七又ハ第五十條ノ九ノ規定ニ依リ組織ヲ設定又ハ變更セントスル場合ニ於テ組織ノ設定又ハ變更ニ同意セザル組合員アルトキハ其ノ數及同意セザル理由ヲ記載シタル書面
  - 六 地區擴張ノ場合ニ在リテハ擴張セントスル區域内ニ住所ヲ有スル漁業者ノ各部落別數並ニ擴張ニ同意セザル者アルトキハ其ノ數及同意セザル理由ヲ記載シタル書面
  - 七 縮少ノ場合ニ在リテハ縮少セントスル區域内ニ住所ヲ有スル漁業者タル組合員ニ付各部落別ニ其ノ數並ニ縮少ニ同意セザル者アルトキハ其ノ數及同意セザル理由ヲ記載シタル書面
  - 八 從前ノ地區ト擴張又ハ縮少セントスル區域トノ關係ヲ明示スル圖面
- 第六條 組合又ハ聯合會ノ合併又ハ分割ノ認可申請書ニハ漁業組合令第二十二條第三項ノ規定ニ依ル書類ノ外左ノ書類ヲ添附スベシ



一 合併又は分割ノ理由書

二 合併又は分割セントスル区域内ニ於ケル組合員ニ付各部落別ニ其ノ數並ニ合併又は分割ニ同意セザル者アルトキハ其ノ數及同意セザル理由ヲ記載シタル書面

三 漁業組合令第五十二條ノ二ノ場合ニ該當スル合併若ハ分割ニ付漁業組合令第五十條ノ七ノ同意ヲ爲サザル組合員アルトキハ其ノ數及同意セザル理由ヲ記載シタル書面

四 分割ニ因リ設立スル組合ガ承継スベキ權利義務ノ限度ヲ記載シタル書面

五 従前ノ組合ノ地区ト合併若ハ分割後存続スル組合又ハ合併若ハ分割ニ因リテ設立スル組合ノ地区タルベキ區域トノ關係ヲ明示スル圖面

第七條 組合又ハ聯合會ノ起債認可申請書ニハ起債理由書、決議録原本、決算書、最近ノ貸借対照表(收支決算書)事業計畫書、償還期間中ノ財政計畫書、財産目録ヲ添附スベシ

第八條 漁業組合令第二十條第一項ノ規定ニ依ル經費收支豫算又ハ經費ノ分賦収入方法ノ決議ハ事業年度開始一月前ニ之ヲ爲スベシ

前項經費分賦収入方法ノ認可申請書ニハ科目毎ニ其ノ分賦率及徵收期日ヲ明記シタル上經費收支豫算書及決議録原本ヲ添附スベシ

第九條 漁業組合令第二十五條第二項及第三項ノ規定ニ依ル書類ハ其ノ事業年度經過後二月以内ニ總會又ハ總代會ノ承認ヲ受クベシ

前項ノ書類ハ第二號及第三號様式ニ依リ其ノ開會ノ日ヨリ七日前ニ監事ニ之ヲ提示スベシ

漁業組合令第二十五條第五項ノ規定ニ依ル届出書類ニハ決議録ノ原本ヲ添ヘ總會又ハ總代會閉會ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ爲スベシ

第十條 基金ヲ支出シ又ハ之ヲ利用セントスルトキハ其ノ目的、金額及事

〔附則令四〇號〕

之ヲ知事ニ報告スベシ

第十八條 組合又ハ聯合會ガ資金ノ借入ヲ爲シ又ハ之ヲ償還シタルトキハ七日以内ニ知事ニ報告スベシ

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ事由ヲ具シ遅滞ナク之ヲ知事ニ届出ズベシ

一 理事漁業組合令第二十三條ノ規定ニ依リ専決處分ヲ爲シタルトキ

二 漁業法第四十三條ノ二第一項第三號若ハ第四號ノ事業ヲ開始シ又ハ事業ヲ休止シタルトキ

三 訴訟事件ノ當事者トナリ又ハ訴訟事件確定シタルトキ

四 監事漁業組合令第三十八條ニ依リ理事ノ職務ヲ行フニ至リタルトキ

五 理事ノ更迭後二週間ヲ經過スルモ仍事務引繼ヲ了スルコト能ハザルトキ

第二十條 出資第一回ノ拂込ハ設立ノ許可書又ハ漁業組合令第五十條ノ九第一項若ハ第二項ノ場合ニ關スル規約變更認可書ノ到達シタル日ヨリ三週間以内ニ之ヲ爲スベシ但シ特別ノ事由ニ因リ知事ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條 處務規定其ノ他ノ規程ヲ設ケタルトキハ第三條ノ規定ニ拘ラズ遅滞ナク之ヲ知事ニ報告スベシ

第二十二條 組合又ハ聯合會ノ事務所ニハ其ノ名稱ヲ記載シタル標札ヲ掲グベシ

第二十三條 農林大臣及知事ニ提出スベキ書類ハ市町村長ヲ經由スベシ但シ漁業組合令第五十條ノ規定ニ依ル裁決ノ申請ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

農林大臣ニ提出スベキ書類ハ副本ヲ添附スベシ

第二十四條 組合又ハ聯合會ノ書類ハ左ノ分類ニ準ジ之ヲ整理保存スベシ

由ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ認可申請書ニハ總會又ハ總代會ノ決議録原本ヲ添附スベシ

第十一條 組合又ハ聯合會ノ解散ノ認可申請書ニハ漁業組合令第二十二條第三項ノ規定ニ依ル書類ノ外解散理由書、解散決議當時ニ於ケル財産目録、貸借対照表及政府融通資金ヲ借入タル場合ハ各資金別、未償還金額及償還計畫ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

第十二條 漁業組合令第三十二條第三項又ハ第七十一條第二項但書ノ規定ニ依ル理事又ハ監事ノ選任認可申請書ニハ決議録ノ原本、履歴書及選任ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

第十三條 漁業協同組合又ハ漁業協同組合ニ非ズシテ漁業法第四十三條ノ五ノ組織ヲ有スル組合及聯合會ハ毎月末第三十八號様式ニ依リ試算表ヲ作製シ之ヲ事務所ニ備ヘ置クベシ

前項ノ規定ニ依リ作製シタル四月末及九月末現在ノ試算表ハ翌月十日迄ニ知事ニ報告スベシ

第十四條 監事ハ毎年三回以上監査ヲ爲シ其ノ狀況ヲ第四十號様式ノ監査簿ニ記入シ且之ニ捺印スベシ

第十五條 組合長、會長又ハ會計理事更迭シタルトキハ退任ノ日ヨリ二週間内ニ事務引繼書ヲ作成シ重大ナル事件ニ關シテハ意見ヲ附シタル上監事立會ノ下ニ後任者ニ引繼ヲ爲スベシ

事務引繼ヲ終リタルトキハ雙方連署ノ上其ノ旨直ニ知事ニ報告スベシ

第十六條 漁業組合令第四十一條ノ規定ニ依ル届出ハ登記シタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ爲スベシ

第十七條 組合產業組合ニ加入又ハ脱退セントスルトキハ總會ノ決議ヲ經組合產業組合ニ加入又ハ脱退シタルトキハ決議録原本ヲ添附シ遅滞ナク

一 規約及諸規程

二 總會又ハ總代會ノ決議録及關係書類

三 貸借対照表、經費ノ收支決算書、剰餘金ノ處分書、財産目録及事業報告書

四 經費ノ收支豫算書及分賦収入方法ニ關スル書類

五 申請、報告及届出ニ關スル書類

六 組合員加入脱退及出資ニ關スル書類

七 收入證憑書類

八 支出證憑書類

九 一般往復文書

十 會計ニ關スル往復文書

十一 其ノ他

第二十五條 組合ノ組合員名簿聯合會ノ會員名簿ハ第一號様式ニ依リ作製スベシ

第二十六條 組合又ハ聯合會ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ事件發生ノ都度之ニ記録スベシ

一 經費徵收簿 第四號様式

二 經費收入簿 第五號様式

三 經費支出簿 第六號様式

四 現金出納簿 第七號様式

五 郵券受納簿 第八號様式

六 滯納金整理簿 第九號様式

七 基金、積立金及準備金彙帳 第十號様式

八 不動産彙帳 第十一號様式

九 有價證券彙帳 第十二號様式



























設 項	數量又ハ員數	備 設備見積價額	備 利用程度	備 利用料收入額	備 利用料未收額	備 考
合計						
小計						
何々						
經濟用 繩機						
小計						
何々						
合計						

(二) 利用料滞納額

事 項	前年度末現在	本年度内回収額	本年度内滞納額	本年度末現在	備 考
漁業用					
經濟用					
合計					

(注意) 利用施設トハ例ヘバ物ノ貸付、加工、運搬又ハ保藏ニ關スル施設ヲ謂フ

四、資金供給施設

(一) 貸付金(當座貸越金ヲ除ク)聯合會ノ場合ハ手形ノ割引ヲモ除ク)及其ノ償還

[附則令四〇號]

[附則令四〇號]

事 項	前年度末現在	本年度内貸付	本年度内償還	本年度末現在	備 考
無擔保					
有擔保					
合計					

(注意) 一、物上擔保貸付ニ非ザル貸付ハ無擔保貸付中ニ算入スルコト

二、脱退者ニ對スル貸付金ニシテ未ダ償還ヲ受ケザルモノヲ包含スル場合ニハ其ノ件數及金額ヲ備考欄ニ記載スルコト

三、貸付金ニシテ償却シタルモノハ其ノ件數及金額ヲ備考欄ニ記載シ年度内償還欄ニハ包含セシメザルコト

(二) 當座貸越金及其ノ償還、該表ハ(一)ニ準ズルコト

(三) 手形ノ割引及其ノ決済(聯合會ノミ)

事 項	前年度末現在	本年度内割引	本年度内決済	本年度末現在	備 考
約束手形					
爲替手形					
合計					

(四) 年度内用途別貸付金



事項	漁業用	經濟用	貸付金		備
			件數	金額	
計					
前年度末現在					
年度内償還額					
年度内滞貨額					
本年度末現在					
備					
考					

(五) 貸付金滞貨額

事項	漁業用	經濟用	貸付金		備
			件數	金額	
計					
前年度末現在					
年度内償還額					
年度内滞貨額					
本年度末現在					
備					
考					

(六) 貸付金利率控制引歩合

事項	最高	普通	最低	貸付金利率		備
				利率	引歩合	
計						
前年度末現在						
年度内償還額						
年度内滞貨額						
本年度末現在						
備						
考						

五、貯金ノ受入施設

〔附則令四二號〕

〔附則令四〇號〕

事項	組合員ノ貯金 組合員ト同一ノ家ニ 在ル者ノ貯金	豫約者ノ貯金	貯金ノ受入及拂戻		備
			件數	金額	
計					
前年度末現在					
年度内受入					
年度内拂戻					
年度末現在					
備					
考					

(二) 種類別貯金ノ受入及拂戻

事項	當座貯金	特別當座貯金	定期貯金	預置貯金	何	貯金ノ受入及拂戻		備
						件數	金額	
計								
前年度末現在								
年度内受入								
年度内拂戻								
年度末現在								
備								
考								



(三) 貯金利率

事項	當座貯金	特別當座貯金	定期貯金	据置貯金	何々	備考
最高						
普通						
最低						

六、漁業法第四十四條ノ二第一項ノ規定ニ依リ爲シタル債務保證(漁業組合聯合會ノミ)

計	保證先	前年度末現在		本年度保證		本年度解除		本年度末現在		備考
		聯合會數	金額	聯合會數	金額	聯合會數	金額	聯合會數	金額	
			圓		圓		圓		圓	

七、産業組合中央金庫法第二條第三項ノ規定ニ依リ爲シタル代理業務(漁業組合聯合會ノミ)

(一) 貸付金

計	事項	前年度末現在		本年度貸付		本年度償還		本年度末現在		備考
		聯合會數	金額	聯合會數	金額	聯合會數	金額	聯合會數	金額	
			圓		圓		圓		圓	

(野田令四〇號)

(野田令四〇號)

(二) 手形ノ割引

計	事項	前年度末現在		本年度割引		本年度決済		本年度末現在		備考
		聯合會數	金額	聯合會數	金額	聯合會數	金額	聯合會數	金額	
			圓		圓		圓		圓	

(三) 貯金

計	事項	前年度末現在		本年度受入		本年度拂戻		本年度末現在		備考
		聯合會數	金額	聯合會數	金額	聯合會數	金額	聯合會數	金額	
			圓		圓		圓		圓	

八、組合員タルヲ得ザル者ノ利用ニ付テハ右様式ニ準ジ別ニ之ヲ作成スルコト

(備考)

漁業協同組合ニ非ザル漁業組合及漁業組合聯合會ニ付テハ本様式ニ準ジテ之ヲ作成スルコト

第三號様式 決算表

一、損益計算書

科	利	目	金額	益	科	損	目	金額	失







科	目	摘要	金額
未拂込	出資金	何々口	
受託販賣品	掛賣金	内課別紙ノ通	
受託販賣假渡	金	何々件	
購買品	掛賣金	内課別紙ノ通	
購買品	買金	同	
貸付	金	同	
預金		何々銀行何預金	
有價證券		何々證券何枚	
漁業		免許第何號何漁業權	
土地		何々用地 何坪	
建物		何々用建物 何坪	
船舶		何々用船舶船材 何噸何馬力	
備品		何々其ノ他何點	
聯合會	出資金	何々口	
產業組合	中央金庫出資金	何々口	
合計			

〔附合四〇號〕

〔附合四〇號〕

現	負債	合計	金額
借入	金	内課別紙ノ通	
貯金		同	
受託販賣品	未拂代金	同	
購買品	掛買金	同	
聯合會	未拂込出資金	何々口	
產業組合	中央金庫未拂込出資金	何々口	
未拂		何々未拂金	
減價	却賣金		
何々			
合計			

四、貸借對照表











第十二編 勸業 第七章 水産

四〇八ノ二〇

年	月	日	積立	高	處分	高	現在	高	摘
			圓		圓		圓		要

備考 各種類毎ニ口座ヲ設クルコト  
積立、處分ノ基礎ヲ記載スルコト

第十一號様式 不動産臺帳

一、土地ノ部

取得年月日	用途	所在地	地目	段別坪數	貸賃價格	價格	摘
							要

二、建物ノ部

取得年月日	用途	所在地	種類	坪數	價格	現在價格	摘
							要

備考 減價償却等ニ依リ現在價格ニ異動アリタル場合ハ其ノ年度及理由ヲ摘要欄ニ記載スルコト

三、漁業權ノ部

種	類	免許	香	號	免許年月日	漁場	名	摘
					期間満了年月日			要

〔附則令八號〕

〔附則令八號〕

第十二號様式 有價証券臺帳

備考 種類欄ニハ専用、定置、區別、特別漁業權ノ種類ヲ記入スルコト

記	號	番	號	額面又ハ標記額	種類	取得年月日	摘
							要

第十三號様式 備品臺帳

備考 種類欄ニハ國債證券、地方債證券、株券名ヲ記載スルコト

取得年	月	日	品名	數	量	取得價格	現在價格	摘
								要

第十四號様式 負債臺帳

備考 減價償却等ニ依リ現在價格ニ異動アリタル場合ハ其ノ旨摘要欄ニ記載スルコト

起債許可年月日	借入金額

第十二編 勸業 第七章 水産

四〇八ノ二一



















第三十五號様式 仕切帳  
備考 買受人毎ニ口座ヲ設クルコト

月	日	賣上高	控除金	差引仕切高	累計残高	備考
			歩金 預金 合計			

第三十六號様式 賣上仕切日計簿  
備考 販賣者毎ニ口座ヲ設クルコト

月	日	賣上高	手數料額	歩戻額	預り額	代金支拂額	代金實支拂額	代金實收入額	備考

- 備考 一、販賣事業ニ付毎日ノ總數ヲ記入スルコト  
 二、事業ノ種別毎ニ口座ヲ設クルコト  
 三、賣込人ノ手數料額、歩戻額、預り額、代金支拂額ノ合計ハ賣上高ト符合スルヲ要ス  
 四、毎月末ニ月計、累計ヲ朱記スルコト

〔附則令八號〕

第三十七號様式 假渡金整理帳

〔附則令八號〕

月	日	氏名	摘要	金額	利息	備考
					日數金 月日 精算額	

第三十八號様式 假受金(一時預り金)整理帳  
備考 摘要欄ニハ引當品別等ヲ記入スルコト

月	日	氏名	摘要	金額	備考
					月日 精算額

第三十九號様式 設備利用帳

月	日	利用者氏名	摘要	利用期間	利用料	利息	備考
					月日 金料受入額		







### ●漁業組合経費豫算編成ニ關スル件

昭和四年十一月十四日  
水第八三七號内務部長通牒

漁業組合所在市町村長宛

從來漁業組合経費收支豫算ヲ觀ルニ經費ノ大部分ヲ事務所費ニ充當シ事業費ノ計上極メテ少額ナルモノ或ハ漁業料ノ收入アル漁業組合ニ於テ基金其他ノ積立金極メテ少ク且事業費ニ對シテモ少額ノ經費ヲ支出スルニ過キサルニ拘ラス豫算中組合員分配金ノ項ヲ設ケ比較的多クノ分配ヲ爲シ又ハ村費教育費其他直接漁業ニ關係ヲ有セサル向ニ對シ多額ノ寄附ヲ爲ス組合有之右ハ組合經營上適當ナル方法ニ在ラサルノミナラス組合ノ基礎ヲ鞏固ニシ健全ナル發達ヲ遂ゲシムルノ所以ニアラスト認メラレ候條特ニ御注意相成度是等經費ハ可成組合ノ漁業ニ關スル共同施設ノ爲メ支出スルカ若ハ基金トシテ積立ツル等可然有用ナル費途ニ支出シ尙餘裕ヲ生シ組合員ニ分配スル場合ニ於テモ組合規約ノ成條ニ照シ豫算ニ分配金ノ款項ヲ設ケス收入支出ノ差引ニ於テ剩餘金トシテ分配スヘキモノニ付豫算編成ニ際シ篤ト御留意方貴部内閣係漁業組合ヘ御示達相成度

〔辨別令八號〕

### ●漁業資金ニ關スル件

昭和九年十一月二十日  
産第一六八八號内務部長通牒

先般ノ法令改正ニ依リ漁業組合カ産業組合ニ加入シタルモノニ對シ産業組合中央金庫カ左記要項ニ依リ資金ノ融通ヲ爲スコトニ相成候趣ニ付關係者ニ周知方御取計相成度

〔辨別令一七號〕

#### 漁業資金貸出取扱要項

- 一、資金ノ用途ハ左ノモノニ限ルモノトス
  - 1、漁網漁具購入資金
  - 2、漁業用燃料油其他漁業用品購入資金
  - 3、養殖用飼料及材料資金
  - 4、共同販賣運轉資金
  - 5、小型動力付漁船建造資金
  - 6、水産製造資金
  - 7、漁肥製造資金
- 二、貸出ノ方法
- 原則トシテ道府縣信用組合聯合會ノ保證ニ依ルモノトス  
道府縣信用組合聯合會ヨリ其ノ所屬組合又ハ聯合會ニ轉貸スル資金ハ當金庫ヨリ同聯合會ニ貸出スモノトス
- 三、貸出ノ期間及形式
- 1、漁網漁具ノ購入資金ハ一ケ年以内トス  
百八十日以内ノ手形貸付トシ必要ニ依リ内入金ヲ爲サシメ切替ニ應スルモノトス
  - 2、漁業用燃料油其他漁業用品ノ購入資金ハ九十日以内ノ手形貸付トシ漁期毎ニ償還セシムルモノトス
  - 3、養殖用飼料及材料資金ハ一ケ年以内トス  
百八十日以内ノ手形貸付トシ必要ニ依リ内入金ヲ爲サシメ切替ニ應

第十二編 勸業 第七章 水産

スルモノトス

- 4、共同販賣運轉資金ハ九十日以内ノ手形貸付トシ必要ニ依リ書替ニ應スルモノトス
  - 5、小型動力付漁船建造資金ハ三ケ年以内ノ證書貸付トス
  - 6、水産製造資金ハ九十日以内ノ手形貸付トス
  - 7、漁肥製造資金ハ九十日以内ノ手形貸付トス
- 四、利率及手数料  
金庫ノ貸出利率及信用組合聯合會ニ對スル手数料ハ普通資金ト同率トス
- 五、條件  
産業組合ニ於ケル本資金ノ貸付ハ原則トシテ漁業組合ヲ通スルモノトシ漁業組合ニ於ケル共同販賣代金ヨリ控除償還スルコトヲ條件トスルモノトス  
本資金ノ融通ヲ受クヘキ漁業組合ノ役員ハ産業組合ヨリ當金庫ヘ差出スヘキ借入金證書ニ個人ノ資格ヲ以テ保證ヲ爲スモノトス
- 六、借入申込書  
1、借入申込書  
2、最近ノ試算表、最近三ケ年ノ事業報告書及定款(但シ既ニ提出済ノモノハ重複テ送付ヲ要セサルニ付何年何月提出ノ旨附記セラレタキコト)
- 3、産業組合ヨリ貸出ヲ爲スヘキ漁業組合調及本資金用途調(別記様式ニ依ル)
- 別記  
一、漁業組合調  
一、名稱



- 一、設立年月
- 二、區域
- 三、積立金
- 四、出資一口金額
- 五、出資一口ニ對スル保證金額
- 六、借入金
- 七、借入金ノ内譯
- 八、借入金ノ用途
- 九、最近三ヶ年間ニ於ケル年度別ノ事業狀況
- 十、共同販賣ノ賣上高
- 十一、共同販賣ノ購買高
- 十二、共同購入ノ購買高
- 十三、其ノ他事業ノ概要
- 十四、本資金ノ用途
- 十五、漁網漁具ノ種類、數量及購入價額
- 十六、漁業用燃料油ノ數量及購入價額並購入先
- 十七、漁業用品ノ種類及購入價額
- 十八、養殖用飼料及材料ノ種類購入價額並事業目論見書(事業見込)
- 十九、共同販賣運轉資金ハ前年度ニ於ケル漁業組合ノ月別ノ販賣金額
- 二十、小型動力付漁船建造資金ハ各船毎ニ其ノ噸數馬力及建造費ノ内譯(船體ト發動機ニ区分スルコト)
- 二十一、水産製造資金及魚肥製造資金ハ製造物ノ種類、豫定數量、見込價額及販賣狀況

### 漁業組合狀況報告ノ件

昭和二年七月十四日  
商第一四四二號内務部長通牒

〔附合令一七號〕

貴部内漁業組合毎年度末狀況左記様式ニ依リ御調査翌年七月末日限り報告相成度

追テ昭和元年度分ニ限り八月十五日迄ニ御報告相成度申添候

漁業組合狀況調(昭和 年度)

組合員數	組合員數	積立基金	總額負債	共同施設事業概況
名	名	基金以外計	共同販賣取扱金高	
支	出	總額	手數料額	
出	入			
額	額			

- 備考
- 一、經費決算支出額ハ當該年度ノ分ヲ掲記シ難キモノハ最近年度ノ分ヲ掲記スヘシ
  - 二、積立金總額及負債總額各年度ヲ通シタルモノニ當該年度末分ヲ加算シタル現在額ヲ掲記スヘシ
  - 三、共同施設事業概況ハ現ニ實施シタル事業ニ付左記要項ニ依リ掲記スヘシ
  - 四、共同施設事業ノ中止又ハ廢止シタルモノアルトキハ組合別ニ事業ノ種類及其事由ヲ表示ヲ掲記スヘシ
- 共同施設事業概況記載要項
- 事業別記載要項

〔附合令四〇號〕

漁業組合ノ役員任期未タ滿了セサルニ先チ之カ改選ヲ爲スコトハ同時ニ現役員ノ解任決議ヲ爲シタル場合ノ外改選登記ノ有無ニ拘ラス無効トス但シ任期滿了ニ接者セル總會又ハ總代會ニ於テ任期滿了ヲ俟テ就任スルコトヲ條件トシテ爲ス改選ハ已ムヲ得サルモノト認ム此ノ場合ニ於テ其ノ任期ハ前任者ノ任期滿了ノ翌日ヨリ起算スルモノトス

### 漁業組合資材配給職員設置獎勵金交付規程

昭和十四年三月十一日  
靜岡縣告示第二百十五號

- 漁業組合資材配給職員設置獎勵金交付規程左ノ通定ム
- 第一條 漁業組合資材配給職員設置獎勵金交付規程
  - 第二條 漁業組合資材配給職員設置獎勵金交付規程ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ特ニ知事ノ必要ト認メタルモノニ對シ獎勵金ヲ交付ス
  - 第三條 獎勵金ノ額ハ俸給年額ノ二分ノ一以內トシ其ノ俸給年額ハ平均六百六十拾圓ヲ超エザルモノトス
  - 第四條 第一條ノ設置漁業組合ニ於テ職員二名以上設置シタル場合ハ其ノ内一名ニ對シ獎勵金ヲ交付ス但シ特別ノ必要アル場合ハ二名以內ニ於テ之ヲ交付スルコトアルベシ
  - 第五條 獎勵金ノ交付ヲ受ケベキ職員ノ資格ハ左記各號ノ一ニ該當シ其ノ俸給月額四拾圓以上タルコトヲ要ス
  - 第六條 尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年以上ノ水産學校又ハ同等程度ノ中等學校ヲ卒業シタル者
  - 第七條 水産ニ關スル專門學校又ハ之ト同等以上ノ學校ヲ卒業シタル者
  - 第八條 其ノ他知事ノ認定シタル者
  - 第九條 獎勵金ノ交付ヲ受ケントスルモノハ様式第一號ノ申請書ニ職員設置經費收支豫算並該職員ノ履歷書ヲ添ヘ四月末日迄ニ提出スベシ但シ前年度ニ於テ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル職員ヲ繼續設置ノ場合ハ其ノ旨備考

四〇八ノ三六ノ一

### 漁業組合令ノ疑義ニ關スル件

昭和三年四月四日  
水第二五七號内務部長通牒

無記ノ件富山縣知事ヨリ左記甲號ノ通其筋ヘ伺出ノ處今般乙號ノ通同答相成候趣其筋ヨリ通牒有之候ニ付御部内關係ノ向ヘ周知方御取計相成度

甲號 漁業組合役員ノ任期未タ滿了セサルニ之ヲ改選登記ヲ爲シタルモノハ有  
效ナリヤ亦右改選ヲ前任者ノ任期滿了ヲ俟テ就任スルノ條件ヲ以テ爲シ  
タリトセハ任期ノ起算點如何

乙號

第十二編 勸業 第七章 水産



一 記載シ履歴書ハ之ヲ省略スルコトヲ得  
 第六條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル漁業組合ノ職員ニ異動ヲ生ジタル場合ハ  
 運送ナク其ノ旨報告スベシ但シ新ニ職員ヲ任命セントスル場合ハ履歴書  
 ヲ添附シ兼メ知事ノ承認ヲ受ケルベシ  
 第七條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタルモノハ翌年五月末日迄ニ様式第二號ニ依  
 ル經費收支決算書及様式第三號ニ依ル事業成績報告書ヲ提出スベシ  
 第八條 職員ノ俸給支拂額ガ著シク減少シタルトキ又ハ成績不良ト認め  
 ルトキ若ハ不都合ノ原因アリタルトキハ獎勵金ノ一部又ハ全部ノ返納ヲ命  
 ズルコトアルベシ

附則

本規程ハ昭和十四年一月一日ヨリ之ヲ適用ス  
 昭和九年六月靜岡縣告示第六百四十三號漁業技術員設置獎勵金交付規程ハ昭  
 和十三年十二月三十一日限り之ヲ廢止ス  
 従前ノ漁業技術員設置獎勵金交付規程ニ依リ昭和十四年一月一日ヨリ昭和  
 十四年三月三十一日迄ノ設置費ニ對シ交付シタル獎勵金ハ本規程ニ依リ之  
 ヲ爲シタルモノト看做ス

資材配給職員設置獎勵金交付申請書

職員氏名	採用年月日	資格	月俸額	擔當事業	備考

右昭和 年度ニ於テ資材配給職員設置致候ニ付獎勵金御交付相成度豫  
 算書並履歴書添附此段及申請候也  
 年 月 日  
 職 氏 名 印

様式第二號 資材配給職員經費收支決算書

職員氏名	種別	俸給收入		俸給支出		備考
		額	何	額	比較増減理由	
		勤勞金	何	決算額	比較増減	
		負擔純計		増減理由		

昭和 年度資材配給職員經費收支決算書右ノ通ニ有之候條此段及報告候也  
 年 月 日  
 職 氏 名 印

様式第三號 資材配給職員設置成績報告書

職員氏名	種別	勤務状況		配給事業ノ概要	同上經費
		格	期間内勤外勤缺勤		

昭和 年度資材配給職員設置ニ關スル成績ノ大要右ノ通及報告候也  
 年 月 日  
 職 氏 名 印

●靜岡縣漁船保險組合加入促進協議會規程

昭和十三年九月一日 靜岡縣告示第七百五十一號

〔靜岡令四〇號〕

靜岡縣漁船保險組合加入促進協議會規程左ノ通定ス

- 第一條 漁船保險組合ノ加入促進ヲ圖ル爲メ靜岡縣漁船保險組合加入促進協議會ヲ設置ス
- 第二條 協議會ハ漁船保險加入ノ促進ニ關スル事項ヲ協議ス
- 第三條 協議會ハ會長及委員若干名ヲ以テ組織ス
- 第四條 會長ハ經濟部長ヲ以テ之ニ充テ委員ハ知事之ヲ命シ又ハ委嘱ス
- 第五條 會長ハ會務ヲ總理シ會議ノ議長トナル
- 第六條 協議會ニ幹事若干名ヲ置キ知事之ヲ命ス
- 第七條 協議會ニ書記ヲ置キ知事之ヲ命ス
- 第八條 協議會ニ書記ヲ置キ知事之ヲ命ス

●靜岡縣漁船保險組合加入促進協議會旅費支給規程

昭和十三年九月一日 靜岡縣告示第七百五十二號

- 第一條 靜岡縣漁船保險組合加入促進協議會旅費支給規程左ノ通定ス
- 第二條 靜岡縣漁船保險組合加入促進協議會會長、委員、幹事、書記委員會ノ用務ニ付旅行シタル場合ハ本規程ノ定ムルトコロニ依リ旅費ヲ支給ス
- 第三條 官吏、官吏待遇者ニシテ委員、幹事、書記タル者ニ對シテハ其ノ官職相當額ニ依リ、支給方法ハ内閣旅費支給規程ノ例ニ依ル

第十二編 第七章 水産

第三條 前條以外ノ委員ニ對シテハ前條ノ例ニ依リ左表ノ額ノ旅費ヲ支給ス

日當(一日)	宿泊料(一夜)	車馬賃(一里)	鐵道賃
貳圓	參圓五拾錢	參拾五錢	汽船賃
			二等運賃

●漁業經營費低減補助金ニ關スル件

昭和十三年六月二十八日 水第五四六號經濟部長通牒

市町村長宛

昭和十三年六月十日附農林省令第二十三號ヲ以テ漁業經營費低減補助金交付規則改正相成候處右ノ燃油價ノ著シキ昂騰ニ伴ヒ本年度新ニ補助金ヲ増額シ從來ノ施設ノ外新ニ漁業用燃油ノ共同購入又ハ購入斡旋ニ要スル費用、其他漁業者ノ購入費低減ノ爲ニ要スル費用、漁業用水ノ製造設備、漁獲物市況通報及配給状況調査費、漁船修理設備及漁船ノ機關修理、巡回技術員設置費等ニ對シ助成シ漁業經營費ノ低減ニ關スル各種施設ヲ獎勵スルト共ニ從來ノ規定ニ若干ノ修正ヲ加ヘ以テ中小漁業者ノ負擔輕減ニ資セントスル次第ニ有之候條右趣旨篤ト御了知ノ上漁業組合其ノ他關係ノ向ニ周知方可能御取計相成度尙補助金交付ニ付テハ爾今左記ニ依リ處理セラル、コト、相成候條御含ミノ上右ニヨリ御取扱相成度

- 第一 一般事項
- 一 補助金交付ノ申請書提出アリタルトキハ地方長官ハ申請書及添附書類ニ關シ調査ヲ爲シ不備ノ點アラバ之ヲ補正ヲサシメタル上意見ヲ具シ之ヲ農林大臣ニ進達スルコト



- 二 事業目録見書又ハ事業計畫書、豫定經費明細書又ハ收支決算書並ニ仕様書及圖面又ハ設計書ハ補助金交付申請書ニ添付スルモノノ外尙副本一通(交付ヲ受ケントスル補助金ノ額三千圓ヲ超ユル場合ニ在リテハ二通)ヲ添付スルコト
- 三 補助金交付ノ申請書ハ規則第二條第一號乃至第九號ニ掲グル施設毎(第四號ニ掲グルモノハ其ノ設備毎)ニ之ヲ作成スルコト但シ同一漁船ニ付同條第二號及第三號ノ補助金ヲ併セ受ケントスル場合ニ限リ申請書ハ各別ニ作成スルコトヲ要セザルコト
- 四 申請書ニシテ二以上ノ申請ヲ爲ス場合ニ在リテハ各申請書ニ其ノ旨ヲ附記スルコト
- 五 申請書並ニ規則第五條第一項及第二項ノ添附書類ハ様式第一號乃至第五號ニ依リ之ヲ作成シ様式ヲ示サザルモノニ在リテハ之ニ準ジテ作成スルコト
- 六 規則第三條第三項ノ規定ニ於テ農林大臣ノ適當ト認ムル團體トハ當該地方ノ事情ニ依リ漁業組合聯合會ヲ認ムルモノナルコト
- 七 規則第二條第一號乃至第三號ニ關スル事項
  - 一 型年度中ニ於ケル補助金交付申請見込ノ概要ヲ毎年三月三十一日迄ニ農林大臣ニ報告スルコト
  - 二 補助金ヲ受クベキ漁業用重油發動機ハ左ノ條件ニ該當スルコトヲ要スルコト
    - (一) 五百馬力以下ノ馬力ノ機關タルコト
    - (二) 三十馬力未滿ノ馬力ノ機關ニ在リテハ機玉機關又ハ「サーセル」機關タルコト
    - (三) 三十馬力以上ノ馬力ノ機關ニ在リテハ「サーセル」機關タルコト但

- シ昭和十四年度末迄ハ百馬力以下ノ馬力ノ機關ニ在リテハ農林省ニ於テ成績良好ト認メタル機玉機關タルコトヲ得ルコト
- (四) 三十馬力未滿ノ馬力ノ機玉機關及三十馬力以上百二十馬力以下ノ馬力ノ「サーセル」機關ニ在リテハ昭和十五年以後ニ於ケル農林省ニ於テ適當ト認ムル一定ノ規格ノモノタルコト昭和十七年度以後ニ於テ百二十馬力ヲ超ユル馬力ノ「サーセル」機關ニ付亦同シ
- 三 漁船ノ推進能率増進ノ爲メ船首部及船尾部ノ新造又ハ改造ハ船型若ハ舵ノ改良又ハ「フイジン」ノ取付トスルコト但シ木製漁船ニ在リテハ船ノ長さ二十七・五米ヲ超エザルモノニ限ルコト
- 四 補助金ハ左ニ掲グル順位ニ依リ之ヲ交付スルコト
  - (一) 機關ニ付テハ馬力ノ小ナルモノヲ先ニシ且當分ノ内農林省ニ於テ適當ト認ムル一定ノ規格ニ適合スルモノヲ先ニスルコト
  - (二) 漁船ニ付テハ當分ノ内農林省ニ於テ適當ト認ムル設計ニ適合スルモノヲ先ニスルコト
- 三 漁業組合及漁船保險組合ノ組合員ノ出願ヲ先ニスルコト
- 規則第二條第四號ニ關スル事項
  - 一 燃料槽中ニハ燃油ノ浮油槽ヲ含ムコト
  - 二 補助金交付ノ申請書ニハ組合員又ハ所屬組合ノ數、地區内ニ於ケル漁船數(動力ヲ有スルモノ及動力ヲ有セザルモノニ分ツコト)最近三ヶ年ニ於ケル毎年ノ魚種別漁獲數量及金額、主ナル漁業ノ種類及漁期(盛漁期ヲ明示スルコト)其ノ他參考トナルベキ事項ヲ記載シタル書面、最近ノ貸借對照表、財産目録及事業報告書ヲ添付スルコト
  - 三 補助金ノ交付ヲ受ケントスル設備ノ設置ニ付法令又ハ規約等ニ依リ相當機關ノ決議ヲ要スル場合ニ在リテハ決議録ノ謄本又ハ抄本ヲ添付スルコト

第四 規則第二條第五號ニ關スル事項

- 一 漁船修理設備又ハ其ノ附屬設備ハ漁船及機關ノ二種トシ各別ニ設備シ得ルコト
- 二 漁船修理設備ハ陸上固定設備ノミニ限ラズ移動スルモノニモ設備シ得ルコト
- 三 補助金交付ノ申請書ニハ地區内ニ於ケル漁船數(動力ヲ有スルモノ及動力ヲ有セザルモノニ分ツコト)其ノ他參考トナルベキ事項ヲ記載シタル書面ヲ添付スルコト
- 四 道府縣以外ノ者ノ提出スル申請書ニハ漁船修理設備設置ニ關シテ總會ニ附議シタル決議録ノ謄本又ハ抄本、最近ノ收支決算書又ハ貸借對照表、財産目録及事業報告書ヲ添付スルコト
- 第五 規則第二條第六號ニ關スル事項
  - 一 補助金ハ漁業用重油ノ共同購入又ハ購入幹旋ニ要スル通信費、運搬費、容器費、事務員ノ給料及旅費、調査費、運賃補助金、漁業用重油ノ共同購入又ハ購入幹旋獎勵金等漁業者ノ漁業用重油購入費低減ノ爲ニ要スル費用ニ對シ之ヲ交付スルコト
  - 二 漁業用重油ト稱スルハ重油、輕油、燈油及揮發油トスルコト
  - 三 漁業組合ヨリ直接補助金交付ノ申請ヲ爲シ得ル場合ハ漁業組合聯合會ノ設立ナキ地方ニ限ルコト
  - 四 共同購入又ハ購入幹旋獎勵金ヲ交付セントスル者ハ申請書ニ獎勵金交付ニ關スル要項ヲ添付スルコト
  - 五 水産組合、産業組合若ハ産業組合聯合會ニ於テ共同購入又ハ購入幹旋ニ付獎勵金ヲ交付セントスルトキハ水産局長ニ打合ヲ要スルコト
  - 六 水産組合、産業組合若ハ産業組合聯合會ヨリ提出スル補助金交付申請書、事業成績書及收支決算書ハ幹旋ヲ受クル漁業組合聯合會ヲ經由

〔附則令三〇號〕

- スルコト此ノ場合漁業組合聯合會長ハ意見ヲ具シ之ヲ進達スルコト
- 七 補助金ノ交付ヲ受ケタル者ハ共同購入又ハ購入幹旋ニ付他ノ事業ニ關スル會計ト區別シ之ヲ經理スルコト
- 八 補助金ノ交付ヲ受ケタル漁業組合聯合會ハ毎月末日迄ニ其ノ前月ニ於ケル共同購入又ハ購入幹旋ヲ爲シタルモノニ付團體別並ニ種類別數量ヲ様式第六號ニ依リ農林大臣ニ報告スルコト
- 第六 規則第二條第七號ニ關スル事項
  - 一 補助金ハ道府縣漁業組合聯合會ニ在リテハ漁獲物ノ配給狀況調査ヲ爲ス職員ノ俸給及旅費額並ニ事務費ニ對シ適宜之ヲ交付シ、農林大臣ノ適當ト認ムル團體ニ在リテハ漁獲物ノ配給狀況調査並ニ市況通報ヲ爲ス職員ノ俸給及旅費額並ニ事務費ニ對シ適宜之ヲ交付スルコト
  - 二 補助金ノ交付ヲ受ケタルモノハ毎月二十日迄ニ前月分ノ調査書ヲ農林大臣ノ指定スル團體ニ對シ報告スルコト尙農林大臣ニ報告セシムルコトアルベキコト
  - 三 道府縣漁業組合聯合會ハ補助金ニ依リ職員ノ任免ヲ水産局長ニ届出ヅルコト尙任命ノ場合ニ在リテハ俸給額ヲ記載シ履歴書ヲ添付スルコト
- 第七 規則第二條第八號ニ關スル事項
  - 一 補助金ハ指導職員ノ俸給及旅費額ニ對シ之ヲ交付スルコト
  - 二 補助金ヲ交付スベキ指導職員ハ一水産會一人限トスルコト但シ新ニ職員ヲ設置シ又ハ從來重油免稅代理申請事務ヲ取扱ヘル水産會ニ付テハ此ノ限ニ在ラザルコト
  - 三 道府縣水産會ハ指導職員ノ任免ヲ水産局長ニ届出ヅルコト尙任命ノ場合ニ在リテハ俸給額ヲ記載シ履歴書ヲ添付スルコト
  - 四 補助金ノ交付ヲ受ケル費用中旅費額ハ俸給額ノ三分ノ一迄トスルコト



第十二編 勸業 第七章 水産

ト但シ其ノ額二〇〇圓以内ナルトキハ二〇〇圓迄之ヲ認ムルコト  
 五 水産會以外ノ團體ニ設置スル指導職員ニ付補助金ヲ交付スル場合ハ之ヲ取扱ハ一乃至四ニ準ズルコト  
 第八 規則第二條第九號ニ關スル事項  
 一 補助金ハ巡迴技術員ノ俸給及旅費額ニ對シ之ヲ交付スルコト  
 二 巡迴技術員ハ機關修理ニ關シ經驗アル者ニシテ農林大臣ニ於テ適當ト認メタルモノナルコト  
 三 巡迴技術員ヲ任命セントスルトキハ俸給額ヲ記載シ履歷書其ノ他參考トナルベキ書類ヲ添附シ豫メ水産局長ニ打合ハスコト  
 四 巡迴技術員ノ昇給ニ付テハ豫メ水産局長ニ打合ハスコト  
 五 巡迴技術員ノ任免ハ水産局長ニ届出ヅルコト  
 第九 規則第八條ニ關スル事項  
 機關、保藏設備、漁船又ハ漁船修理設備ノ検査要項ハ別記ノ通り之ヲ定

農林大臣 殿  
 住所  
 氏 名(又ハ名稱) 〇〇

〔附則令三〇號〕

四〇八ノ四〇

注意 第二條第二號及第三號ノ補助金ヲ併セ受ケントスル者ハ別途當該申請書ヲ提出スル外本申請書末尾ニ左ノ通附記スベシ  
 追而別途右漁船ノ保藏設備(又ハ推進能率ノ構造)ニ付補助金交付申請候也  
 二 漁業經營費低減補助金交付申請書(漁船)  
 今般漁業經營費低減補助金交付規則ヲ遵守シ別紙事業計畫書記載ノ漁船ニ保藏設備(又ハ推進能率増進ノ構造)施設致度候ニ付漁業經營費低減補助金交付相成度成規書類ヲ添へ此段及申請候也  
 年月日

農林大臣 殿  
 住所  
 氏 名(又ハ名稱) 〇〇

注意 第二條第一號ノ補助金ヲ併セ受ケントスル者ハ別途當該申請書ヲ提出スル外本申請書末尾ニ左ノ通附記スベシ  
 追而別途右漁船ノ漁業用重油發動機ニ付補助金交付申請候也  
 三 事業目論見書  
 一 漁業用重油發動機、漁船ノ保藏設備又ハ推進能率増進ノ構造ノ別船體又ハ保藏設備ノ工事ヲ行フ造船所ノ住所、氏名又ハ名稱、進水年月日、木船又ハ鋼船ノ別、船名、總噸數、船ノ長さ、幅及深サ、兼定著工及竣工年月日、業務ノ種類、船籍港(五噸未満ノ漁船ニ在リテハ主タル碇繫場)改造ノ概略説明  
 三 發動機ノ製造所ノ住所氏名又ハ名稱、種類、出力(純馬力)シリシタノ數及直徑、行程並ニ一分間ノ回轉數、豫定起工、竣工及据付年月日  
 四 富該漁船ノ用途及業務ノ概要

〔附則令三〇號〕

五 其ノ他參考トナルベキ事項  
 四 機關決定經費明細書

項 目	員 數	單 價	金 額	備 考
購 入 費				
捐 付 費				
試 運 費				
雜 費				
合 計				

五 保藏設備決定經費明細書

項 目	金 額	備 考
防熱設備費		
冷蔵設備費		
試運轉費		
傾斜試驗費		
雜費		
合 計		

六 漁船(船首船尾)改善決定經費明細書

項 目	金 額	備 考
要		

第十二編 勸業 第七章 水産

合 計	雜 費	傾 斜 試 驗 費	新 造 費	船 體 改 造 費 又 ハ 試 運 轉 費	漁 船 々 體 改 造 費 又 ハ 新 造 費

第二號

規則第二條第四號ノ費用ニ對シ補助金ノ交付ヲ受ケントスル者ヨリ提出スベキ書類  
 一 事業計畫書  
 漁業用燃油槽ノ設備  
 設備ノ種類及規模  
 二 地區内ニ於ケル一ヶ年ノ漁業用各種燃油消費量並ニ燃油需給及取引狀況  
 三 設備ヲ必要トスル理由  
 四 配給セントスル燃油ノ種類別數量、金額並ニ其ノ仕入及配給ノ方法  
 五 配給價格ノ決定及代金徴收ノ方法  
 六 其ノ他參考トナルベキ事項  
 注意 其ノ他參考トナルベキ事項中ニハ事業經營ニ關シ地元商人又ハ他ノ團體トノ關係等ヲ記載スルコト

四〇八ノ四一



(ロ) 漁業用水ノ製造設備  
 一 事業ノ目的及用途  
 二 事業ノ計畫ヲ爲スニ至リタル理由  
 三 事業經營目論見概要  
 四 附近既設製氷工場トノ關係  
 注意 事業經營目論見概要中ニハ從來一ケ年間ノ水使用量、水價(工場渡價格及運賃)購入先、使用時期等ヲ記載スルコト  
 二 收支豫算書  
 第一 設備ニ關スル收支豫算

科	目	金額	附記
國庫補助金			何設備補助金
自己資金			
借入金			
合計			
支出			
漁業用燃油槽設備			
敷地買入金			

〔附則令三〇號〕

第二 設備完成後ノ收支豫算

科	目	金額	附記
何事業収入金			
合計			燃油(又ハ水)配給高何圖ニ對シ何分

〔附則令三〇號〕

(イ) 支出

科	目	金額	附記
給料			月俸何圖ノモノ何名何月分
旅費			
通信費			
何信			
借入金利息			
減價償却費			
何			
雑費			
合計			

(ロ) 注意 附屬設備費ハ種類別ニ記載スルコト  
 漁業用水ノ製造設備  
 燃油槽工費  
 建築物工費  
 附屬設備費  
 雑費  
 合計

科	目	金額	附記
敷地買入金			
建築物工費			設計監督費ヲ含ム
製氷設備費			設計監督費ヲ含ム
冷凍機械			
原動機械			
製氷装置			傳導装置、据付費、基礎工事費ヲ含ム
貯水庫ノ配管			
貯水庫ノ防熱設備			
合計			

(ロ) 差引損益

科	目	金額	附記
動力費			
人件費			
工場費			
事務費			
借地料			
公課			
保險料			
借入金利息			
設備減價償却費			
何			
雑費			
合計			

アムモニア、鹽化カルシウム補充費、修繕費、點燈費等  
 通信費、旅費、消耗品費等

注意 差引損益  
 一 附記欄ニハ各豫算科目算定ノ基礎ヲ記載スルコト  
 二 借入金ニ付テハ利率、期限、借入先、擔保ノ有無及種類並ニ價



第十二編 勸業 第七章 水産

- 運方法ヲ記載シタル書面ヲ添付スルコト
- 三 寄附金ニ付テハ寄附者ノ氏名、職業、寄附金額及設備完成後事業主體ト寄附者トノ設備利用上ニ於ケル關係ヲ記載シタル書面ヲ添付スルコト
  - 四 物件購入ノ場合ニ在リテハ設備支出豫算記載事項ニ準ジ購入費ノ内譯ヲ記載スルコト
  - 三 設計書
- 燃油槽設備
- 一 設備ノ場所
  - 二 設備場所附近ノ略圖(停車場、船着場、方位其ノ他設備利用上關係アル設備ノ位置ヲ明示スルコト)
  - 三 設備場所ノ坪數並ニ油槽及附屬設備ノ坪數
  - 四 仕様書及圖面(平面圖ヲ添付スルコト)
  - 五 燃油ノ種類及收容量
  - 六 燃油槽及機械器具ノ製作所又ハ販賣所ノ所在地及氏名又ハ名稱
  - 七 起工豫定年月日
  - 八 完成豫定年月日
- 漁業用水ノ製造設備
- 一 設備場所
  - 二 設備場所附近ノ略圖(陸地測量部發行五萬分ノ一圖添付ノコト尙魚市場、停車場、船着場、冷蔵庫、製氷工場、方位、其ノ他設備利用上關係アル他ノ設備ノ位置ヲ明示スルコト)
  - 三 敷地坪數及建造物ノ坪數
  - 四 外部建築材料ノ種類
  - 五 冷凍機ノ種類、製作所及冷凍力

〔附則令三〇號〕

四〇八ノ四二ノ二

- 六 原動機ノ種類、製作所及馬力
  - 七 一日製氷量及滿庫貯氷量
  - 八 起工豫定年月日
  - 九 完成豫定年月日
- 備考 設備ヲ増設又ハ改設(改造)スル場合ハ現在及新計畫ニ區別シテ記載スルコト
- 第三號
- 規則第二條第五號ニ對シ補助金ノ交付ヲ受ケントスル者ヨリ提出スベキ書類
- 一 事業計畫書
  - 二 設備ノ種類
  - 三 設備ヲ必要トスル理由
  - 四 設備計畫ノ概要
  - 五 事業目論見ノ概要
  - 六 設備ヲ利用セントスル漁船見込隻數(動力附及無動力漁船ノ別ニ記載スルコト)
  - 七 起工豫定年月日
  - 八 完成豫定年月日
  - 九 其ノ他參考トナルベキ事項
- 第一 收支豫算書
- 第二 收支豫算書
- 第一 設備ニ關スル收支豫算
- 第二 設備完成後ノ收支豫算

漁船修理設備補助金		支出	
自己資金	借入金	科目	金額
計	計	敷地買入金	
		基礎工事費	
		曳揚設備費	
		建築物工事費	
		速力標柱設置費	
		附屬器具費	
		雜費	
計	計	合計	

(イ) 船體修理設備

(ロ) 注意 附屬設備及器具費ハ種類別ニ記載スルコト  
機關修理設備

第十二編 勸業 第七章 水産

漁船修理設備補助金		収入	
自己資金	借入金	科目	金額
計	計	敷地買入金	
		基礎工事費	
		修理用機械費	
		試運轉設備費	
		建築物工事費	
		附屬器具費	
		雜費	
計	計	合計	

第二 設備完成後ノ收支豫算

注意 修理用機械費、附屬設備及器具費ハ種類別ニ記載スルコト

四〇八ノ四二ノ三



第十二編 勸業 第七章 水産

注意 修理料ハ船體機關別ニ記載スルコト  
支出

科目	金額	附記
事業費		
給料		月俸何圓ノモノ何名何月分
旅費		
通信費		
其他		動力費、材料費、消耗品費等
借入金利息		
減價償却費		
合計		

注意  
一 附記欄ニハ各算科目算定ノ基礎ヲ記載スルコト  
二 借入金ニ付テハ利率、期限、借入先、擔保ノ有無及種類並ニ償還方法ヲ記載シタル書面ヲ添付スルコト

一 本年度共同購入又ハ購入幹旋ヲ爲サントスル漁業用礦油ニ付主ナル漁業種類別隻數、馬力數及礦油ノ種類別數量

漁業種類	漁船數	馬力數	共同購入數量				幹旋數量				合計
			重油	輕油	燈油	揮發油	重油	輕油	燈油	揮發油	
合計											

〔附則令三〇號〕

四〇八ノ四二ノ四

三 物件購入ノ場合ニ在リテハ設備支出豫算記載事項ニ準ジ購入費ノ内譯ヲ記載スルコト  
三 設計書  
船體修理設備  
一 設備ノ場所及面積  
二 漁船曳揚設備ノ圖面及仕様書  
三 建築物ノ圖面及仕様書  
四 附屬設備及器具類ノ概要  
五 速力試験用標柱設置場所附近ノ地圖又ハ略圖  
六 其ノ他參考トナルベキ事項  
(ロ) 機關修理設備  
一 設備ノ場所及面積  
二 修理用機械ノ種類大サ及數量  
三 建築物ノ圖面及仕様書  
四 試運轉設備ノ圖面及仕様書  
五 附屬設備及器具類ノ種類及數量  
六 其ノ他參考トナルベキ事項  
第四號  
規則第二條第六號ノ費用ニ對シ補助金ノ交付ヲ受ケントスル者ヨリ提出スベキ書類

〔附則令三〇號〕

二 漁業組合聯合會ノ配給ヲ爲サントスル組合ニ付各別ニ礦油種類別消費量並ニ本年度共同購入又ハ購入幹旋ヲ爲サントスル數量

計	配給ヲ爲サン	組合員ノ一ヶ年間礦油消費總數量				共同購入數量				幹旋數量				合計			
		トスル組合名	重油	輕油	燈油	揮發油	計	重油	輕油	燈油	揮發油	計	重油		輕油	燈油	揮發油
計																	

三 仕入方法(主ナル仕入先名、仕入代金支拂方法其ノ他仕入上參考トナルベキ事項)  
四 賣渡方法(配給方法、賣渡價格決定ノ基礎、代金徴收方法等)  
五 購入幹旋ノ方法(主ナル仕入先名、其ノ他幹旋上參考トナルベキ事項)  
六 購入幹旋ヲ爲ス場合ニ於テ手数料ヲ徴セントスルトキハ其ノ額及算定ノ基礎  
七 礦油配給ノ事務ヲ擔任スル役員ノ氏名及其ノ事務分擔

八 礦油配給事業ニ關スル設備ヲ有スルトキハ其ノ位置、種類、規模、箇所數、設備費及建設年月日  
九 其ノ他參考トナルベキ事項  
注意 其ノ他參考トナルベキ事項中ニハ地區内ニ於ケル漁業用各種礦油ノ需給及取引ノ概況ヲモ記載スルコト  
二 收支豫算書

第十二編 勸業 第七章 水産

四〇八ノ四二ノ五







何水産組合  
何産業組合聯合會  
何産業組合  
合計

昭和 年 月 日

農林大臣 殿

検査要項

一 陸上検査

陸上検査ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ行フ但シ農林省ニ於テ其ノ必要ナシト認ムルトキハ之ヲ省略スルコトアルベシ

一 運轉検査

運轉検査ハ出願書類記載ノ馬力數ヲ以テ全荷重トス

(甲) 燒玉機關

(イ) 燒玉機關ノ運轉検査ハ連續シテ左表ニ依リ之ヲ行フモノトス但シ最近二年以内ニ於テ農林省ノ検査ヲ受ケ合格シタル機關ト同一工場ノ製品ニシテ同型同馬力ノモノニ在リテハ左表ノ時間ヲ検査員ニ於テ適當ト認ムル時間ニ短縮スルコトヲ得

馬力別	全荷重	過荷重	無荷重	重

〔解同令三〇號〕

住所 何漁業組合聯合會長 氏

名

五馬力以下	一時間以上	一割過荷重三十	二十分間以上
五馬力ヲ超エ一〇馬力以下	一時間三十分以上	一割過荷重三十	二十分間以上
一〇馬力ヲ超エ二五馬力以下	一時間三十分以上	二割過荷重三十	二十分間以上
二五馬力ヲ超エ五〇馬力以下	二時間以上	二割過荷重三十	二十分間以上
五〇馬力ヲ超エ八〇馬力以下	二時間三十分以上	二割過荷重三十	二十分間以上
八〇馬力ヲ超エ一〇〇馬力以下	二時間三十分以上	二割過荷重三十	二十分間以上

(ロ) 検査員ニ於テ逆轉運轉検査ノ必要アリト認ムルトキハ適當ナル荷重及時間ニ付テ之ヲ行フモノトス  
(ハ) 燃油及潤滑油消費量ハ全荷重連續運轉検査ノトキ之ヲ測定シ左表標準ヲ超エザルモノハ之ヲ成績良好ノ機關ト認ムルモノトス

一 シリンダ當リ馬力數	一馬力一時間 燃油消費量	一馬力一時間 潤滑油消費量
五馬力以下	三七〇瓦	二〇〇瓦
五馬力ヲ超エ一〇馬力以下	三三〇	一八〇
一〇馬力ヲ超エ一五馬力以下	三一〇	一六〇
一五馬力ヲ超エ二五馬力以下	二九〇	一四〇
二五馬力ヲ超エ五〇馬力以下	二八〇	一二〇

右表ノ燃油及潤滑油消費量ハシリンダ數ニ拘ハラズ一シリンダ當リ馬力數ニ依ルモノトス

(乙) サーセル機關

(イ) サーセル機關ノ運轉検査ハ連續シテ全荷重連續十時間以上二割過荷重連續一時間以上及最低回轉運轉三十分間以上之ヲ行フ尙レバーシシテ、クラッチレヲ有スルモノニ在リテハ二十分間以上全荷重逆轉運轉ヲ行フモノトス  
(ロ) 最近二年以内ニ於テ農林省ノ検査ヲ受ケ合格シタル機關ト同一工場ノ製品ニシテ同型同馬力ノモノニ在リテハ左表ニ依リ運轉検査ヲ行フモノトス但シ左表ノ時間ハ検査員ニ於テ適當ト認ムル時間ニ之ヲ短縮スルコトヲ得

馬力別	全荷重	過荷重	最低回轉
五〇馬力以下	二時間以上	二割過荷重三十	二十分間以上

五〇馬力ヲ超エ一〇〇馬力以下	二時間三十分以上	二割過荷重三十	二十分間以上
一〇〇馬力ヲ超エ二五〇馬力以下	三時間以上	二割過荷重三十	二十分間以上
二五〇馬力ヲ超エ五〇〇馬力以下	四時間以上	二割過荷重三十	二十分間以上

(ハ) 検査員ニ於テ逆轉運轉検査ノ必要アリト認ムルトキハ適當ナル荷重及時間ニ付テ之ヲ行フモノトス  
(ニ) 燃油及潤滑油消費量ハ全荷重連續運轉検査ノトキ之ヲ測定シ左表標準ヲ超エザルモノトス

五〇馬力以下	二二〇瓦	四瓦
五〇馬力ヲ超エ一〇〇馬力以下	二〇〇	三
一〇〇馬力ヲ超エ二五〇馬力以下	一九〇	二
二五〇馬力ヲ超エ五〇〇馬力以下	一八五	二

二 分解検査  
最近二年以内ニ於テ農林省ノ検査ヲ受ケ合格シタル機關ト同一工場ノ製品ニシテ同型同馬力ノモノハ検査員ニ於テ必要ナシト認ムル場合ハ分解検査ヲ省略スルコトヲ得  
三 極印  
検査ノ結果本検査要項ニ適合スルモノト認メタル機關ニハ左ノ極印ヲ打込ムモノトス



(イ) 様式



(ロ) 使用方法

編印ハ機關ノ左ノ部分ニ之ヲ打込ムモノトス但シ運轉検査及分  
解検査ヲ省略シタル場合ニ在リテハ左ニ掲グル箇所ノ全部又ハ  
一部ノ編印ノ打込ヲ省略スルコトアルベシ

- 一箇所
- 二箇所
- 三箇所
- 四箇所
- 五箇所
- 六箇所
- 七箇所
- 八箇所
- 九箇所
- 十箇所

第二 摺附検査

摺附検査ハ機關摺附完了後左ノ事項ニ付之ヲ行フモノトス

- 一 船名
- 二 船主ノ氏名及住所
- 三 機關製造者ノ氏名又ハ名稱及住所
- 四 機關製造年月日
- 五 機關摺附年月日
- 六 機關製造番號
- 七 機關種類(燒玉機關又ハチーセル機關ノ別)
- 八 馬力數
- 九 シリンダ數
- 十 シリンダ徑

一 行程

一 漁業用發動機検査規則ニ依ル検査番號

第三 検査報告

検査員検査ヲ終ヘタルトキハ検査報告書ヲ作成シ記名捺印ノ上之ヲ提出スベシ

第二 検査要項

一 検査ハ工事ガ仕業書、圖面又ハ設計書通り施工セラレ居ルヤ否ヤニ付之ヲ行フベシ但シ工事ガ仕業書、圖面又ハ設計書ト相違スルモ效力及價值ニ於テ同等以上ト認メ得ベキモノニ付テハ仕業書、圖面又ハ設計書通り施工セルモノト看做スコトヲ得此ノ場合ニハ検査手帳ニ其ノ相違點ヲ記入スベシ

一 船型

船型ニ關シテハ長さ、幅、深サノ重要寸法及ビ船首部及ビ船尾部ノ形狀ノ寸法ヲ計リ線圖ト相違セルヤ否ヤニ注意シ現圖場ヨリ現圖ノ寸法(オフセット)表ヲ製作セシムベシ

二 船體ノ構造

船體ノ構造ニ關シテハ特ニ左ノ點ニ付注意スベシ  
(イ) 肋骨ノ心距、寸法、外板ノ厚サ固著釘ノ徑及數、肋骨及外板ノ材質、外板ノ横線ノ避距等特ニ注意シテ検査スルコト  
(ロ) 外板ニ甚ダシキ裂目、腐蝕等ノ缺點無キヤ否ヤヲ検査スルコト  
(ハ) 隣接セル肋骨ノ衝接ハ船ノ幅ノ九分ノ一以上避距セルヤ否ヤ等ヲ検査スルコト

三 水密試験

水密試験ニ關シテハ左ノ各項ニ依リ之ヲ行フベシ  
(イ) 可成滿載吃水線迄淡水シ其ノ上部及甲板ハ射水又ハ海水シテ其ノ水密ヲ検査シ不良ノ箇所ハ完全ニ手直シセシムルコト  
(ロ) 固著釘及節、裂目等ノ箇所ハ特ニ漏水ニ注意スルコト

〔附則令三〇號〕

(ハ) 水密試験ニ使用スル淡水及射水ハ可成淡水ヲ用フルコト  
五 防熱工事ニ關シテハ左ノ各項ニ依リ之ヲ検査スベシ  
(イ) 「コルク」板ハ炭化セルモノニシテ「アスファルト」熔液ニ浸シタルモノナルコト  
(ロ) 「コルク」板ハ肋骨間等ノ間隙ニ挿入スルモノハ最初ニ於テ其ノ場所ニ適合スル様切り合セ然ル後「アスファルト」熔液ニ浸スコト  
(ハ) 「コルク」板ト内張板及受板トノ間ニハ總テ防水紙ヲ「アスファルト」熔液ニテ密著セシムルコト  
(ニ) 内張板其ノ他ニ使用スル固著釘ハ總テ亞鉛鍍釘ヲ用フルコト  
(ホ) 内張板ハ總テ「コーキング」ノ上水密トナスコト  
(ヘ) 防熱工事ノ施工順序ハ圖面及仕業書通り施行スル様特ニ注意スルコト

六 冷蔵設備ニ關シテハ實際ニ魚箱及氷箱ヲ冷却シテ仕業書通り冷却スルヤ否ヤヲ検査スベシ  
七 傾斜試験ハ工事完了ノ上之ヲ行フベシ  
八 航走試験ハ公認標柱アル地方ニテハ右標柱間ニ於テ其ノ他ノ地方ニテハ海面上ニテ測定セル地點ニ於テ又ハ測程具ヲ用ヒテ最高速力ヲ測定スベシ特ニ指定セラレタル場合ハ果次運轉ヲ行フベシ  
九 不登簿船ニ付テハ(總噸數二〇噸未滿)ハ總噸數ヲ測定スベシ  
十 検査員ハ農林省所定ノ検査手帳ニ官職氏名及検査施行場所並ニ年月日ヲ記載スベシ

三 漁船修理設備検査要項  
一 検査ハ工事又ハ機械、器具等ガ仕業書、圖面又ハ設計書通り竣工セルヤ否ヤニ付之ヲ行フベシ但シ工事ガ仕業書、圖面又ハ設計書ト相違スルモ效力及價值ニ於テ同等以上ト認メ得ベキモノニ付テハ仕業書、

二 圖面又ハ設計書

圖面又ハ設計書通り施工セルモノト看做スコトヲ得此ノ場合ニハ其ノ旨報告書ニ記載スベシ  
二 精算ニ關シテハ各證據書類ニ照合シテ間違ヒ無キヤヲ検査スベシ  
三 漁船ノ曳揚設備ニ付テハ實際ニ設備相當ノ大サノ漁船曳揚ゲ作業ヲ行ヒテ検査スベシ



●水産増殖奨励規則ニ關スル件

昭和十二年九月七日  
水第七三四號經濟部長通牒

市町村長宛

昭和十二年八月十四日農林省令第三十五號ヲ以テ水産増殖奨励規則ヲ改正セラレ候處右ハ農林省ニ於テ沿岸漁業振興ニ關スル施設ノ一部トシテ本年度ヨリ新ニ豫算ヲ計上シ沿岸重要水族ノ増殖ヲ奨励シ以テ沿岸漁場ノ利用開發ヲ圖リ漁村經濟ノ改善ニ資セントスル趣旨ニ有之候條右御了知ノ上漁業組合其他關係ノ向ニ周知方可能御取計相成度  
追而右取扱要綱ハ左記ノ通ニ付申添候

記

- 一、第二條第一號ノ費用ニ對スル獎勵金ハ左ニ掲グル増殖事業ニ要スル費用ニ對シ之ヲ交付スルコト
- (一) 鮭鱒類ノ採卵、孵化、放流、採卵用親魚ノ養成又ハ種卵若ハ種魚ノ配給
- (二) 鮎及鰻ノ種苗ノ採收及採收シタルモノ、配給
- (三) 蝦(クルマエビ、イセエビ及ニシキエビ)、鮑(トコブシヲ含ム)、蛤、鯛、北寄貝、赤貝(ハイガヒ及モガヒヲ含ム)、帆立貝、海鼠及海膽ノ種苗ノ放養
- (四) 石花菜(ヒラクサ、オホアサ及オニクサヲ含ム)、海藻、海人草(別名マクリ)、海綿、麒麟菜、若布、蕪胡菜及岩海苔ノ附著面ノ造成
- (五) 鮎ノ産卵場並ニ蝦(クルマエビ、イセエビ及ニシキエビ)、鮑(トコブシヲ含ム)、蛤、鯛、北寄貝、赤貝(ハイガヒ及モガヒヲ含ム)、帆立貝、海鼠及海膽ノ發生場ノ造成

第十二編 勸業 第七章 水産

〔附則令二〇號〕

- 二、第二條第二號ノ費用ニ對スル獎勵金ハ原則トシテ一道府縣ニ付地方農林技師又ハ農林技手ヲ通ジテ四人以内ニ限リ其ノ俸給及旅費額ニ對シ之ヲ交付スルコト
- 三、道府縣ノ直接施行スル増殖事業ニ付テハ地元漁村トノ連絡ニ特ニ留意セラレタキコト
- 四、道府縣以外ノモノノ行フ増殖事業ニ付テハ其ノ事業ノ施行ニ當リ苟モ過誤ヲ生セサル様充分監督スルト共ニ事業施行後モ増殖ノ效果ヲ確保スル爲格別ナル指導ヲ加ヘラレタキコト
- 五、地元漁業組合以外ノ施設ニ係ル増殖事業ニ於テモ其ノ遂行ニ依リ増殖セラレタル水産動物ノ採捕ニ當リ地元漁民ニ利益ノ均霑スル様充分留意シ確實等ノ弊無キ様取計ハレタキコト
- 六、本獎勵金交付ノ申請書提出アリタルトキハ地方長官ハ申請書及添附書類ニ關シ調査ヲ爲シ不備ノ點アラバ之ガ補正ヲ爲サシメタル上意見ヲ附シテ之ヲ農林大臣ニ送達セラレタキコト
- 七、獎勵規則第三條第一項ノ添附書類ハ左記様式ニ依リ之ヲ作成シ様式ニ示サザル事項ハ様式ニ準シテ記載スルコト但シ鮭鱒類増殖ニ關シテハ第一事業計畫書中(一)(二)(三)(四)(七)及鮭鱒類ヲ除ク水産動物ノ増殖ニ關シテハ第一事業計畫書中(一)(二)(三)(四)(七)ニ付前年度申請ヲ爲シタル際ノ記載ト相違ナキモノハ之等ノ事項ヲ省略スルモ差支ナキコト
- 八、事業計畫書(圖面設計關係書類及收支豫算ノ總テヲ含ム)ハ申請書ニ添附スルモノ外尙副本一通ヲ提出スルコト
- 九、獎勵規則第二條各號ニ掲グル費用ニ關シテ鮭鱒類ト鮎類ヲ除ク其ノ他ノ水産動物ニ付各別ニ申請書ヲ提出スルコト
- 十、法令規約、會則定款又ハ寄附行爲等ニ依リ相當機關ノ決議ヲ要スル申請ニ關シテハ其ノ決議録原本ヲ添付スルコト

四〇八ノ四三



十一、獎勵金ノ交付ヲ受ケテ道府縣ニ設置スル專任技術員ノ昇給又ハ任免ニ付テハ豫メ水産局長ト打合セラレタキコト尙任命ノ打合ノ場合ニアリテハ支給セントスル俸給額ヲ記載シ且其ノ履歴書ヲ添附シ又解職ノ打合ノ場合ニ在リテハ解職ノ事由ヲ記載セラレタキコト

十二、道府縣ニ於テ獎勵金ノ交付ヲ受ケテ支出シタル費用ヲ返納セシメ之ヲ歳入ニ組入レタルトキハ事由ヲ具シ遲滞ナク農林大臣ニ報告セラレタキコト

水産増殖獎勵規則第三條第一項ノ添附書類様式

一、鮭類増殖ニ關スルモノ

事業ノ種類増殖水産名ヲ明記ノコト

第一 事業計畫書

(一) 事業ノ計畫ヲ爲スニ至リタル理由

左ノ(1)及(2)ノ事業ヲ同時ニ行フトキハ其ノ計畫ヲ爲スニ至リタル理由ヲ(1)(2)ノ別ニ明示ノコト

(1) 採卵孵化放流事業

採卵用親魚養成及種卵種魚配給事業

(2) 鮭類類蕃殖ノ現況

分布(主要棲息河川名)遡河期産卵場産卵期、魚體ノ大サ、漁業及他産業ガ鮭類ノ生産ニ及ボシタル影響其ノ他蕃殖ノ現況ヲ魚種別ニ記載ノコト

(三) 増殖水面關係ノ全水域又ハ其ノ附近ニ存在スル鮭類類探卵場及孵化場ノ位置並ニ鮭類類ノ定置漁業ノ種類及位置

(圖面添附)

増殖水面名	探卵場名稱及位置	定置漁業ノ種類及件数	備考
-------	----------	------------	----

附則令二〇號

年度	採卵用親魚捕獲尾数		採卵用親魚購入計		尾数化尾数	尾数放流尾数	經費	備考
	數	計	數	計				

(四) 該増殖水面關係ノ全水域ニ於ケル該水産ニ關スル漁業ノ狀況漁業者數、漁業種類、漁獲高、權利關係等ヲ記載ノコト

(五) 獎勵金ヲ受ケントスル孵化場ニ於ケル過去五ヶ年(事業開始以來五ヶ年ニ滿タザルモノニ在リテハ其ノ開始以來)ノ採卵用親魚捕獲數、採卵數、孵化數、放流數及其ノ經費

増殖水面名	放流尾数	放流兒ノ成魚トナル見込尾数	成魚漁獲見込尾数	備考
-------	------	---------------	----------	----

(六) 獎勵金ヲ受ケムトスル年度ニ於ケル孵化放流事業ニ伴フ生産増加見込額

注意 放流兒ニ對スル成魚見込尾数及成魚ニ對スル漁獲見込尾数ノ比率ヲ備考欄ニ記入ノコト

附則令二〇號

(七) 將來ニ於ケル事業計畫ノ概要

計畫ヲ年度別ニ記載ノコト

第二 獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル事項ニ關スル計畫ノ内容

(甲) 鮭類ノ採卵、孵化、放流事業ニ關スルモノ

(1) 孵化場ニ於ケル採卵用親魚捕獲又ハ購入尾数採卵數購入卵數孵化尾数及放流尾数

(イ) 申請年度ニ於ケル計畫ノ説明

申請年度ニ於ケル計畫ノ内容ヲ詳述ノコト

事業總覽

計	魚種	採卵數		孵化尾数	放流尾数	備考
		購入卵數	計			

(ハ) 事業ノ内譯

孵化場ノ名稱及位置(各孵化場ニ付記載ノコト)

計	魚種	採卵用親魚捕獲又ハ購入尾数		採卵數		尾数化尾数	放流尾数	放流場所
		雌	雄	計	購入卵數			

附記事項

(一) 採卵場ノ名稱及位置並ニ其ノ採卵用親魚捕獲尾数及採卵數

(二) 購入先別購入卵數及購入方法

(三) 其ノ他參考トナルベキ事項

(四) 採卵孵化放流ノ爲ニ設ケタル固定設備ノ申請書提出當時現在並ニ獎勵金交付申請年度ニ於ケル改良又ハ擴張豫定(各別ニ圖面ヲ要ス)

設備ノ種類	事務室	孵化室(採卵室)	物置	飼育池	用水ノ導水設備	用水ノ沈澱設備	用水ノ濾過設備	其ノ他主要ナル設備	申請書提出當時現在	申請年度ニ於ケル改良又ハ擴張豫定
									申請書提出當時現在	申請年度ニ於ケル改良又ハ擴張豫定

(一) 附記事項

用水ノ種類



第一表

計	魚種	年齢	養成尾数	種魚配給尾数	備考

(乙) 注意 (一) 固定設備ノ圖面ハ平面圖及断面圖ヲ要ス  
 (二) 採卵用親魚養成及種卵種魚配給事業ニ關スルモノ  
 (三) 採卵用親魚養成尾数採卵数及種卵、種魚配給数  
 (四) 申請年度ニ於ケル事業計畫ノ説明  
 事業ノ總覽

第二表

計	魚種	採卵用親魚捕獲尾数		收容卵数		種卵配給数	種卵残卵尾数	孵化尾数	養成尾数	備考
		獲尾数	採卵数	購入数	計					

注意 養成尾数及種魚配給尾数ハ各魚種毎ニ小計ヲ記入ノコト

第一表

計	魚種	年齢	養成尾数	種魚配給尾数	備考

(ハ) 事業ノ内譯  
 養成場ノ名稱及位置(各養成場ニ付記載ノコト)

第二表

計	魚種	採卵用親魚捕獲尾数		收容卵数		種卵配給数	種卵残卵尾数	孵化尾数	養成尾数	備考
		獲尾数	採卵数	購入数	計					

注意 養成尾数及種魚配給尾数ハ各魚種毎ニ小計ヲ記入ノコト

附記事項  
 (一) 購入先別購入卵数及購入方法  
 (二) 種卵種魚配給方法及配給先  
 (三) 採卵用親魚養成及種卵種魚配給ノ爲ニ設ケタル固定設備ノ申請書提出當時現在並ニ獎勵金交付申請年度ニ於ケル改良又ハ擴張豫定(各別ニ圖面ヲ要ス)  
 甲(2)ニ同シ

第三 收支豫算書

(一) 専任技術員設置計畫  
 専任技術員設置ノ理由新設既設ノ別、之ヲシテ從事セシムル事務指導獎勵事務ニ從事セシムル場合ハ指導獎勵計畫ノ概要ヲ記載ノコト

(二) 寄附金ハ道府縣共ノ他團體ノ一般收入ニ組入レタルモノト雖モ必ズ之ヲ明示シ寄附者別、寄附金額寄附條件ノ内容ヲ必ズ附記ノコト

(三) 事業收入ハ種類別、數量單價等算出ノ基礎ヲ明示ノコト

項目	金額	備考
國庫獎勵金		
道府縣又ハ團體負擔金		
寄附金		
事業收入		

項目	金額	備考
獎勵規則第二條第一號ノ費用		
獎勵規則第二條第二號ノ費用		
同 第二號費用		

(二) 細目

甲 獎勵規則第二條第一號ノ費用

項目	金額	備考
助手給給		
備用品費		
備用品費		
通信運搬費		
設備費		
材料費		
雜費		
何々		
計		

各項目明細書  
 何々







設備ノ種類	申請書提出當時現在	申請年度ニ於ケル改良又ハ擴張豫定
事務室	構造棟數及坪數	同上
處理場	同上	同上
物置	同上	同上
其ノ他重要ナル設備	同上	同上

(四) 専任技術員設置計畫  
専任技術員設置ノ理由、新設既設ノ別、之ヲシテ從事セシムル事務、指導獎勵事務ニ從事セシムル場合ハ指導獎勵計畫ノ概要ヲ記載ノコト

第三 收支豫算書  
(一) 總額

項目	金額	備考
國庫獎勵金		
道府縣又ハ團體負擔		
寄附金		
事業收入		

注意 (一) 寄附金ハ道府縣其ノ他團體ノ一般收入ニ組入レタルモノト雖

モ必ズ之ヲ明示シ寄附者別寄附金額寄附條件ノ内容ヲ必ズ附記ノコト  
(二) 事業收入ハ種類別數量單價等算出ノ基礎ヲ明示ノコト

項目	金額	備考
獎勵規則第二條第一號ノ費用		
同第二號ノ費用		

(二) 細目 支出  
甲 獎勵規則第二條第一號ノ費用

項目	金額	備考
助手給		
備品給		
備品費		
消耗品費		
通信運搬費		
設備費		
材料費		

〔靜岡令二四號〕

雜費	何々
計	

各項目明細書  
何々 金圓

品名	員數	單價	金額	備考

各項目中増殖事業施行箇所別内課ノアルモノハ表ニ依リ施行箇所別金額ヲ附記ノコト

施行箇所	項目	何々	何々	何々	何々	何々

乙 獎勵規則第二條第二號ノ費用  
第十二編 勸業 第七章 水産

項目	員數	單價	金額	備考
技術員俸給				
同 旅費				

備考 申請書提出當時現在ニ於ケル職員ノ官職、氏名及俸給ヲ記載ノコト

● 靜岡縣機船底曳網漁業整理轉換補助規程

昭和十二年十月三十日 靜岡縣告示第千八百九十九號

改正 昭和十三年一月告示第六一號  
靜岡縣機船底曳網漁業整理轉換補助規程左ノ通定ム  
第一條 靜岡縣機船底曳網漁業整理轉換補助規程  
第一條 近海漁場ノ維持恢復ヲ圖リ沿岸漁業ノ振興ニ資スル目的ヲ以テ機船底曳網漁業ノ整理轉換ヲ獎勵スル爲本規程ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ補助金ヲ交付ス  
第二條 補助金ハ左ニ掲グル費用ニ對シ之ヲ交付ス  
一 機船底曳網漁業廢業者カ左ニ掲グル業務ヲ營ム爲ニ要スル漁船漁具等ノ新造費、改造費、購入費其ノ他ノ起業費(起業補助金)  
一本釣漁業、延繩漁業其ノ他ノ釣漁業  
刺網漁業、流網漁業其ノ他ノ網漁業  
其ノ他知事ニ於テ適當ト認ムル漁業  
(三)(二)(一)



第十二編 勸業 第七章 水産

- (四) 漁獲物ノ運搬其ノ他漁業ニ附帯スル業務  
 二 前號ノ費用ニ對シ補助金ノ交付ヲ受ケタル者ガ其ノ業務ヲ督ム爲ニ要スル事業費(事業補助金)
- 第三條 前條ニ於テ機船底曳網漁業廢業者ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ  
 一 東經百三十度以東ノ海面ヲ操業區域トスル機船底曳網漁業ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ機船底曳網漁業整理規則施行後機船底曳網漁業取締規則第十八條第一項各號ニ掲グル事由ニ因リ許可ノ效力ヲ失フニ至リタルモノ又ハ其ノ包括承繼人但シ當該許可船舶又ハ之ニ代ルベキ他ノ船舶ニ付機船底曳網漁業ノ許可ヲ受ケタル者アル場合又ハ之ニ準ズベキ場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
 二 東經百三十度以東ノ海面ヲ操業區域トスル機船底曳網漁業ノ許可ヲ受ケタル者ニシテ機船底曳網漁業整理規則施行後許可ノ期間満了ニ因リ許可ノ效力ヲ失フニ至リタルモノ又ハ其ノ包括承繼人但シ引續キ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラズ  
 三 前二號ノ機船底曳網漁業廢業者ノ廢業ノ當時當該漁業ノ從業者タリシ者ノ半數以上ヲ以テ組織スル團體但シ前二號ノ機船底曳網漁業廢業者ガ前條ノ補助金ノ交付ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
- 第四條 補助金ノ額ハ起業補助金ニ在リテハ起業費ノ十分ノ三以内、事業補助金ニ在リテハ事業費ノ十分ノ二以内トス
- 特別ノ事由アル場合ニ於テハ補助金ハ前項ノ割合ヲ超エテ之ヲ交付スルコトアルベシ
- 第五條 補助金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ船舶又ハ設備毎ニ申請書ニ左ニ掲グル書類ヲ添附シ毎年一月三十一日迄ニ之ヲ知事ニ提出スベシ  
 一 事業計畫書

四〇八ノ五二

- 二 起業補助金ノ交付申請ニ在リテハ別記様式一ニ依ル起業費收支概算書及別記様式二ニ依ル船舶件名書又ハ設備明細書  
 三 事業補助金ノ交付申請ニ在リテハ別記様式三ニ依ル事業費收支概算書、漁船検査證書又ハ船體札寫  
 前項ノ書類ノ外知事ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命ズルコトアルベシ
- 第六條 前條第一項ノ事業計畫書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ  
 甲 起業補助金ノ交付申請ニ關スルモノ  
 (一) 補助金ノ交付ヲ受ケル者ノ住所、氏名又ハ名稱但シ補助金ノ交付ヲ受ケル者ガ第三條第三號ノ團體ナル場合ニ在リテハ機船底曳網漁業者ガ補助金ノ交付ヲ受ケザル事情ヲ記載シ且同團體ガ同條同號ノ資格ヲ有スルモノナルコトヲ明記スベシ  
 (二) 整理セラルル機船底曳網漁船ノ船名、許可番號及船舶總噸數並ニ整理後ノ用途其ノ他ノ處置  
 (三) 業務ノ種類、場所、期間若ハ方法其ノ他業務計畫ノ概要  
 (四) 機船底曳網漁業廢業ノ當時當該漁業ノ從業者タリシ者ノ數及引續キ雇傭スベキ者ノ數並ニ解雇サル者ニ對スル處置ノ概要  
 其ノ他參考ト爲ルベキ事項
- 乙 事業補助金ノ交付申請ニ關スルモノ  
 補助金ノ交付ヲ受ケル者ノ住所、氏名又ハ名稱  
 第二條第一號ノ補助金交付年月日及交付金額  
 業務ノ種類及補助金ノ交付ヲ受ケントスル年度ニ於ケル業務計畫概要  
 其ノ他參考ト爲ルベキ事項

- 第七條 起業補助金交付ノ許可ヲ受ケタル者又ハ事業補助金ノ交付ヲ受ケタル者第五條第一項各號ノ書類ニ記載シタル事項ニ重要ナル變更ヲ加ヘシトスルトキハ知事ノ認可ヲ受クベシ
- 第八條 起業補助金交付ノ許可ヲ受ケタル者補助金ノ交付ヲ請求セントスルトキハ請求書ニ別記様式四ニ依ル精算書ヲ添附シ之ヲ知事ニ提出スベシ
- 第九條 補助金ノ交付ヲ受ケタル者ハ事業成績書及收支決算書ヲ翌年度五月三十一日迄ニ知事ニ提出スベシ  
 前項ノ收支決算書ハ別記様式一又ハ三ニ準ジテ之ヲ作成シ且決算額ヲ豫算額ト比較對照シタルモノナルコトヲ要ス
- 第十條 前條ノ事業成績書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ  
 甲 起業補助金ニ關スルモノ  
 補助金ノ交付ヲ受ケタル者ノ住所、氏名又ハ名稱  
 補助金ノ交付ヲ受ケタル業務ノ要項  
 其ノ他施設後ノ狀況ニ付參考ト爲ルベキ事項  
 乙 事業補助金ニ關スルモノ  
 補助金ノ交付ヲ受ケタル者ノ住所、氏名又ハ名稱  
 業務ノ種類、場所、期間其ノ他業務實施ノ概要  
 收支及損益
- 其ノ他參考ト爲ルベキ事項
- 第十一條 補助金交付ノ許可ヲ受ケタル者又ハ補助金ノ交付ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ知事ハ補助金交付ノ許可ヲ取消シ

第十二編 勸業 第七章 水産

四〇八ノ五三

別記 様式一

起業費收支概算

科目	金額	備考
縣補助金		
何々		
何々		
計		

又ハ既ニ交付シタル補助金ノ全部若ハ一部ノ還付ヲ命ズルコトアルベシ  
 一 本規程ニ違反シタルトキ  
 二 許可ヲ受ケズシテ機船底曳網漁業又ハ汽船「トロール」漁業ヲ督ムルトキ  
 三 補助金交付ノ條件ニ違反シタルトキ  
 四 事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ  
 五 支出額ガ豫算額ニ比シ減少シタルトキ

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 第五條第一項中毎年一月三十一日迄トアルハ昭和十二年度ニ限り十一月三十日迄トス



注意 各科目毎ニ其ノ内課ヲ詳記シ且其ノ算出ノ基礎ヲ記載スルコト  
何々トアル項ニハ縣補助金以外ノ設備財源ヲ明細ニ記載スルコト

科	目	金額	備考
船體新造	（改入）費		
	（改入）費		
	（改入）費		
	（改入）費		
機關新調	（改入）費		
	（改入）費		
漁具新調	（改入）費		
	（改入）費		
計			

注意 各科目毎ニ其ノ内課ヲ詳記シ且其ノ算出ノ基礎ヲ記載スルコト  
漁船以外ノ設備ニ依ルモノニ付テハ之ニ準シ適當ニ記載スルコト

（一） 船舶件名書

- 一 船籍港
- 二 船種及船名
- 三 船舶番號又ハ船體札番號
- 四 船體ノ長さ、幅及深サ
- 五 總噸數
- 六 機關ノ種類及馬力
- 七 船體、機關其ノ他設備ノ製造若ハ改造場所又ハ購入先
- 八 豫定起工又ハ購入年月日

（附則令二二號）

九 豫定竣工年月日  
十 所有者住所氏名

注意 機船底曳網漁船ノ改造ノ場合ニ於テハ改造ノ前及後ニ區別シテ記載スルコト

（一） 設備明細書  
ニ準シ適當ニ記載スルコト

（二） 事業費收支概算

科	目	金額	備考
縣補助金	何々		
	何々		
計			

注意 各科目毎ニ其ノ内課ヲ詳記シ且其ノ算出ノ基礎ヲ記載スルコト  
何々トアル項ニハ縣補助金以外ノ設備財源ヲ明細ニ記載スルコト

科	目	金額	備考
燃料費	何々		
	何々		
計			

（附則令二二號）

乗組員諸給與	船體機關修繕費	漁具修繕補給費	起業費償却費	其ノ他諸雜費	計

注意 各科目毎ニ其ノ内課ヲ詳記シ且其ノ算出ノ基礎ヲ記載スルコト  
漁船以外ノ設備ニ依ルモノニ付テハ之ニ準シ適當ニ記載スルコト

樣式四

精算書

計	起業獎勵金交付許業務種類	補助金ノ交付者ノ氏名又ハ名稱	年月日	起業費總額	縣補助金

### ●全國水産デー設定ニ關スル件

昭和九年三月八日  
水第一〇六號内務部長通牒

市町村長宛

海洋及水産ニ對スル一般國民ノ關心ヲ作興スルハ昔ニ斯業ノ進展ヲ期スル所以ナルノミナラズ海國日本トシテノ飛躍ヲ促ス根本手段ト認メラレ候處之カ一策トシテ毎年一定ノ日ヲ「全國水産デー」ト定メ左記要項ノ如ク全國的ニ各種ノ施設ヲ行フコトニ關係諸團體間ニ於テ協定相成候趣ニ付テハ右「全國水産デー」當日各地ニ於テ施行セラルル本件ノ施設ニ關シテハ特ニ充分ノ御援助ヲ與ヘラレ其ノ目的ヲ達成セシムル様御配慮相煩度尙此ノ向關係方面ヘモ適當御通知相成度

追テ本縣水産會ニ於テハ右施設トシテ水産標語、音頭ノ懸賞募集水産映畫會ノ開催並ラナオニ依ル名士ノ講演放送（靜岡放送局ヨリ）等ヲ催ス趣ニ付申添候

「全國水産デー」實施要項

帝國水産會  
大日本水産會



一、名 稱

全國水産デー

二、期 日

每年四月十三日

三、目 的

水産ニ關スル國民ノ理解、認識ノ徹底ヲ期スル爲メ之ニ適當ナル各種ノ施設ヲ全國一齊ニ實施セントスルニ在リ

四、施行方法

(一)記念講演會ノ開催

地方水産會其他ノ主催ヲ以テ記念講演會ヲ各地ニ於テ開催スル

(二)ポスター、パンフレット等ノ頒布

關係團體ニ於テ適當ノ方法ニ依リ之ヲ行フコト

(三)展覽會、即賣會等ノ開催

關係團體ニ於テ適當ノ方法ニ依リ之ヲ行フコト

(四)「ラジオ」ニ依ル講演放送

東京ニ於テハ特ニ斯界ノ名流ヲ煩ハシ記念講演ノ放送ヲ爲ス

五、計畫ノ方法

本件施設ノ實行計畫ニ就テハ地方水産會ニ於テ豫メ關係當局並關係團體ト聯合協議會ヲ開催ノ上決定スルコト

● 鯉類トマト漬罐詰製造ニ關スル件

昭和十二年六月一日  
水第五一號經濟部長依命通牒

〔靜岡令一七號〕

今般農林省水産局長ヨリ首題ノ件ニ關シ岩手縣知事ヨリ別紙甲號ノ通申出アリタルニ對シ別紙乙號ノ通回答置候旨通牒有之候條右御合ノ上貴部内關係ノ向ヘ周知方可能御取計相成度

別紙甲號

十一水第七七六號

昭和十一年九月十一日

農林省水産局長殿

輸出「トマトサイザン」罐詰ニ關スル陳情書ノ件

管下盛岡市保證責任販賣購買利用組合岩手縣水産社ハ今回氣仙郡唐丹村ニ罐詰工場ヲ設置シ主トシテ「トマトサイザン」罐詰製造ヲナス計畫ニ有之先般來日本輸出罐詰業水産組合ニ對シ製造數量割當ノ交渉ノ結果新設工場トシテ一ヶ年三萬箱ノ割當相成度趣ヲ以テ別紙寫ノ通水産局監督課長宛陳情書提出致シ候旨申出有之候處本縣ハ漁業ノ經營比較ノ一方ニ通シ鯉及柔シテ鯉ノ利用方法ハ他府縣ニ比シ極メテ幼稚ニシテ未ダ九三%以上ヲ鯉粕ニ製造セラルル状態ニ鑑ミ岩手縣水産社ハ「トマトサイザン」罐詰製造計畫ヲ獎勵セル事情モ有之今日ニ到リ右計畫ニ阻礙ヲ生ズルトキハ會社ノ事業遂行上支障不渺モノ有之候條國際商品ノ健全ナル發達ノ爲生産並ニ販賣ノ統制ハ當然ノ措置ト被存候得共本縣漁村ノ實狀御考慮ノ上特別ノ御配慮相蒙度水産社ヨリ願出ノ次第モ有之候ニ付此段及御依頼候也

別紙乙號

一一水局第三一九二號

昭和十二年五月十七日

農林省水産局長

岩手縣知事殿

輸出「トマトサイザン」罐詰製造ニ關スル陳情書ノ件

昭和十一年九月十一日付十一水第七七六號ヲ以テ御依頼相成候標記ノ件ニ關シテハ貴縣ノ漁業及鯉利用上ノ實情ハ了承候モ鯉類トマト漬罐詰製造業者ヲ以テ組織スル全國的團體タル日本輸出罐詰業水産組合ニ於テハ豫テ新案ノ現況ニ鑑ミ内地朝鮮ヲ打ツテ一丸トスル生産及輸出ノ統制ヲ確立スルノ必要ヲ認メ昨年來計畫中ナリシ處過般生産數量ニ關シ内地朝鮮ヲ通シテノ基本方針ヲ樹立シ殊ニ内地ニ於テハ右ニ基キ前記水産組合ノ組合員間ノ生産割當ニ關スル規程モ本年一月同組合總會ニ於テ議了セラレ既ニ本統制ヲ實施シツアル次第ニ有之旁ラ目下生産能力ノ過多ナル新案ノ現狀並ニ本件罐詰ノ輸出商品タルノ點ヨリ看ルトキハ御申越ノ趣ハ目下ノ處其ノ實現困難ト被思料候條本件陳情書岩手縣水産社ニ對シ可然御示達相成度此段及回答候也

追而貴縣下ニ於ケル鯉漁業並ニ鯉利用方法ニ關シテハ別途執ルベキ方策ニ付今後一層御配慮相成候度右爲念申添候

● 靜岡縣漁獲物配給改善委員會規程

昭和十三年九月二十二日  
靜岡縣告示第八百十九號

靜岡縣漁獲物配給改善委員會規程左ノ通定ム

- 第一條 漁獲物ノ配給改善ニ關スル事項ヲ調査審議ノ爲靜岡縣漁獲物配給改善委員會ヲ設置ス
- 第二條 委員會ハ知事ノ諮問ニ應ジ及前條ノ事項ニ付知事ニ意見ヲ提出スルコトヲ得

第十二編 勸業 第七章 水産

〔靜岡令三三號〕

- 第三條 委員會ハ會長及委員若干名ヲ以テ組織ス
- 會長ハ知事ニ當リ委員ハ知事ノ之ヲ命ジ又ハ委嘱ス
- 第四條 會長ハ會務ヲ總理シ會議ノ議長トナル
- 會長事故アルトキハ知事ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス
- 第五條 委員會ニ幹事若干名ヲ置キ知事ノ之ヲ命ス
- 幹事ハ上司ノ指揮ヲ承ケ會務ヲ整理ス
- 第六條 委員會ニ書記ヲ置キ知事ノ之ヲ命ス
- 書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
- 第七條 委員ニ對シテハ旅費ヲ支給ス
- 前項ノ旅費額及其ノ支給方法ハ別ニ之ヲ定ム

● 靜岡縣漁獲物配給改善委員會旅費支給規程

昭和十三年九月二十二日  
靜岡縣告示第八百二十號

靜岡縣漁獲物配給改善委員會旅費支給規程左ノ通定ム

靜岡縣漁獲物配給改善委員會旅費支給規程

- 第一條 靜岡縣漁獲物配給改善委員會ノ會長、委員、幹事、書記、委員會ノ用務ニ付旅行シタル場合ハ本規程ノ定ムルトコロニ依リ旅費ヲ支給ス
- 第二條 官吏、官吏待遇者ニシテ委員、幹事、書記タル者ニ對シテハ其ノ官職相當額ニ依リ、支給方法ハ内國旅費支給規程ノ例ニ依ル
- 第三條 前條以外ノ委員ニ對シテハ前條ノ例ニ依リ左表ノ額ノ旅費ヲ支給ス

日當	宿泊料	車馬賃	鐵道賃
(一日)	(一夜ニ付)	(一里ニ付)	汽船賃
貳圓	參圓五拾錢	參拾五錢	二等運賃

四一一



●船鑑札規則施行細則

大正十五年六月三十日  
靜岡縣令第八十二號

船鑑札規則施行細則左ノ通定ム

船鑑札規則施行細則

第一條 船鑑札規則第三條及第七條第一項ニ依ル船舶ノ積量ノ測定ハ左ノ場所ニ於テ之ヲ行フ但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ他ノ場所ニ於テ施行スルコトアルヘシ

- 賀茂郡稻取町 同 郡下田町 同 郡三濱村
- 同 郡松崎町 同 郡田子村 同 郡細代町
- 同 郡伊東町 同 郡小室村 同 郡土肥村
- 同 郡戸田村 同 郡内浦村 沼津市
- 清水市 安倍郡長田村 志太郡焼津町
- 藤原郡相良町 同 郡吉田村 同 郡御前崎村
- 磐田郡鳳島村 同 郡掛塚町 濱名郡舞阪町
- 同 郡吉津村

第二條 船鑑札規則第二條ニ依リ提出スヘキ船鑑札交付申請書中測定ヲ受ケントスル場所ハ前條ニ規定スル場所ノ中ヨリ測定スヘシ但シ當廳ノ都合ニヨリ他ノ場所ニ於テ測定ヲ行フコトアルヘシ

測定ヲ行フヘキ場所及日時ハ當廳ヨリ申請者ニ之ヲ通知ス

附則

本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔靜岡令三三號〕

●船鑑札規則ニ關スル件

昭和七年六月二十五日  
水第三六五號内務部長通牒

其ノ筋ヨリ通牒有之候處今般船鑑札規則中改正(昭和七年四月十日官報參照)相成候ニ

付テハ爾今同規則ニ依リ所有者ニ於テ差出スベキ船鑑札書換交付並轉籍ノ各申請書ハ別記様式ニ依リ差出方御取計相成度

追而尺度ハ總ヘテメートル式ニ改メラレ其ノ換算率ハ一呎ニ付〇・三〇四八米ニ有之尙從來ノ登簿噸數ナル名稱ハ總噸數ト改メラレ尙又從前ノ規則ニ依リ船鑑札ヲ受有スル船舶ニ付テハ船舶所有者ノ申請ヲ俟タス當廳ニ於テ書換ノ上昭和九年六月三十日迄ニ交付可致ニ付爲念夫々申請候

船鑑札書換交付申請書

- 一、船鑑札番號
  - 二、船種(汽船、帆船ノ別)船名
  - 三、船籍港
  - 四、進水年月
  - 五、尺度(船ノ長、幅、深)
  - 六、積量(總噸數、純噸數)
  - 七、機關ノ種類(汽機、發動機、電動機ノ別)
  - 八、所有者ノ氏名又ハ名稱、住所又ハ共有者ナルトキハ各共有者ノ持分
  - 九、申請ノ事由
- 右船鑑札書換交付相成度此段及申請候也
- 年 月 日
- 住所 氏 名

知事宛

- 備考
- 一、船名變更ノ場合ハ新舊船名ヲ記載ノコト
  - 二、縣内ニ於ケル船籍港變更ノ場合ハ新舊船籍ヲ記載ノコト
  - 三、機關ノ種類變更ノ場合ハ新舊機關名ヲ記載ノコト

第十二編 勸業 第七章 水産

四、船舶所有者ノ變更ニ依ル場合ハ新所有者ヨリ變更ノ事實ヲ證スル書面(賣買證、讓渡證)ヲ添附ノコト

轉籍申請書

- 一、船鑑札番號
  - 二、船種(汽船、帆船ノ別)船名
  - 三、船籍港(新舊)
  - 四、進水年月
  - 五、尺度(船ノ長、幅、深)
  - 六、積量(總噸數、純噸數)
  - 七、機關ノ種類(汽機、發動機、電動機ノ別)
  - 八、所有者ノ氏名又ハ名稱、住所及共有者ナルトキハ各共有者ノ持分
  - 九、申請ノ事由
- 右船舶船籍港變更相成度此段及申請候也
- 年 月 日
- 住所 氏 名

知事宛

備考  
申請書ハ二通提出ノコト尙船舶所有者ノ變更ニ依ル場合ハ新所有者ヨリ變更ノ事實ヲ證スル書面(賣買證、讓渡證)ヲ添附ノコト

●船舶ノ検査執行地

明治三十年五月二十六日  
靜岡縣告示第四十四號

船舶検査法ニ依リ當廳ノ検査ヲ受ケヘキ船舶ノ検査執行地ヲ定ムルコト左

四一三



駿東郡沼津野川岸

安倍郡清水港

### 登簿噸數百噸以上ノ内外國航船ヲ新造若ハ外國ヨリ買入タルモノアルトキ〔海軍參謀部〕ニ於テ臨檢調査ノ件

明治二十五年七月二十三日  
静岡縣告示第四十號

凡ソ登簿噸數百噸以上ノ内外國航船ヲ新造若ハ外國ヨリ買入タルモノアルトキハ海上運給ニ係ル調査上必用ノ諸件ニ關シ〔海軍參謀部〕ニ於テ該船ニ臨檢調査候旨海軍大臣ヨリ達相來候條其旨心得ヘシ  
但既ニ該調査ヲ了リタル船舶ト雖モ爾後其構造ヲ變更シタル等ノ場合ニ於テハ更ニ臨檢調査セラルヘシ

### 登簿噸數百噸以上ノ内外國航船ヲ新造若ハ外國ヨリ買入タルモノアルトキ臨檢ハ海軍軍令部ニ於テ臨檢調査ノ件

明治二十九年五月一日  
静岡縣告示第三十二號

〔静岡令〕

### 海技免狀ヲ受有スル者其職務ヲ行フニ當リ衝突乗揚觸礁等ノ海難ニ罹リタル當該船長ヨリ届出アリタルトキノ取扱方

明治三十五年六月二日  
静岡縣訓令第十六號

海技免狀ヲ受有スル者其職務ヲ行フニ當リ衝突乗揚觸礁等ノ海難ニ罹リタルトキハ當該船長ヨリ其他若クハ爾後始メテ到着シタル地ノ官署公署ニ届出ヲナシ之ヲ受理若クハ其事實ヲ認知シタル官吏公吏ハ當該海技免狀受有者及必要關係人ニ對シ事實ノ取調ヲナシ調査ヲ直ニ其船籍港ヲ管轄スル地方海員審判所理事官ニ送致スヘキ筋合ナルニ近來沿岸駐在警察官吏又ハ町村長ニ於テ海難ノ届出アルモ之ヲ受理シタル儘何等ノ取調ヲナサズ又其事實ヲ認知スルモ何等ノ手續ヲナササル向有之爲メニ審判所ハ海事局海務課ノ設置ナキ地方沿岸ニ於テ發生シタル海難事件ヲ認知スルノ機ヲ失シ偶々事件發生後數月ヲ經テ船舶定期検査ノ際検査官ニ於テ之ヲ認知スルコトアルモ諸般ノ證據證據シテ審理スルニ由ナリ結局當該海技免狀受有者ヲシテ不當ニ其懲戒ヲ免レシムル場合往々有之是ヲ等閑ニ付スルトキハ故意ニ届出ヲナササルモノヲ增加スルノ虞アルノミナラス海員懲戒法ノ精神ニ反シ船舶貨物旅客及海員ヲ保護スル所似ニアラサル儀ニ有之候條爾來縣下ニ於テ海難ニ罹リ若クハ他ヨリ到着シタル海難船舶ニシテ未ダ取調ヲ受ケサルモノヲ認知シタルトキハ届出ノ有無ニ拘ハラズ進シテ事實ノ取調ヲナシ其調査ヲ若シ取調ヲナスコト能ハサル事由アリタルトキハ其旨ヲ附記シ海難屬書ヲ管轄地方海員審判所理事官ニ送致スヘシ

明治二十五年七月告示第四十號海軍參謀部ニ於テ船舶臨檢ノ件ハ自今海軍軍令部ニ於テ臨檢調査可相成ニ付此旨各船主ニ告示ス

### 陸軍參謀本部員ヲ派遣各港ノ汽船ヲ實地調査セシムル件

明治二十九年七月二十二日  
甲第十三號

軍事上運輸ニ保ハル必要ノ諸件調査ノ爲メ參謀本部員ヲ派遣シ各港ノ汽船ニ就キ實地調査セシムルコト可有之旨海軍大臣ヨリ被達候條此旨豫メ各船主ニ達シ置クヘシ

### 船舶衝突豫防法ニ關シ注意

明治二十九年五月十日  
甲第十號

海難取調書中汽船ト和船若ハ漁船トノ衝突ニ關スル事項ヲ調査スルニ和船若ハ漁船ニ於テ成規ノ燈火ヲ標示セサルニヨリ此災害ヲ惹起スルモノ十中八九ニ居レリ元來衝突豫防法ハ此等ノ災害ヲ豫防セシムル爲メ制定セラレタルモノナルニ拘ラス和船若ハ漁船乗組員ニ在テハ往々該法ノ何タルヲ辨知セサルモノアリテ遂ニ船舶ヲ破損シ生命貨物ヲ亡失シ加之自己曲者トナリテ訴フル所ナキニ至ル莫ニ慨歎ニ堪ヘサル次第ニ付向後警察官及町村長等ニ於テ右等營業者ニ對シ其業務上該法ノ遵守セサル可ラサル所以ヲ懇到諭告シ災害ヲ未然ニ防除スル様注意スヘシ

### 内外國艦船等危難ニ罹リタル節ノ報告方

明治二十四年一月二十日  
甲第一號

内外國艦船等危難ニ罹リタル節報告方左ノ通り海軍大臣ヨリ達相成候條船舶會社及船主ハ所屬町村役場ヨリ通達スヘシ  
〔都役所〕 市役所 警察署 〔警察分署〕 町村役場  
内外國艦船ニシテ本邦沿岸ニ於テ危難ニ罹リタルモノアルトキハ島嶼那區役所町村役場警察署等ヨリ電報ヲ以テ海軍省及該海軍區ノ鎮守府ニ報告スヘシ又軍艦其附近ニ在ルトキハ直ニ軍艦ニ報告スヘシ  
船舶會社若クハ船主其所有ノ船舶危難ニ罹リタルトキハ該會社若クハ船主ヨリ電報ヲ以テ海軍省及該海軍區ノ鎮守府ニ報告シ又軍艦其附近ニ在ルトキハ直ニ軍艦ニ報告スヘシ  
前兩項トモ海軍艦船ノ救護ヲ要スルニ及ハスト思考スルトキハ報告セサルモ妨ナキコト心得ヘシ

### 公設航路標識業務規則制定ニ關スル件

昭和七年九月三日  
商第九四六號内務部長通牒

今般選信省令第二七號(八月五日官報第一六八〇號)ヲ以テ公設航路標識業務規則ハ制定八月二十日ヨリ實施セラレ府縣市町村立航路標識ノ業務執行方ヲ規定シ其ノ監督ヲ燈臺局ニ於テ爲スコト、相成候條ニ就テハ同規則ニ付左記各項了知ノ上過誤無之様致度



一、燈臺、燈竿、導燈、挂燈浮標ニハ必ス看守長及一名以上ノ看守員ヲ置キ當該航路標識ノ業務ヲ執行セシムルコトヲ要ス(必スシモ專任ナルヲ要セス)現ニ點燈中ノ右航路標識ニシテ之ニ適合セサルモノハ至急補充セサルヘカラス

但シ點燈又ハ同轉セサル不動電燈若ハ看守長一名ノミニテ十分業務ヲ執行シ得ト認メラル、モノニシテ事由ヲ具シ當局ノ認可ヲ受ケタル場合ハ看守長一名ノミヲ置クコトヲ得又附近ヲ看守長ヲ置ク航路標識(官設公設ヲ問ハス)ヲ有スルモノハ同様當局ノ認可ヲ受ケレハ同様標識ノ管理ニ屬セシムルコトヲ得

二、看守長居住地ヨリ距離リ且同燈火又ハ標體ヲ望見シ能ハサル航路標識若ハ看守長ヲ置カサル標體(燈火ヲ點セサル航路標識ヲ謂フ)ニハ之ヲ望見シ得ル土地ノ居住者中適當ナル者ヲ選ヒ同標識ノ看視人ヲ命ジシカ異變發見次第同標識看守長若ハ管理者ニ速報セシムルコトヲ要ス

三、看守長ハ規則ノ示ス通り當該航路標識ノ業務執行ニ關スル全責任ヲ負フモノニシテ從事員ヲ監督シ諸般ノ事務ヲ掌ルモノトス

看守長ハ當局又ハ當局ノ指定スル燈臺ニ於テ一ヶ月乃至三ヶ月間(取扱燈器ノ難易ニ依リ伸縮ス)必要ナル看守業務ヲ傳習ヲ受ケ成業シタルモノナラテハ採用スルコトヲ得又右傳習ヲ了ヘタル者ニハ當局ヨリ適任證ヲ付與ス

但シ機器簡單ニシテ其ノ取扱容易ナルモノニシテ右傳習ノ必要ナシト當局ニテ認定シタルトキハ之ヲ免シ認定證ヲ付與ス

四、傳習ニ要スル旅費、衣食費等一切ノ費用ハ本人若ハ當該標識ヲ維持スル道、府縣、市町村ニ於テ之レヲ負擔スルモノトス

五、看守長、看守員又ハ看視人ヲ採用シタルトキハ履歷書寫(看守長ノ場合ハ適任證又ハ認定證寫ヲモ)ヲ添ヘ當局宛届出ヲ要ス

之ヲ解免シタル場合亦其ノ旨當局宛届出ヲ要ス

〔附則令〕

六、公設航路標識用品中規則第八條ニ掲グルモノハ當局ノ檢定又ハ認可ヲ得タル後ニ非サレハ使用スルコトヲ得ス

前項ニヨリ檢定若ハ認可ヲ經タル機器ノ要部ヲ修繕シ又ハ之ニ加工シタルトキ亦前項同様ノ手續ヲ要ス

從テ航路標識用品ノ製作又ハ修繕加工方法文ニ際シテハ當局ノ檢定済納入ノ條件ヲ付スルヲ便利トスヘシ

七、燈臺、燈竿、挂燈浮標ノ如キ燈火ヲ點スル航路標識ニハ現用ノ外豫備燈器一組ヲ備付ケサルヘカラス但シ同一種類ノ燈器ヲ用フル標識ニ基以上ヲ管理スル個所ノ豫備燈器ハ二基ニ一個ノ割合ヲ以テ之ヲ備付ケルコトヲ得

電燈ヲ光源トスル箇所ニハ豫備機ノ外停電斷線其ノ他ノ故障ノ爲電燈ヲ點スル能ハサル場合ノ用意ニ石油燈瓦斯燈ノ如キ非常時用燈器ノ備付ヲ要ス豫備燈器又ハ非常用燈器ノ現ニ備付ナキ向ハ直チニ其ノ備付ヲ爲サレヘカラス

八、總テノ公設航路標識ハ其ノ業務ノ開始廢止休止ハ勿論復舊迄數時間以上ヲ要スル異變(燈火消滅著シキ燈質變化、浮標ノ流失、立標導標ノ倒壞等ヲ謂フ)ニ關シテハ其ノ發生及復舊ノ都度當局宛電報ヲ要ス

右ハ航路標識ノ重要性ニ鑑ミ直チニ一般船舶宛公示ノ要アレハナリ

九、總テノ航路標識外部ノ定色ハ常ニ艦船ヨリノ認識ニ便ナラシムル爲其ノ褪色剝脫ニ留意シ認識困難トナラサル以前ニ塗裝セサルヘカラス

一〇、浮標(挂燈浮標ヲ含ム)ハ潮流波浪等ノ爲移動スルコトアリ且時ニ艦船ノ接觸ニ依リ毀損又ハ燈火消滅スルコトアルヲ以テ常ニ其ノ位置及現狀ニ注意シ移動セルヲ認メタルトキハ直ニ原位置ニ復セシメ毀損ノ爲流失沈没等ノ懸念アルトキハ修補又ハ豫備品ト交換スル等機宜ノ處置ヲ執

〔附則令〕

### 私設海路標識統計様式

明治二十年十一月七日  
農第一九八八號

私設海路標識統計様式本年ヨリ左ノ様式ニ依リ調製シ翌年二月十日迄ニ當局ヘ差出スヘシ

第一 明治何年分私設燈標統計表				第二 明治何年分私設畫標統計表			
燈標	維持費	合計	何處	畫標	維持費	合計	何處
給料	燈油	燈費	何處	給料	修繕	標費	何處
代	修繕	入港	形	費	入港	日本	形
費	費	船	西洋	船	船	西洋	形
		船	日本	船	船	西洋	形
		船	各	船	船	西洋	形
		船	合	船	船	西洋	形
		船	計	船	船	西洋	形
		船	高	船	船	西洋	形
		船	收	船	船	西洋	形
		船	入	船	船	西洋	形
		船	港	船	船	西洋	形
		船	船	船	船	西洋	形
		船	各	船	船	西洋	形
		船	合	船	船	西洋	形
		船	計	船	船	西洋	形
		船	高	船	船	西洋	形
		船	收	船	船	西洋	形
		船	入	船	船	西洋	形
		船	港	船	船	西洋	形
		船	船	船	船	西洋	形
		船	各	船	船	西洋	形
		船	合	船	船	西洋	形
		船	計	船	船	西洋	形
		船	高	船	船	西洋	形
		船	收	船	船	西洋	形
		船	入	船	船	西洋	形
		船	港	船	船	西洋	形
		船	船	船	船	西洋	形
		船	各	船	船	西洋	形
		船	合	船	船	西洋	形
		船	計	船	船	西洋	形
		船	高	船	船	西洋	形
		船	收	船	船	西洋	形
		船	入	船	船	西洋	形
		船	港	船	船	西洋	形
		船	船	船	船	西洋	形
		船	各	船	船	西洋	形
		船	合	船	船	西洋	形
		船	計	船	船	西洋	形
		船	高	船	船	西洋	形
		船	收	船	船	西洋	形
		船	入	船	船	西洋	形
		船	港	船	船	西洋	形
		船	船	船	船	西洋	形
		船	各	船	船	西洋	形
		船	合	船	船	西洋	形
		船	計	船	船	西洋	形
		船	高	船	船	西洋	形
		船	收	船	船	西洋	形
		船	入	船	船	西洋	形
		船	港	船	船	西洋	形
		船	船	船	船	西洋	形
		船	各	船	船	西洋	形
		船	合	船	船	西洋	形
		船	計	船	船	西洋	形
		船	高	船	船	西洋	形
		船	收	船	船	西洋	形
		船	入	船	船	西洋	形
		船	港	船	船	西洋	形
		船	船	船	船	西洋	形
		船	各	船	船	西洋	形
		船	合	船	船	西洋	形
		船	計	船	船	西洋	形
		船	高	船	船	西洋	形
		船	收	船	船	西洋	形
		船	入	船	船	西洋	形
		船	港	船	船	西洋	形
		船	船	船	船	西洋	形
		船	各	船	船	西洋	形
		船	合	船	船	西洋	形
		船	計	船	船	西洋	形
		船	高	船	船	西洋	形
		船	收	船	船	西洋	形
		船	入	船	船	西洋	形
		船	港	船	船	西洋	形
		船	船	船	船	西洋	形
		船	各	船	船	西洋	形
		船	合	船	船	西洋	形
		船	計	船	船	西洋	形
		船	高	船	船	西洋	形
		船	收	船	船	西洋	形
		船	入	船	船	西洋	形
		船	港	船	船	西洋	形
		船	船	船	船	西洋	形
		船	各	船	船	西洋	形
		船	合	船	船	西洋	形
		船	計	船	船	西洋	形
		船	高	船	船	西洋	形
		船	收	船	船	西洋	形
		船	入	船	船	西洋	形
		船	港	船	船	西洋	形
		船	船	船	船	西洋	形
		船	各	船	船	西洋	形
		船	合	船	船	西洋	形
		船	計	船	船	西洋	形
		船	高	船	船	西洋	形
		船	收	船	船	西洋	形
		船	入	船	船	西洋	形
		船	港	船	船	西洋	形
		船	船	船	船	西洋	形
		船	各	船	船	西洋	形
		船	合	船	船	西洋	形
		船	計	船	船	西洋	形
		船	高	船	船	西洋	形
		船	收	船	船	西洋	形
		船	入	船	船	西洋	形
		船	港	船	船	西洋	形
		船	船	船	船	西洋	形
		船	各	船	船	西洋	形
		船	合	船	船	西洋	形
		船	計	船	船	西洋	形
		船	高	船	船	西洋	形
		船	收	船	船	西洋	形
		船	入	船	船	西洋	形
		船	港	船	船	西洋	形
		船	船	船	船	西洋	形
		船	各	船	船	西洋	形
		船	合	船	船	西洋	形
		船	計	船	船	西洋	形
		船	高	船	船	西洋	形
		船	收	船	船	西洋	形
		船	入	船	船	西洋	形
		船	港	船	船	西洋	形
		船	船	船	船	西洋	形
		船	各	船	船	西洋	形
		船	合	船	船	西洋	形
		船	計	船	船	西洋	形
		船	高	船	船	西洋	形
		船	收	船	船	西洋	形
		船	入	船	船	西洋	形
		船	港	船	船	西洋	形
		船	船	船	船	西洋	形
		船	各	船	船	西洋	形
		船	合	船	船	西洋	形
		船	計	船	船	西洋	形
		船	高	船	船	西洋	形
		船	收	船	船	西洋	形
		船	入	船	船	西洋	形
		船	港	船	船	西洋	形
		船	船	船	船	西洋	形
		船	各	船	船	西洋	形
		船	合	船	船	西洋	形
		船	計	船	船	西洋	形
		船	高	船	船	西洋	形
		船	收	船	船	西洋	形
		船	入	船	船	西洋	形
		船	港	船	船	西洋	形
		船	船	船	船	西洋	形
		船	各	船	船	西洋	形
		船	合	船	船	西洋	形
		船	計	船	船	西洋	形
		船	高	船	船	西洋	形
		船	收	船	船	西洋	形
		船	入	船	船	西洋	形
		船	港	船	船	西洋	形
		船	船	船	船	西洋	形
		船	各	船	船	西洋	形
		船	合	船	船	西洋	形
		船	計	船	船	西洋	形
		船	高	船	船	西洋	形
		船	收	船	船	西洋	形
		船	入	船	船	西洋	形
		船	港	船	船	西洋	形
		船	船	船	船	西洋	形
		船	各	船	船	西洋	形
		船	合	船	船	西洋	形
		船	計	船	船	西洋	形
		船	高	船	船	西洋	形
		船	收	船	船	西洋	形
		船	入	船	船	西洋	形
		船	港	船	船	西洋	形
		船	船	船	船	西洋	形
		船	各	船	船	西洋	形
		船	合	船	船	西洋	形
		船	計	船	船	西洋	形
		船	高	船	船	西洋	形
		船	收	船	船	西洋	形
		船	入	船	船	西洋	形
		船					



何處立標	
何處陸標	
何處浮標	
合計	

### 清水横濱稅關支署監視區域

明治三十年八月三日  
靜岡縣告示第七十九號

〔明治三十年七月勸令第二百四十號〕ニ依ル清水横濱稅關支署監視區域左記  
之通相定メ本月一日ヨリ事務開始候旨横濱稅關長ヨリ通牒アリ  
清水横濱稅關支署監視區域  
清水灣北與津川口ヨリ南一圓  
清水灣北與津川口ヨリ南一圓  
出鼻出來畑ニ至ル

### 第八章 商工

#### 銀行竝ニ貯蓄銀行出張所代理店ニ關スル取扱手續

明治二十六年十一月二十一日  
甲第三十八號

〔部投所〕市役所 町村役場

銀行並ニ貯蓄銀行出張所代理店ニ關スル取扱手續左ノ通り心得可シ  
一 銀行又ハ貯蓄銀行ニ於テ出張所其他何等ノ名義ヲ用フルニ拘ハラズ  
一定ノ場所ヲ設ケ銀行又ハ貯蓄銀行事業ノ全部若クハ其一部ヲ營ム  
トキハ其場所ヲ支店ト見做シ貯蓄銀行ニ在リテハ之ヲ設置スルノ認  
可ヲ得タル上ニ開業期日及印鑑ヲ銀行ニ在リテハ其名稱營業所開業  
期日及印鑑ヲ主務大臣宛届出ノ手續ヲ爲サシムヘシ  
一 貯蓄銀行ニ於テ代理店ヲ置クトキハ契約書ヲ添ヘ主務大臣ヘ届出ノ  
手續ヲ爲サシムヘシ

#### 銀行事業ヲ營ム會社ノ資本増減申請書ニ添付スヘキ書類

明治二十七年六月十日  
甲第十九號

〔部投所〕市役所 町村役場  
自今銀行事業ヲ營ム會社ヨリ差出ス資本増減ノ認可申請書ニハ資本増減ノ理由及ヒ其拂込拂戻ノ期日方法等總會ノ決議案ヲ具シタル參考書ヲ添付セシムヘシ

〔靜岡令一號〕

但各人ハ申請書ニ増減ノ理由ヲ記載セシムヘシ

#### 信用組合ノ貯金ト無盡ニ關スル件

昭和十年十一月二日  
産第一六九二號經濟部長通牒

〔靜岡令一號〕

信用組合ノ業務トシテ組合員中ヨリ一定ノ貯金者ヲ集メ組又ハ團ヲ組織シ兼メ一定セル掛金ヲ拂込マシメ且拂戻金ヲモ一定シ置キ一口毎ニ抽籤ノ方法ニ依リ給付ヲ爲スハ無盡業法第一條ニ所謂無盡ニ該當スルモノニ有之信用組合カ新ル業務ノ經營ヲ爲スコトハ不適當ト被認認テ以テ主務省ヨリ通牒越ノ次第モ有之候條管内信用組合ニ此ノ旨周知相成度

#### 國民貯蓄獎勵運動ニ伴フ信用組合及同聯合會貯金趨勢調査ノ件

昭和十三年七月五日  
産第一三二八號經濟部長通牒

〔部投所〕市役所 町村役場

國民貯蓄獎勵運動ニ關シ産業組合ノ貯金趨勢調査ノ必要有之候條昭和十三年六月以降毎月左記様式ニ依リ翌月十日迄ニ御報告相成様貴部内信用組合及同聯合會ニ御示達相成度

信用組合貯金額報告（月分）

種別	本月末貯金額	前月末貯金額	差引増減額 (△印ハ減)	備考
定期貯金				
當座貯金				
計				

右報告候也

昭和 年 月 日

市郡 町 村 香地

何責任何 組合 理事 氏

名印

靜岡縣知事宛

四一八ノ一



備考

- 一、「定期的貯金」トハ定期貯金、摺置貯金、積立貯金等ノ定期的貯金ヲ含ミ「當座貯金」トハ當座貯金、特別當座貯金、普通貯金、通知貯金等ノ當座貯金ヲ含ム
- 二、信用組合聯合會ニ於テハ本様式ニ準シ作成シ備考欄ニハ所屬信用組合ヨリノ本月末現在貯金額ヲ記載(内書)スルコト

### ●静岡縣工業試驗場規程

明治四十二年四月八日 静岡縣訓令乙第二四三號

修正 明治四十五年訓令乙第一八五號、大正二年第一號、四年第二八六號、五年第二二八號、六年第五一號、第一九一號、九年第一一號、一〇年第二三九號、一二年第一八五號、一三年第一九五號、昭和三年一月第二五七號、六年三月第九二號、七年三月第九八號、一一年一月第三三八號、一二年一〇月第三一〇號、一三年一月第二四二號

明治三十九年四月訓令乙第三七四號静岡縣工業試驗場規程左ノ通改正シ明治四十二年四月十日ヨリ之ヲ施行ス

#### 静岡縣工業試驗場規程

第一條 工業試驗場ハ工業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トシ左ノ業務ヲ行フモノトス

- 一、染色、機械、整理、漆器、圖案、木工、製紙ノ技術ニ關スル試驗及研究
  - 二、工業能率増進ニ關スル研究
  - 三、原料、材料及製品等ノ分析試驗及鑑定
  - 四、工業用器械器具ノ檢定
  - 五、工業技術ニ關スル質疑應答、實地指導、講話及傳習
  - 六、工業參考品ノ配布
  - 七、其ノ他工業技術ノ改良發達ヲ計ルニ必要ナル事項
- 第二條 静岡縣静岡工業試驗場ヲ静岡市ニ静岡縣静岡工業試驗場島田分場ヲ志太郡島田町ニ静岡縣濱松工業試驗場ヲ濱松市ニ静岡縣濱松工業試驗場北部分場ヲ濱名郡小野口村ニ静岡縣製紙工業試驗場ヲ富士郡今泉村ニ置キ左ノ業務ヲ分掌セシム

〔静岡令三五號〕

〔静岡令三一號〕

#### 静岡縣静岡工業試驗場

- 一、漆器部
- 一、木工部
- 一、染色部
- 一、圖案部
- 一、機械部
- 一、庶務部

#### 静岡縣濱松工業試驗場

- 一、染色部
- 一、機械部
- 一、圖案部
- 一、整理部
- 一、能率部
- 一、庶務部

#### 静岡縣濱松工業試驗場北部分場

- 一、機械部
- 一、染色部
- 一、圖案部
- 一、庶務部

#### 静岡縣製紙工業試驗場

- 一、製紙部
- 一、庶務部

第三條 工業試驗場ニ左ノ産業職員ヲ置ク  
場長  
技師



技手

主事補

- 第四條 場長ハ技師ヲ以テ之ニ充テ知事ノ指揮監督ヲ承ケ場務ヲ掌理ス
- 第五條 技師技手ハ場長ノ指揮ヲ承ケ場務ニ従事ス
- 第六條 主事補ハ場長ノ指揮ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス
- 第七條 場長事故アルトキハ上席職員其ノ事務ヲ代理ス
- 第八條 左ニ掲グル事項ハ場長ニ於テ知事ニ稟何ノ上之ヲ處理スヘシ
  - 一、規程施行上ニ關スル細則ノ制定改廢
  - 二、職員ノ管外出張但シ即日歸縣ノ場合ハ場長處理シ事後知事ニ報告スヘシ
- 第九條 左ニ掲グル事項ハ場長之ヲ處理スヘシ
  - 一、製作物ノ拂下
  - 二、助手ノ命免
  - 三、職員ノ事務分掌
  - 四、職員ノ私事旅行歸省
  - 五、傳習生ノ入退場
  - 六、土地建物現形ノ變更並臨時賃借
  - 七、職員ノ管外出張除服出仕
  - 八、雇員職工小使ノ命免並人夫ノ雇入

- 前項第一號乃至第六號ノ事項ハ處理後之ヲ知事ニ報告スヘシ但シ第四號ハ管外ノ場合ニ限ルモノトス
- 第十條 場長出張ヲ要スルトキハ管外出張ハ知事ノ認可ヲ經管内出張ハ事後報告スヘシ
- 第十一條 旅費ヲ支辨シテ職員ノ出張ヲ請求スル者アルトキハ場長ニ於テ知事ノ認可ヲ經之ヲ處理スヘシ但シ管内出張及即日歸場ノ管外出張ハ場

〔靜岡令三五號〕

静岡縣工業試驗場分場設置

- 長之ヲ處理スヘシ
  - 第十二條 職員出張シタル時ハ歸廳後五日以内ニ復命書ヲ作り場長ハ直ニ技師以下ハ場長ヲ經テ之ヲ知事ニ提出スヘシ但シ技師以下ノ管内出張ニ付テハ此限ニアラス
  - 第十三條 場長ハ主管事務ニ付各官廳等ニ照會往復スルコトヲ得
  - 第十四條 場長ハ毎年三月二十日迄ニ翌年度ニ於ケル業務計劃ヲ、毎年五月十五日迄ニ前年度ニ於ケル業務ノ成績ヲ知事ニ報告スヘシ但シ緊急必要ノ事項ハ其ノ都度之ヲ報告スヘシ
  - 第十五條 場長及主任者ハ試驗分析鑑定請求者ニ交付スヘキ成績書並ニ證明書ニ署名捺印スヘシ
  - 第十六條 試驗分析鑑定ハ各主任者ニ於テ終了ノ上ハ其ノ成績ヲ直ニ場長ニ提出スヘシ
  - 第十七條 職員ノ執務時間及祭日休日ハ官廳ノ例ヲ準用スヘシ
- 昭和十一年十一月四日  
静岡縣告示第千號

〔靜岡令一二號〕

内務部勤務濱松工業試驗場兼務 産業技師執務方

大正十三年六月十八日  
靜岡縣訓令乙第三〇四號

- 内務部勤務、濱松工業試驗場兼務タル産業技師ノ執務方左記ノ通り定ム
- 一、濱松工業試驗場ニ於テ勤務スヘシ
- 二、毎月第一、第三月曜日ニハ登壇シ内務部商工係ニ於テ勤務スヘシ但シ登壇ニ要スル旅費ハ宿泊シタル場合ヲ除ク外汽車賃ノミヲ支給ス
- 三、管内出張ハ濱松工業試驗場場長ノ決裁ヲ受クヘシ
- 四、濱松工業試驗場勤務中ノ提出書類ハ同試驗場場長ヲ經由スヘシ

工業試驗場漆器部、紙業部、庶務部、染織部設置

明治三十九年三月二十三日  
靜岡縣告示第七十二號

靜岡縣工業試驗場漆器部、紙業部、庶務部ヲ靜岡市ニ染織部ヲ〔濱名郡〕濱松〔町〕ニ設置シ來明治三十九年九月ヨリ開場ス

工業試驗場商議員規程

明治四十二年四月八日  
靜岡縣訓令乙第二四六號

大正九年訓令乙第一二二號、昭和七年三月第一〇一號  
〔内務部〕工業試驗場  
靜岡縣工業試驗場商議員規程左ノ通相定メ明治四十二年四月十日ヨリ之ヲ

施行ス

- 第一條 静岡縣工業試驗場商議員規程
- 第二條 工業試驗場ニ商議員若干名ヲ置ク
- 第三條 商議員ハ漆器、木工、染色、機織、圖案、整理、能率ニ關スル業務ニ從事シ特種ノ技能ヲ有スル者若ハ斯業ニ經驗ヲ有スル者ノ中ヨリ知事之ヲ囑託ス
- 第四條 商議員ノ任期ハ二箇年トス但シ團體ノ役員ニ囑託シタル場合ニ在リテハ其ノ失職ト同時ニ資格消滅スルモノトス
- 第五條 商議員ハ場長ノ諮問ニ答申シ又ハ斯業ニ關スル意見ヲ場長ニ提出スルコトヲ得
- 第六條 場長ハ必要ニ應ジ商議員ヲ召集スルコトヲ得
- 第七條 商議員ニ於テ協議ヲ必要ト認ムル事項アルトキハ商議員會ノ開會ヲ場長ニ請求スルコトヲ得
- 第八條 場長ハ商議員會ノ概況ヲ其ノ時々知事ニ報告スヘシ

工業試驗場工作物拂下並委託製作規程

明治四十二年四月八日  
靜岡縣訓令乙第二四四號

- 第一條 大正元年訓令乙第一〇〇號、六年第五二號、九年第一一三號、昭和七年三月第九九號  
〔内務部〕工業試驗場  
靜岡縣工業試驗場工作物拂下並委託製作規程左ノ通相定メ明治四十二年四月十日ヨリ之ヲ施行ス
- 第二條 靜岡縣工業試驗場工作物拂下並委託製作規程
- 第三條 工業試驗場製作品拂下ノ見積價格ハ職員ノ評價ニ依リ場長之ヲ定ム







靜岡縣工業試驗場長宛 組長 氏 名

- 一、借受機械ノ捐付及使用ニ關スル計畫
- 一、主任技術者ノ住所氏名及履歷ノ概要
- 一、機械捐付決定場所

何々機械貸下願(會社ノ提出スヘキモノ)

貴場御備付ノ前記機械ハ當會社ニ於テ營業能任候何々工業ノ發達改善ヲ圖ル爲メ最モ必要ノモノト思料仕候ニ就テハ當會社ニ於テ該機械ノ御貸下ヲ受ケ之ヲ實地ニ使用シテ周ク其ノ效果ヲ營業者ニ示シ以テ貴場御趣旨ノ存スル所ヲ貫徹スルニ努メ度最モ借受ニ關スル一切ノ責任ハ當會社ニ於テ負擔可致ハ勿論御命令事項壓ク遵奉可仕候ニ付何卒願意御聽許被成下度此段奉願候也

年 月 日

會社所在地及會社名

代表者 氏 名

- 一、借受機械ノ捐付及使用ニ關スル計畫
- 一、主任技術者ノ住所氏名及履歷ノ概要
- 一、常時備使スル職工ノ員數
- 一、機械捐付決定ノ場所

### ●靜岡縣製紙工業試驗場設置

〔靜岡令二一號〕

昭和十二年十月二日  
靜岡縣告示第九號  
靜岡縣富士郡今泉村今泉

四二四

### ●工業研究獎勵金ニ關スル件

昭和九年五月五日  
商第五五七號內務部長通牒

市町村長宛

商工省ニ於テハ毎年豫算内ニ於テ工業研究獎勵金ヲ民間營業者其ノ他ニ交付シ基礎的研究ヲ終リタルモノノ工業化ニ關スル研究ヲ獎勵シツツ有之候處今般本施設ニ關シ工業研究獎勵金交付規則(昭和九年四月二十四日商工省令第九號)制定相成候ニ付テハ貴部内關係方面ニ對シ右ノ趣旨ヲ徹底セシメラレ度今後ハ當該規則ニ依リ獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ニ付左記ニヨリ申請書二通提出(縣經由)セシメラレル様商工省工務局長ヨリ通牒有之候

追テ提出期日ハ本年度ニ限り六月十五日迄ニ付爲念申添候

- 第一 工業研究獎勵金交付規則第三條第一項ニ據ル申請書ノ記載ハ左ノ三要件ニ依ルコト
  - 一、研究事項
    - (イ)例ヘバ飛行機用バルブ鋼ノ製造、醱酵法ニ依ルアセトンノ製造等ノ如ク研究スベキ事項ヲ簡明ニ掲記スルコト
    - (ロ)研究事項ヲ異ニスルトキハ各事項毎ニ申請書ヲ調製スルコト
  - 二、研究ヲ必要トスル事由
- 研究ニ依リ製造セントスル製品ガ從來輸入ニ俟テルモノナルトキハ其ノ

〔靜岡令〕

### (六) 研究費豫算

- (イ) 研究ノ爲支辨ヲ要スル一切ノ費用ヲ設備費(建物費ヲ除ク)原料及材料費、電力費、燃料費、消耗品費、人件費、雜費等ノ科目ニ分類計上シ尙其ノ内譯ヲ詳細ニ記載スルコト但シ從來研究ノ爲要シタル費用ハ之ヲ包含セシメザルコト
- (ロ) 研究製品賣却代其ノ他研究ニ伴フ收入アルモノニ付テハ詳細ニ其ノ收入豫算ヲ記載スルコト
- (ハ) 研究期間一年以上ニ互ルモノニ付テハ一年毎ニ分割計上スルコト
- (七) 研究ノ場所
- 研究ノ場所二箇所以上ニ互ルトキハ各場所毎ニ其ノ所在地ヲ記載スルコト
- (八) 研究擔當主任者
- 其ノ氏名ヲ記載シ尙履歷書ヲ添附スルコト
- 五、交付ヲ受ケントスル獎勵金ノ額
- 研究期間一年以上ニ互ルトキハ一年毎ニ分割記載スルコト
- 第二 工業研究獎勵金交付規則第三條第二項ニ據リ申請書ニ添附スル「事業ノ概況」ニハ創業年月、主要生産品目及其ノ最近一年間ニ於ケル生産額、使用職工數等ヲ記載スルコト
- 工業研究獎勵金交付規則(昭和九年四月二十四日商工省令第九號)
- 第一條 商工大臣ハ工業ノ改善發達ニ資スル研究ヲ獎勵スル爲本期ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ工業研究獎勵金ヲ交付ス
- 第二條 獎勵金ハ基礎的研究ヲ終了シ其ノ工業化ヲ圖ル目的ヲ以テ行フ研究ニ對シ之ヲ交付ス
- 商工大臣必要アリト認ムルトキハ特ニ獎勵セントスル研究事項ヲ告示スルコトアルベシ

四二五

- (三) 研究ノ規模
- 研究ニ依リ製造セントスル製品ノ數量ヲ良品ト不良品トニ區別シテ記載スルコト
- (四) 研究用設備
- (イ) 研究ニ使用スル既設設備ト新ニ備付ケントスル設備トニ區別シテ各設備毎ニ員數、寸度、能力、用途等ヲ記載シ尙當該設備ニ依リ支障ナク作業シタルトキノ生産數量ヲ記載スルコト
- (ロ) 研究ノ場所二箇所以上ニ互ルトキハ各場所毎ニ
- (イ)ノ事項ヲ記載スルコト
- (五) 研究ノ期間
- 研究ニ要スル豫定期間ヲ記載スルコト

輸入額ヲ掲ゲ或ハ從來ノ製造方法ノ改善ニ付研究セントスルトキハ其ノ方法ニ於ケル缺陷ヲ舉ゲル等當該研究ガ我國工業ノ改善發達上必要ナル事由ヲ技術上及經濟上ヨリ具體的ニ記載スルコト

三、研究ニ關スル從來ノ經過

研究事項ニ關シ從來爲シタル研究ノ方法、過程成績、經費等ヲ詳細ニ記載スルコト

四、研究ニ關スル計畫

(一) 研究ノ方法

研究事項ノ細目ヲ列舉シテ各細目毎ニ實施セントスル方法ヲ具體的ニ詳記シ尙研究期間一年以上ニ互ルトキハ一年毎ニ分割記載スルコト

(二) 研究ノ目標

研究ニ依リ製造セントスル製品ノ品質其ノ他ノ規格、採收率、生産費等ノ見込ヲ外國製品又ハ從來ノ方法ニ依ルモノニ比較シテ記載スルコト



第三條 獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ毎年四月三十日迄ニ商工大臣ニ之ヲ提出スベシ但シ前條第二項ニ依リ告示シタル研究事項ニ付獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ當該告示ノ日ヨリ二月内ニ申請書ヲ提出スベシ

- 一、研究事項
二、研究ヲ必要トスル事由
三、研究ニ關スル從來ノ經過
四、研究ニ關スル計畫

- (一) 研究ノ方法
(二) 研究ノ目標
(三) 研究ノ規模
(四) 研究用設備
(五) 研究ノ期間
(六) 研究費豫算
(七) 研究ノ場所

(八) 研究擔當主任者
五、交付ヲ受ケントスル獎勵金ノ額
獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル者事業ヲ經營スル場合ニ在リテハ其ノ概況ヲ記載シタル書面ヲ、法人ナル場合ニ在リテハ定款、最近ノ財産目録、貸借對照表及損益計算書ヲ前項ノ申請書ニ添付スベシ
第四條 獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者前條第一項第四號ニ掲グル事項ヲ變更セントストキハ豫メ商工大臣ノ承認ヲ受ケベシ
第五條 獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者ハ研究日誌、設備臺帳及研究費收支簿ヲ備ヘ研究日誌ニハ研究ノ經過ヲ、設備臺帳ニハ研究用設備ノ内容ヲ、研究費收支簿ニハ研究ニ關スル收支ヲ記載スヘシ、研究費收支簿ニ

記載シタル收支ニ付テハ之ヲ證スルニ足ル書類ヲ備ヘ置クベシ
第六條 獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者ハ一定ノ期間毎ニ研究ノ狀況及其ノ收支計算ヲ商工大臣ニ報告スベシ
第七條 獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者ハ商工大臣ノ承認ヲ受ケルニ非ザレバ當該研究ヲ中止シ又ハ廢止スルコトヲ得ズ獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者當該研究ヲ讓渡セントストキハ當事者連署ノ上商工大臣ノ承認ヲ受ケベシ

第八條 獎勵金ハ當該研究以外ノ目的ニ之ヲ使用スルコトヲ得ズ
第九條 研究費ヲ以テ爲シタル設備ハ當該研究ヲ終了スル迄商工大臣ノ承認ヲ受ケルニ非ザレバ之ヲ讓渡シ又ハ當該研究以外ノ目的ニ使用スルコトヲ得ズ
第十條 商工大臣ハ獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者ニ對シ當該研究ヲ終了スル迄何時ニテモ研究ニ關スル報告ヲ爲サシメ書類、帳簿又ハ研究ノ狀況ヲ検査シ其ノ他監督上必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ商工大臣ハ獎勵金交付ノ指令ヲ取消シ、獎勵金ノ額ヲ減少シ又ハ交付シタル獎勵金ノ全部若ハ一部ノ還付ヲ命ズルコトアルベシ
一、本則又ハ本則ニ基キ命ズル事項ニ違反シタルトキ
二、獎勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ
三、不正ノ行爲又ハ怠慢アリタルトキ
四、研究遂行ノ見込ナキニ至リタルトキ
五、研究費ノ決算額が豫算額ト著シク相違スルトキ
六、研究ニ關スル計畫ヲ變更シ又ハ研究ヲ中止シ若ハ廢止シタルトキ
第十二條 本則ニ依リ商工大臣ニ提出スベキ書類ハ研究ノ場所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スベシ

附則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第三條中四月三十日迄トアルハ昭和九年度ノ獎勵金交付申請ニ限リ六月十五日迄トス

静岡縣地方工業化委員會規程

昭和十三年三月二十九日
静岡縣告示第二百四十九號

第一條 静岡縣地方工業化委員會ハ商工省地方工業化委員會ト連絡協力シ縣内工業ノ振興ヲ圖ル爲メ左ノ事項ヲ調査審議ス

- 一 地方化ノ可能ナル工業ノ種目及其ノ地域並ニ之ガ爲施設スベキ事項其ノ他ノ實行方策
二 下請工業ノ助成振興方策
三 未開發原料ノ活用ニ依ル特殊工業ノ開發方策
四 工業ノ動力化及低廉ナル動力利用方策
五 其ノ他工業ノ地方化ニ關スル事項
第二條 委員會ハ會長及委員若干名ヲ以テ之ヲ組織ス
會長ハ知事之ニ當リ委員ハ關係官吏及學識經驗アル者ノ中ヨリ知事之ヲ命ジ又ハ委嘱ス
前項ノ外顧問若干名ヲ置クコトヲ得

第三條 會長ハ會務ヲ總理シ會議ノ議長ト爲ル
會長事故アルトキハ會長ノ指名スル委員其ノ職ヲ代理ス
第四條 委員會ニ幹事若干名ヲ置キ知事之ヲ命ジ又ハ委嘱ス

静岡令三五號

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ會務ヲ掌理ス
第五條 委員會ニ書記若干名ヲ置キ知事之ヲ命ズ
書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス
第六條 委員ニ對シテハ左表ニ依リ旅費ヲ支給ス

Table with 2 columns: 日 (Day) and 當宿泊料車馬賃汽車賃 (Travel expenses). Rows show rates for 二、五〇 and 五、〇〇.

織物取締規則

昭和四年十二月二十八日
静岡縣令第九十七號

第一條 本則ニ於テ織物業者トハ織物製造業者(賃織業者ヲ含ム)及織物販賣業者(仲立業者ヲ含ム)ヲ謂フ
第二條 織物業者ハ左ノ各號ニヨリ當該組合ノ検査ヲ受ケタル製品ニ非ザレバ賣買又ハ受授スルコトヲ得ズ但シ日本綿織物工業組合聯合會ノ検査ヲ受ケタルモノ若ハ當該組合ニ於テ承認ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラズ
一 織物製造業者ヲ以テ組織スル工業組合ノ地區内ニ於ケル其ノ組合員又ハ組合員タル資格ヲ有スル者ハ當該工業組合
二 前號ノ工業組合ノ設立ナキ地域ニ於ケル織物ノ製造業者ハ所屬ノ同業組合



- 三 織物販賣業者ハ第一號又ハ第二號ノ組合
- 第三條 取締ニ従事スヘキ官吏員ニハ別ニ定ムル検査官吏員ノ證券ヲ携帶セシム但シ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス
- 第四條 前條ノ官吏員ハ取締上必要ナル物品及營業用帳簿其ノ他ノ書類ノ検査ヲ爲シ又ハ之ニ封印ヲ爲スコトアルヘシ
- 前項ノ検査及封印ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第五條 第二條又ハ第四條第二項ノ規定ニ違背シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金又ハ拘留ニ處ス
- 第六條 織物ニ關スル同業組合又ハ工業組合ノ検査員ニシテ製品検査執行ニ關シ不當ノ處置ヲ爲シタル者ハ拘留ニ處ス
- 第七條 織物業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、使用人其ノ他ノ從業者カ本令ニ違背シタルトキト雖自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス
- 第八條 織物業者カ法人、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本令ノ處罰ハ之ヲ其ノ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

### ●織物取締規則ニ依ル職務執行ニ關スル證券様式

昭和八年七月二十五日  
靜岡縣告示第六百九十七號

昭和四年十二月 靜岡縣令第九十七號織物取締規則第三條ノ規定ニ依ル職務執行ニ關スル證券左記様式ノ通定ム

〔靜岡令三五號〕

第 號 昭和 年 月 日交付

官 縣 職 印 名

#### 織物取締規則

- 第三條 取締ニ従事スヘキ官吏員ニハ別ニ定ムル検査官吏員ノ證券ヲ携帶セシム但シ警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス
- 第四條 前條ノ官吏員ハ取締上必要ナル物品及營業用帳簿其ノ他ノ書類ノ検査ヲナシ又ハ之ニ封印ヲ爲スコトアルヘシ
- 前項ノ検査及封印ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第五條 第二條又ハ第四條第二項ノ規定ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留ニ處ス
- 第六條 織物ニ關スル同業組合又ハ工業組合ノ検査員ニシテ製品検査執行ニ關シ不當ノ處置ヲ爲シタル者ハ拘留ニ處ス

縦 九 釐  
横 十二 釐  
中央點線ノ所ヨリ二ツ折トナシ表面ニ一織物取締規則第三條ノ規定ニ依ル職務執行ニ關スル證券ト記ス

### ●織物検査監督取締規程

昭和五年一月十七日  
靜岡縣令乙第一二號

修正 昭和八年七月訓令乙第二二二號、一四年三月第六二二號

〔內務部〕 濱松工業試驗場

- 織物ニ關スル同業組合及工業組合ノ検査監督取締規程左ノ通相定ム  
但大正十五年五月二十九日訓令乙第二一四號濱松工業試驗場駐在織物取締ニ従事スル商工主事補ノ職務方ハ之ヲ廢止ス
- 第一條 織物ニ關スル同業組合及工業組合ノ検査監督及取締ノ爲メ織物検査監督員ヲ置ク
- 第二條 織物検査監督員ハ上司ノ指揮ヲ享ケ左之職務ニ従事ス  
一、組合ノ検査及組合所屬ノ検査員ノ監督  
二、織物取締規則ニ基ク取締
- 第三條 靜岡縣輸出織物リソク指導所ニ駐在スル織物検査監督員ノ職務區域ハ遠江一圓トス
- 第四條 前條駐在員ノ服務ニ付テハ靜岡縣輸出織物リソク指導所規程ヲ適用ス
- 第五條 織物検査監督員ハ組合又ハ其検査員若ハ織物業者カ製品検査ニ關シ命令又ハ定款ニ違背シ若ハ不當ノ處置ヲ爲シタルトキハ直チニ知事ニ報告シ其ノ指揮ヲ受クヘシ但シ急速ヲ要シ經何ノ違ナキトキ又ハ事件輕易ナルトキニ限り機宜ノ處置ヲ執リ其ノ顛末ヲ報告スヘシ
- 第六條 織物検査監督員ハ組合員ニシテ検査ニ關シ所屬組合ノ定款ニ違背シタル行爲ヲ爲シタル者ヲ發見シタルトキハ直チニ所屬組合ニ通知シ其ノ措置ヲ監視スヘシ
- 第七條 織物検査監督員ハ毎月職務計畫書ヲ作製シ前月末日迄ニ知事ノ閣

〔靜岡令四一號〕

覽ニ供スヘシ

- 第八條 織物検査監督員ハ毎月ノ職務執行狀況ヲ翌月五日迄ニ知事ニ報告スヘシ
- 第九條 織物検査監督員ハ職務日誌ヲ作製シ毎日職務ノ概要ヲ記録スヘシ
- 第九條ノ二 織物検査監督員ニシテ豫メ知事ノ承認ヲ受ケタル者ハ第七條第八條及第九條ノ規定ニヨラサルコトヲ得
- 前項ノ織物検査監督員其ノ職務ヲ執行シタルトキハ其ノ都度知事ニ報告スヘシ



### ●静岡縣輸出織物リンク指導所設置

昭和十四年二月七日  
静岡縣告示第百號  
静岡縣輸出織物リンク指導所ヲ濱松市ニ設置シ昭和十四年一月三十日ヨリ之ヲ開始セリ

四二八ノ二

#### ●静岡縣輸出織物リンク指導所規程

- 第一條 リンク指導所ニ於テハ輸出織物ニ關スルリンクノ指導ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第二條 リンク指導所ノ業務區域ハ遠江一圓トス
- 第三條 リンク指導所ニ左ノ職員ヲ置ク
  - 所長
  - 技手
  - 商工書記
  - 雇
- 第四條 所長ハ知事ノ命ヲ承ケ所務ヲ總理シ所屬職員ヲ指揮監督ス
- 第五條 所員ハ所長ノ命ヲ承ケ所務ニ従事ス
- 第六條 左ニ掲グル事項ハ所長ニ於テ知事ニ經何ノ上之ヲ處理スヘシ
  - 一、所内諸規則ノ制定改廢ニ關スル事項
  - 二、所長及所員ノ業務區域外出張ニ關スル事項
  - 三、事務所賃貸等ニ關スル事項
  - 四、其ノ他重要ナル事項
- 第七條 左ニ掲グル事項ハ所長限リ之ヲ處理スベシ
  - 一、所員ノ事務分掌ニ關スル事項
  - 二、所員ノ業務區域内出張ニ關スル事項
  - 三、所員ノ除服出仕、缺勤、忌引、賜暇、私事旅行、應召其他之ニ類スル願書處理ニ關スル事項
  - 四、其他輕微ナル事項
- 第八條 前項一號乃至三號ノ事項ヲ處理シタル場合ハ遲滞ナク之ヲ知事ニ報告スベシ
- 第九條 左記事項ハ毎月十日迄ニ前月分ヲ取纏メ知事ニ報告スベシ

### ●静岡縣輸出織物リンク指導所規程

昭和十四年二月三日  
静岡縣訓令乙第二九號

總務部 經濟部

〔静岡令三九號〕

〔静岡令三九號〕

- 一、所員ノ執務及勤怠狀況
- 二、指導狀況

前項ノ外必要ナル事項ハ其ノ都度報告スベシ

第九條 所長ハ主管事務ニ關シ職名又ハ所名ヲ以テ文書ノ往復ヲ爲スコトヲ得

附則

本令ハ昭和十四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス



### ●瓦斯發生爐設置獎勵金交付ニ關スル件

昭和九年七月十九日  
商第九二〇號内務部長通牒

市町村長宛

近時激増シツツアル石油ノ需要ヲ充ス爲揮發油ノ代用品トシテ木炭ヲ原料トスル發生爐瓦斯ヲ使用スレハ揮發油ノ消費節約ヲ圖ル上ニ效果尠カラサルモノト認メラルルニ依リ自動車又ハ「ガソリンカー」ニ瓦斯發生爐ノ設置ヲ獎勵スル爲瓦斯發生爐設置獎勵金交付規則ニ依リ獎勵金ヲ交付スルコトト相成候旨商工省ヨリ通牒有之候條貴部内關係ノ向ニ右周知方可能御手配相成度依ツテ該規則ニ依リ獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル者アルトキハ左記要綱御含ミノ上申請書ニ通牒成提出(縣經由)セシメラレ度  
追テ本年度ノ補助金豫算總額ハ九萬圓ニ有之候條爲念申添候  
〔参照〕

#### ○瓦斯發生爐設置獎勵金交付規則

昭和九年六月八日  
商工省令第十二號

- 瓦斯發生爐設置獎勵金交付規則左ノ通定ム
- 第一條 商工大臣ハ瓦斯發生爐ノ設置ヲ獎勵スル爲本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付ス
- 前項ノ瓦斯發生爐ノ型式及種類ハ別ニ定ムル試驗ニ合格シタルモノニ限ル
- 第二條 獎勵金ハ瓦斯發生爐(之ト共ニ設置スル附屬裝置ヲ含ム)以下同シ)ヲ自動車、瓦斯機關車又ハ瓦斯動車ニ設置スル場合ニ自動車、瓦斯機關車又ハ瓦斯動車ノ所有者ニ對シテ之ヲ交付ス

〔轉開令四號〕

- 第三條 獎勵金ノ額ハ瓦斯發生爐一基ニ付其ノ設置ニ要シタル費用ノ半額以內ニシテ三百圓ヲ限度トス
- 第四條 獎勵金ノ交付ヲ申請セんとスル者ハ申請書ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シ之ヲ商工大臣ニ提出スベシ
  - 一 瓦斯發生爐ヲ設置スル車輛ノ種類及用途
  - 二 瓦斯發生爐ノ型式及種類並ニ其ノ製作者ノ氏名及住所
  - 三 瓦斯發生爐ノ取附方法
  - 四 瓦斯發生爐ニ使用スル燃料ノ種類
  - 五 瓦斯發生爐設置ニ要スル費用ノ豫算及交付ヲ受ケントスル獎勵金ノ額
- 第五條 獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者瓦斯發生爐ヲ設置シタルトキハ商工大臣ニ獎勵金交付ノ申請書ヲ提出スベシ
- 前項ノ申請書ニハ瓦斯發生爐ノ設置ニ要シタル費用ニ關スル精算書及瓦斯機關車又ハ瓦斯動車ニ付テハ監督官廳、自動車ニ付テハ主たる使用地ヲ管轄スル地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ノ瓦斯發生爐ヲ設置シタルコトヲ證スル書面ヲ添付スベシ
- 第六條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ二年間商工大臣ノ許可ヲ受ケルニ非ザレバ獎勵金ノ交付ヲ受ケテ設置シタル瓦斯發生爐ヲ讓渡シ、取外シ若ハ其ノ使用ヲ廢止シ又ハ之ヲ設置シタル車輛ヲ讓渡スルコトヲ得ズ
- 前項ノ讓渡ノ許可ノ申請ハ讓受人ト連署ノ上之ヲ爲スベシ
- 第七條 商工大臣ハ必要アリト認ムルトキハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ瓦斯發生爐ノ使用ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ使用ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

〔轉開令〕

- 第八條 獎勵金交付ノ指令ヲ受ケタル者又ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ商工大臣ハ獎勵金交付ノ指令ヲ取消シ、獎勵金ノ金額ヲ減少シ又ハ既ニ交付シタル獎勵金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命ズルコトアルベシ
    - 一 本則又ハ本則ニ基キ命ジタル事項ニ違反シタルトキ
    - 二 獎勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ
    - 三 詐欺其ノ他不正ノ行爲アリタルトキ
    - 四 設置費ノ決算額が豫算額ト著シク相違スルトキ
  - 第九條 本則ニ依リ商工大臣ニ提出スベキ書類ハ瓦斯機關車又ハ瓦斯動車ニ付テハ鐵道又ハ軌道ヲ敷設シタル地(二府縣以上ニ互リ敷設セル鐵道又ハ軌道ニ在リテハ其ノ起點所在地)ヲ管轄スル地方長官ヲ、自動車ニ付テハ主たる使用地ヲ管轄スル地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ヲ經由スベシ
- 附則  
本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 昭和九年六月八日  
商工省告示第二十八號
- 瓦斯發生爐設置獎勵金交付規則第一條第二項ノ規定ニ依リ瓦斯發生爐性能試驗規程左ノ通定ム
- 瓦斯發生爐性能試驗規程
- 第一條 瓦斯發生爐ノ性能試驗ハ瓦斯發生爐ヲ設置シタル自動車ニ付距離約百キロメートルノ運行並ニ消費スル燃料ノ種類及數量ニ關シテ之ヲ行フ
  - 第二條 瓦斯發生爐ノ試驗ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル願書ヲ商工大臣ニ提出スベシ

### ●工業品規格統一ニ關スル件

昭和二年一月十三日  
十五商第一八七八號内務部長通牒

工業品ノ品質形狀及寸法等ヲ統一スルトキハ多量生産ニ依リ品質ヲ向上シ

- 一 瓦斯發生爐ノ型式及種類
  - 二 瓦斯發生爐及附屬裝置ノ構造及特徵並ニ其ノ重量及容量
  - 三 瓦斯發生爐ノ取附方法
  - 四 瓦斯發生方法
  - 五 瓦斯發生爐及附屬裝置ノ耐久性
  - 六 瓦斯發生爐ニ於ケル安全裝置ノ有無並ニ其ノ構造及機能
  - 七 燃料ノ種類
  - 八 試驗ヲ受ケル際使用スル車輛ノ種類
- 前項第二號及第三號ニ掲グル事項ニ付テハ圖面ヲ添付スベシ
- 瓦斯發生爐設置獎勵要綱
- 一、獎勵金ノ交付ヲ受ケルコトヲ得ベキ瓦斯發生爐ハ當省ニ於テ行フ試驗ニ合格シタルモノト同一ノ型式及種類ノ瓦斯發生爐ニ限ルモノナルコトヲ試驗ニ合格シタル瓦斯發生爐ノ型式及種類ハ試驗ヲ爲シタル後通知ノ豫定
  - 二、瓦斯發生爐一基ノ設置ニ要シタル費用ニハ瓦斯發生爐ノ購入費、荷造費、運搬費等ヲ含ムコト
  - 三、獎勵金交付ノ申請書ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケントスル瓦斯發生爐ノ基礎ニ應ジ提出スルコト



生産費用ヲ低下シ又其ノ取引ハ大量ニシテ而モ簡單トナリ貯蔵品種ヲ減スルヲ以テ資金ノ利用率ヲ高ムルコト、ナリ更ニ機械ノ構成部分等ノ互換性ヲ増スコトニ依リテ工場ノ共同作業ヲ便ニスル等經濟的ノ利益甚大ナル而巳ナラス有事ノ日ニ際シ物資ノ融通工場ノ急遽擴張等ニ多大ノ便益アルハ言フ俟タサル所ニシテ歐米各國ニ於テハ夙ニ工業品ノ規格統一ヲ勵行シツ、アリ我國ニ於テモ大正十年四月以來商工省ニ工業品規格統一調査會ヲ設置シ多數ノ委員ニ依リ銳意之ヲ調査審議ヲ進メ漸次其ノ成案ヲ得ツ、アリシ處之方一般的實行ヲ促進スルカ爲先以テ政府ニ於テ其ノ實行ヲ期スルコト、ナリ今日迄審議決定セル規格五十四件中左記二十七件ニ付各省聯合ノ告示ヲ以テ政府ノ使用又ハ製造ニ係ルモノハ已ムヲ得サルモノ、外總テ該規格ニ依ル旨ヲ公布シタリ然レトモ規格統一ノ實行普及ノコトハ獨リ中央政府ノ努力ノミニ依リテ其ノ效果ヲ收ムルコト能ハサルハ勿論ノ議ニシテ今同商工省ヨリ右實行普及方ニ關シ通牒有之候條貴管下ニ於テモ右告示ノ趣旨ニ準シ貴所(町村)並公共團體等ニ於ケル購入品及製品ニ付テハ已ムヲ得サル場合ノ外右告示規格ニ準據相成様致度尙一般民間ニ對シテモ製造業者並使用者雙方ニ督促シ之カ實行普及方ニ付キ特ニ御願慮相煩度追而告示規格ノ内容ニ關シテハ夫々登載官報ニ付詳細御承知相成度尙右ニ依ル施設御實行ノ上ハ其ノ趣御回報相煩度

記

- 一、金屬材料ノ擴張試驗ニ用フル試驗片ノ形狀及寸法ノ規格(大正十四年三月五日、農商務省告示第四十三號)
- 一、針金ノ徑薄板ノ厚及其ノ稱呼ノ規格(大正十四年三月五日、農商務省告示第四十四號)
- 一、航空機及自動車ニ用フルねじ並電氣機械器具及計器類ニ用フル外徑九耗以下ノねじノ規格(大正十四年十月三十日、商工省告示第二十四號)

〔附同令〕

- 一、鍛鋼品ノ規格(大正十四年九月十八日、商工省告示第九號)
- 一、鑄鋼品ノ規格(大正十四年九月十八日、商工省告示第十號)
- 一、鑄物用銑鐵ノ規格(大正十四年九月十八日、商工省告示第十一號)
- 一、普通煉瓦ノ規格(同 第十二號)
- 一、空洞煉瓦ノ規格(同 第十三號)
- 一、耐火煉瓦ノ規格(同 第十四號)
- 一、電氣用銅線ノ規格(同 第十五號)
- 一、電球ノねじ型口金及承口ノ形狀寸法ノ規格(大正十四年九月十八日、商工省告示第十六號)
- 一、工業品ノ標準寸法及工業品ニ關シ用フル等比標準數ノ規格(大正十四年九月十八日、商工省告示第十七號)
- 一、鍍ノ寸法目及稱呼ノ規格(大正十四年十月二十六日、商工省告示第十七號)
- 一、水管濶用繼目無鋼管ノ規格(大正十五年十月二十六日、商工省告示第十八號)
- 一、圓濶用繼目無鋼管ノ規格(大正十五年十月二十六日、商工省告示第十九號)
- 一、機關車濶用繼目無鋼管ノ規格(大正十五年十月二十六日、商工省告示第二十號)
- 一、一般用繼目無鋼管ノ規格(大正十五年十月二十六日、商工省告示第二十一號)
- 一、瓦斯管ノ規格(大正十五年十月二十六日、商工省告示第二十二號)
- 一、構造用壓延鋼材ノ規格(大正十五年十月二十六日、商工省告示第二十三號)

〔附同令〕

- 一、造船用壓延鋼材ノ規格(大正十五年十月二十六日、商工省告示第二十四號)
- 一、濶用壓延鋼材ノ規格(大正十五年十月二十六日、商工省告示第二十五號)
- 一、鐵道車輛用壓延鋼材ノ規格(大正十五年十月二十六日、商工省告示第二十六號)
- 一、壓延鋼材ノ寸法及重量ノ公差ノ規格(大正十五年十月二十六日、商工省告示第二十七號)
- 一、丸鋼角鋼及八角鋼ノ寸法及重量ノ規格(大正十五年十月二十六日、商工省告示第二十八號)
- 一、等邊山形鋼、不等邊山形鋼、工形鋼、溝形鋼、丁形鋼及球山形鋼ノ寸法及重量ノ規格(大正十五年十月二十六日、商工省告示第二十九號)
- 一、木材ノ規格(大正十五年十月二十六日、商工省告示第三十號)

昭和四年九月二十一日  
商第九五六號內務部長通牒

工業品規格統一ニ關スル件

昭和二年一月十三日付商第一八七八號(縣公報十三號)ヲ以テ工業品規格統一調査會ニ於テ審議決定シタル工業品規格ノ實行普及ニ關シ御配慮方及御依頼候條貴所ノ後ホルトランドセメント外四十二規格並既ニ公布セル告示改正ニ關シ左記日附ヲ以テ政府ニ於テ製造者ハ購入シ又ハ政府ノ注文スル工事若ハ製造品ニ使用スルモノハ已ムヲ得サルモノノ外總テ該規格ニ依ル旨各省聯合告示相成候條前昭和二年商第一八七八號通牒ノ趣旨ニ依リ可然御配慮相成度

第十二編 勸業 第八章 商工

候

記

商工省告示年月日	商工省告示番號	名稱
昭和二年四月十四日	第九號	ホルトランドセメント
同	第十號	高爐セメント
昭和二年十月二十二日	第二十號	瓦
同	第二十一號	小型單相油入變壓器
同	第二十二號	電機用銅線
同	第二十三號	モートルステーパーシヤンク線
同	第二十四號	ストレートシヤンク線
同	第二十五號	モートルステーパーシヤンク線及ソケット
同	第二十六號	管ねじ
同	第二十七號	管接しねじ
同	第二十八號	瓦斯管ノ寸法
同	第二十九號	鋼板
同	第三十號	銅板
同	第三十一號	黃銅板
同	第三十二號	アルミニウム板
同	第三十三號	鋼棒
同	第三十四號	ネーバル黃銅棒
同	第三十五號	高力黃銅棒
同	第三十六號	火延黃銅棒
同	第三十七號	鑄物用黃銅棒



- 昭和二年十月二十二日 第三十八號 鐵目無鋼管
- 第三十九號 橋脚車輪用鐵目無鋼管
- 第四十號 復水器用鐵目無鋼管
- 第四十一號 復水器用鐵目無鋼管
- 第四十二號 黃銅管
- 第四十三號 一般用鐵目無鋼管
- 第四十四號 銅地金
- 昭和三年五月二十八日 第十八號 銅地金分析方法
- 昭和四年四月十日 第十三號 木炭
- 昭和四年五月十三日 第二十號 鐵及鋼炭素分析方法
- 第二十號 鐵及鋼炭素分析方法
- 第二十一號 石材
- 第二十二號 陶管
- 第二十三號 ハツチクリート
- 第二十四號 アイブレンイト
- 第二十五號 リンケホルト
- 第二十六號 火床機(船用)
- 第二十七號 小型三相誘導電動機
- 第二十八號 傳導用調車
- 第二十九號 六角鋼
- 第三十號 工業品規格實施ニ關スル告示
- 第三十一號 改正
- 第三十二號 ウィットウォースねじ第一號(丸山)
- 第三十三號 六角ナット(メイトルねじ)
- 第三十三號 スレチ
- 第三十三號 メイトルねじ第一號

〔靜岡令三八號〕

### 重要工產品取締規則

昭和九年七月十四日  
靜岡縣令第三十八號

修正 昭和十四年一月縣令第六七號  
重要工產品取締規則左ノ通定ム

重要工產品取締規則

第一條 本縣ニ於テ知事ノ指定シタル重要工產品ノ製造ニ關スル工業者ハ本縣内ノミラ地区トスル當該工業組合又ハ其ノ聯合會ノ定ムル所ニ依リ検査ヲ受ケルニ非サレハ其ノ製成品ヲ他人ニ引渡シ又ハ本縣ノ區域外ニ搬出スルコトヲ得ス但シ特別ノ事由ニ因リ豫メ知事ノ認可ヲ受ケタルモノ又ハ法令ニ基ク検査ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二條 前條ノ工業組合又ハ其ノ聯合會ノ検査員ニシテ検査執行ニ關シ不當ノ處置ヲ爲シタル者ハ拘留ニ處ス

第三條 昭和九年七月十四日靜岡縣令第三十七號工業組合法第八條ノ施行ニ關スル取締規則第三條乃至第十條ノ規定ハ本則ニ之ヲ準用ス

前項ノ聯合會規定中當業者ト稱スルハ第一條ノ工業者ヲ謂フ當該官吏トハ知事ノ任命シタル官吏ヲ謂フ

第四條 第一條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留、科料又ハ五十圓以下

ノ罰金ニ處ス

附則

第五條 本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第六條 第一條ノ規定ニ依リ指定シタル重要工產品ノ施行ハ告示ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタル翌日ヨリ之ヲ施行ス

〔靜岡令三〇號〕

### 重要工產品指定

昭和九年九月十八日  
靜岡縣告示第四十號

重要工產品取締規則第一條ノ規定ニ依ル重要工產品ヲ左ノ通指定ス

綿織物(交織物ヲ含ム)  
整理、加工品

人造絹織物(交織物ヲ含ム)  
整理、加工品

輸出漆器(類似品ヲ含ム)  
塗下駄

昭和十二年六月二十六日  
靜岡縣告示第六百九十七號

重要工產品取締規則第一條ノ規定ニ依ル重要工產品ヲ左ノ通指定ス

雜具(鐵人形ヲ含ム)

昭和十二年十月二十三日  
靜岡縣告示第六百七十七號

重要工產品取締規則第一條ノ規定ニ依ル重要工產品ヲ左ノ通指定ス

文具

昭和十三年六月十八日  
靜岡縣告示第五百五十三號

重要工產品取締規則第一條ノ規定ニ依ル重要工產品ヲ左ノ通指定ス

鏡臺

### 重要工產品取締規則ニ依ル取締

第十二編 勸業 第八章 商工

面 表 二 十

折	目
重要工產品取締規則第三條ノ規定ニ依リ準用シタル工業組合法第八條ノ施行ニ關スル取締規則第六條ニ依ル取締員證票	九

### 員證票雛形

昭和九年七月十四日  
靜岡縣告示第八百十六號

重要工產品取締規則第三條ノ規定ニ依リ準用シタル工業組合法第八條ノ施行ニ關スル取締規則第六條ノ當該官吏ニ携帯セシムル取締員證票ノ雛形左ノ通定ム



第 號 昭和 年 月 日交付

官
職
(印 縣)
氏
名

折 目

重要工產品取締規則第三條ノ規定ニ依リ準用シタル工業組合法第八條ノ施行ニ關スル取締規則拔萃

第六條 取締ニ從事スヘキ當該官吏ニハ別ニ定ムル取締員證ヲ携帶セシム

前項ノ取締員證票ノ雛形ハ之ヲ告示ス

第七條 當業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス

一 第三條ノ臨檢、檢閱又ハ封印ヲ拒ミタルトキ

二 第四條ニ掲ケタル帳簿ヲ備ヘス又ハ帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキ

三 第五條ノ規定ニ違反シタルトキ

### ●静岡縣立機械工養成所規程

昭和十三年三月十七日 静岡縣告示第九十八號

改正 昭和十三年一月告示第九十九號

#### 静岡縣立機械工養成所規程

##### 第一章 總則

- 第一條 本所ハ短期間ニ専門的且ツ實務的ナル技術修得ヲ爲サシムルト共ニ精神的訓練ヲ爲シ以テ急速ニ機械工ノ養成ヲ計ルコトヲ目的トス
- 第二條 静岡縣立静岡機械工養成所ヲ静岡市ニ静岡縣立濱松機械工養成所ヲ濱松市ニ置キ其ノ教科ヲ左ノ通トシ其ノ一分科ヲ專修セシム
- 静岡縣立静岡機械工養成所
- 旋盤工科
  - 仕上工科
  - フライス工科
  - 鑄工科
- 静岡縣立濱松機械工養成所
- 旋盤工科
  - 仕上工科
  - フライス工科
  - 熔接工科
- 第三條 各分科ノ修業年限ハ一年トス但シ成績ニ依リ之ヲ延長スルコトヲ得
- 第四條 生徒ノ定員ハ静岡養成所、濱松養成所各五十名トシ各分科ノ定員ハ知事ニ經伺ノ上所長之ヲ定ム
- 第五條 本養成所ヲ修業シタルモノハ修業後五ヶ年本縣内ニ於テ就業スル

〔静岡令三五號〕

義務アルモノトス但シ正當ノ事由アル場合ハ義務ノ免除又ハ年限ノ短縮ヲ爲スコトアルベシ

#### 第二章 職員、處務

- 第六條 機械工養成所ニ左ノ職員ヲ置ク
- 第一所 長
  - 第二所 長
  - 第三所 長
  - 第四所 長
  - 第五所 長
  - 第六所 長
  - 第七所 長
  - 第八所 長
  - 第九所 長
  - 第十所 長
  - 第十一所 長
  - 第十二所 長
  - 第十三所 長
  - 第十四所 長
  - 第十五所 長
  - 第十六所 長
  - 第十七所 長
  - 第十八所 長
  - 第十九所 長
  - 第二十所 長
  - 第二十一所 長
  - 第二十二所 長
  - 第二十三所 長
  - 第二十四所 長
  - 第二十五所 長
  - 第二十六所 長
  - 第二十七所 長
  - 第二十八所 長
  - 第二十九所 長
  - 第三十所 長
  - 第三十一所 長
  - 第三十二所 長
  - 第三十三所 長
  - 第三十四所 長
  - 第三十五所 長
  - 第三十六所 長
  - 第三十七所 長
  - 第三十八所 長
  - 第三十九所 長
  - 第四十所 長
  - 第四十一所 長
  - 第四十二所 長
  - 第四十三所 長
  - 第四十四所 長
  - 第四十五所 長
  - 第四十六所 長
  - 第四十七所 長
  - 第四十八所 長
  - 第四十九所 長
  - 第五十所 長

〔静岡令二五號〕

第十四條 職員出張シタルトキハ歸後五日以内ニ復命書ヲ作り所長ハ知事ニ其ノ他ノ所員ハ所長ニ提出スベシ

第十五條 所長ハ毎年四月三十日迄ニ前年度ニ於ケル所務成績ヲ知事ニ報告スベシ

#### 第三章 教科目及課程

第一學期	第二學期	授業時數
修身	英語	約 七五時間
工業	英語	同 七五時間
英語	英語	同 一二〇時間
國語	英語	同 一二〇時間
材料及工作法	英語	同 一八〇時間
應用力學	英語	同 一八〇時間
機械通論	英語	同 三〇〇時間
工場要項及	英語	同 三〇〇時間
工場危害防止	英語	同 一〇〇時間
用器及製圖	英語	同 一〇〇時間
計	英語	同 一四〇時間
第三學期	修身	修身及體操ヲ每週三時間課スル外全部基本的實習
第四學期	修身	修身及體操ヲ每週三時間課スル外全部應用品ヲ加味シタル實習



第十七條 生徒ハ毎年二回ニ分チテ入所セシメ其ノ始業日及終業日ヲ左ノ如クス

入所順序 始業日 終業日

第一回 四月一日 翌年三月三十一日

第二回 十月一日 翌年九月三十日

第四章 學期、授業、休日及授業時數

第十八條 學期ヲ分ツコト左ノ如シ

第一學期 第二學期 第三學期 第四學期

四月入所ノモノ 自四月 自七月 自十月 自一月

十月入所ノモノ 自十月 自一月 自四月 自七月

第十九條 授業休日左ノ如シ

一 祝日、大祭日

二 日曜日

三 冬期休業 十二月二十九日ヨリ翌年一月四日迄

第二十條 授業時數ハ每週四十八時間トス

第二十一條 所長ニ於テ必要ト認メタル場合ニ於テハ第十九條ノ授業休日及第二十二條ノ授業時數ヲ變更スルコトヲ得

第五章 入所、休所及修了

第二十二條 入所ヲ許スベキ者ハ左ノ資格ヲ具フル男子タルコトヲ要ス

一 品行方正志操堅固ニシテ身體強壯ナル者

二 高等小學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力アリト認メラルル者

第二十三條 入所志願者ハ第一號書式ノ願書ニ出身學校長ノ卒業證明書又ハ修業證明書又ハ其ノ寫ヲ添ヘ始業日ノ二月前迄ニ之ヲ所長ニ提出スベシ

第二十四條 入所志願者ノ數募集人員ヲ超過シタルトキハ選抜試験ヲ行フ、選抜試験ノ方法ハ知事ニ經何ノ上所長之ヲ定ム

第二十五條 入所ヲ許可セラレタル者ハ一週間以内ニ保證人二人ヲ定メ第

二號書式ノ誓約書ニ戶籍簿本ヲ提出スベシ

第二十六條 保證人ハ入所者ノ父兄又ハ之ニ代リテ身元引請ノ責ニ任ジ得ベキ者トス

第二十七條 保證人變動アルトキハ其ノ都度遅滞ナク届出ヅベシ

第二十八條 在所中病氣其ノ他ノ爲長期間缺席セントスル者ハ休所セシムルコトアルベシ

第二十九條 所定ノ課程ヲ修了シタル者ニハ第三號書式ノ修了證書ヲ授與ス

第六章 退所

第三十條 退所セントスル者ハ保證人連署ノ上其ノ事由ヲ詳具シ所長ノ承認ヲ求ムベシ

第三十一條 左ノ各號ニ該當スル者ハ之ヲ退所セシム

一 品行不良ニシテ改悛ノ見込ナキ者

二 身體虛弱ニシテ成業ノ見込ナキ者

三 成績不良又ハ傷病等ニ罹リ成業ノ見込ナキ者

四 正當ノ事由ナクシテ屢々缺席シタル者

第七章 學費

第三十二條 生徒ノ修學ニ要スル費用ハ自辨トス

第八章 賞罰

第三十三條 成績優秀、操行善良ニシテ他ノ模範トナルベキ生徒ハ所長之ヲ褒賞ス

第三十四條 不都合ノ行爲ヲナシタル生徒ハ其ノ情狀ニヨリ所長之ニ懲戒ヲ加フ其ノ種類左ノ如シ

一 謹慎、停所、除籍

第三十五條 本所々屬ノ物品ヲ毀損又ハ亡失シタル者アルトキハ其ノ情狀ニヨリ相當ノ辨償ヲナサシムルコトアルベシ

第九章 附則

第三十六條 本則施行ニ必要ナル細則ハ所長之ヲ定ム

第三十七條 第二十三條ノ願書提出期ハ昭和十三年第一回入所ノモノニ付テハ三月三十一日迄トス

〔附則令二五號〕

第一號書式

〔附則令二五號〕

(1) 入 所 願		科	志望
番 號	日 附	養成所長	股
私儀今般御所=入所志願=付御許可相成度此段相願候也			
本 人	氏 名	最 終 學 校	學 校
	フリガナ (當 歳) 年 月 日 生	年 月 卒 業 (學 年 修 業)	寄 留 年 月
人	本 籍	族 籍	戶 主 ト ノ 續 柄
	現 住 所	寄 留 方	關 係
保 證 人	氏 名	職 業	
	本 籍	族 籍	
人	現 住 所	本 人 ト ノ 關 係	
	1、 短期間ナル爲全ク軍隊式方法ヲ以テ嚴格ナル教育ヲナス 2、 入所中ハ斷酒斷煙ヲ誓ハシム 3、 工場特ニ鐵工場ノ勤勞内容ヲ熟知スベシ 4、 入所後ハ凡テ工場従業員ト看做シ眞劍ナル勤務ニ服スルヲ以テ極我ヲスルコトモ承知スベシ 5、 缺席缺課ハ勿論其他理由ノ如何ヲ問ハズ作業遅延者ハ殘業休日出席又ハ修業延期ス		
本 人	印	保 證 人	印



機械工業成所長 殿		年月日
私僕今般御所へ入所許可相成候 = 付テハ御規則堅ク遵守ノ上修業 = 勵ムベキハ勿論講習中本人身上 = 關スル一切ノ事件ハ保證人 = 於テ引受ケ些モ御迷惑相懸ケ申間敷萬一御所有物件ヲ毀損又ハ紛失候際ハ保證人其ノ責ヲ負ヒ御指圖 = 隨ヒ滞リナク辨償仕ベク候又講習中原因ノ何タルヲ問ハズ不慮ノ傷害ヲ蒙ルコト有之候共本人ハ勿論本人以外ノ他人ヲシテ斷ジテ異議申サセ間敷候尙修業ノ上ハ縣内 = 於テ五ヶ年就業致スベク候右保證人連署ヲ以テ誓約候也		共本三 消人錢 印、收 保入 證印 事人紙
		摘要
氏名	フリカナ	戸籍謄本年 月 日提出
本籍	印	年 月 日出
現住所	本籍	族籍
正保人 氏名	印	職業
正保人 本籍		族籍
正保人 現住所		本人トノ續柄
副保人 氏名	印	職業
副保人 本籍		族籍
副保人 現住所		本人トノ續柄

〔解同令二八號〕

(ロ)

香號	通學時間	電車	バス	自轉車	徒歩
本人職業	失業原因			期間	
配偶	有無	男兒	人	女兒	人
父	實父	繼父	姓名	年齡	職業 收入 本人トノ生活期間
母	實母	繼母	同	同	同 同 同
兄	年齡	職業	收入	姉	年齡 職業 收入
弟				妹	
生活	俸給	支	生活費用	額	住
	收入(月)	乘他	保扶	除養	料人
	管其		其	數他	居
					自家間圓
					借家間圓
					借間間圓
參考	酒	宗教	運動	健康狀態	備考
	煙草	柔道	趣味	既往症	
	新聞	劍道	娛樂		
第保證二人	氏名	職業	本人トノ關係	查定	

〔解同令二五號〕



第三號書式

修了證書

印 氏 名

右者本所ニ於テ自 年 月 日 月間何々ノ課程ヲ修了セリ仍テ之ヲ 年 月 日

静岡縣立(静岡)機械工業成所長位勳功爵 氏 名印

●静岡縣立機械工業成所授業料徴收條例

昭和十三年五月三日 静岡縣條例第六號

静岡縣立機械工業成所授業料徴收條例左ノ通定ム

- 第一條 授業料ハ一箇月金査圖ヲ徴收ス但シ特別ノ事情アル者ニ對シテハ免除スルコトアルヘシ
- 第二條 授業料ハ養成所ノ休業生徒ノ缺席又ハ休所シタル場合ニ於テモ之ヲ免除セサルモノトス
- 第三條 授業料ノ納期ハ毎月二十五日トシ當日休業日ニ相當スルトキハ順次繰下トス
- 第四條 納期内ニ授業料ヲ納メサル者アルトキハ其ノ出所ヲ停止シ仍翌月二十日ヲ超エルモ之ヲ納メサルトキハ學籍簿ヨリ除籍ス
- 第五條 本條例施行ニ關スル細則ハ知事之ヲ定ム

〔静岡令二八號〕

附則 本條例ハ昭和十三年四月分ヨリ之ヲ適用ス

●静岡縣立機械工業成所授業料徴收條例施行細則

昭和十三年五月三日 静岡縣告示第三百五十四號

静岡縣立機械工業成所授業料徴收條例施行細則左ノ通定ム

- 第一條 静岡縣立機械工業成所生徒ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當シ學費支辨困難ナル者ニ對シテハ審査ノ上授業料ヲ免除ス
  - 一 公務員又ハ之ニ準スヘキ者公務ニヨル傷疾疾病ノ爲死亡シタルトキ其ノ者ト同一戸籍内ニアリタル子及弟
  - 二 増加恩給並傷病賜金受給者ト同一戸籍内ニアリタル子及弟
  - 三 増加恩給受給中死亡シタル者ト同一戸籍内ニアリタル子及弟
  - 四 戰時又ハ事變ニ際シ出征若ハ應召中ノ陸海軍人ト同一戸籍内ニアリタル子及弟
  - 五 學力佳良、品行方正、身體強健ニシテ學費支辨困難ナルモノ
- 第二條 授業料免除者ニシテ學費支辨困難ナル事由止ミタルトキ、他家ニ轉シタルトキ又ハ前條ノ資格ナキモノト認メタルトキハ其ノ翌月ヨリ授業料免除ヲ停止ス
- 第三條 授業料ノ免除ヲ受ケントスル者ハ左記各號ヲ具シ所長ヲ總テ知事ニ出願スヘシ
  - 一 公務ノ爲死亡シタル者ニ付テハ其ノ死亡ノ年月日原因及死亡者トノ

〔静岡令二八號〕

續柄

- 二 増加恩給並傷病賜金受給者ニ付テハ其ノ増加恩給並傷病賜金ヲ受ケルニ至リタル年月日原因及増加恩給並傷病賜金受給者トノ續柄
- 三 出征又ハ應召者ニ付テハ其ノ官職氏名出征又ハ應召ノ年月日及出征又ハ應召者トノ續柄
- 四 第一條各號ノ場合ニ於ケル恩給證書又ハ官署ノ證明及戸籍謄本
- 五 第一條五號ノ場合ニ於テハ成績表、身體検査書
- 第四條 所長ハ願書ヲ受理シタルトキハ資産並家計ノ狀況ヲ調査シ詳細意見ヲ附シテ進達スヘシ
- 第五條 授業料ヲ免除セラレタル者ニシテ懲戒ヲ受ケタルトキハ授業料免除ヲ取消スコトアルヘシ

附則 本則ハ昭和十三年四月分ヨリ之ヲ適用ス



●靜岡縣機械器具檢查規則

昭和十二年十月二十三日  
靜岡縣令第五十三號

靜岡縣機械器具檢查規則左ノ通り

靜岡縣機械器具檢查規則

- 第一條 本縣指導ノ下ニ工業組合若ハ同聯合會ヲ通ジテ注文ノ引受ヲ爲シ製造シタル機械器具ハ本則ニ依ル検査ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ販賣スルコトヲ得ズ
- 第二條 本則ニ於テ機械器具ト稱スルハ金屬製機械器具又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ヲ謂フ
- 第三條 検査ヲ受ケムトスル者ハ第一號様式ニ依ル検査申請書ヲ知事ニ提出スベシ
- 第四條 検査ハ検査申請書ニ記載シタル場所ニ於テ検査員ヲシテ之ヲ行ハシム但シ必要アリト認ムルトキハ検査ノ場所ヲ指定スルコトアルベシ

〔靜岡令二八號〕

〔靜岡令二五號〕

- 留ニ處ス
- 一 本則ノ検査ニ關シ本縣ノ附シタル表示ヲ正當ノ事由ナクシテ抹消除却シ又ハ抹消除却ノ目的ヲ以テ検査品ニ不正ノ行爲ヲ施シタル者
- 二 手段ノ如何ヲ問ハズ検査施行ヲ妨害シタル者
- 三 検査ノ結果ヲ誤ラシムル目的ヲ以テ検査品ニ不正ノ行爲ヲ施シタル者
- 四 本則ノ検査ニ關シ本縣カ使用スル表示ニ類似ノ表示ヲ使用シタル者
- 五 第九條ノ規定ニ依ル検査員ノ臨檢検査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者
- 第十四條 機械器具ニ關スル營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ營業ニ關シ本則ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ
- 第十五條 本則ニ關スル罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附則

本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

第一號様式

機械器具検査申請書				
検査手数料	金	圓也		
品名	數量	價額	販賣先	受檢場所
				備考

第十二編 勸業 第八章 商工

検査員ハ第三號様式ノ證券ヲ携帯スベシ

- 第五條 検査ハ製品毎箇ニ付之ヲ行フ但シ検査員其ノ必要ナシト認ムルトキハ適宜抜取検査ニ止ムルコトヲ得
- 第六條 検査員検査ノ爲必要アリト認ムルトキハ検査申請者ヲシテ器具、機械又ハ勞務ヲ提供セシムルコトアルベシ
- 第七條 検査ノ結果ハ之ヲ合格及不合格ニ區別ス
- 發註者ノ作製ニ保ル仕様書ノ内容ニ該當セザルモノハ之ヲ不合格トス
- 第八條 合格品ニハ第四號様式ニ定ムル證券又ハ印章ヲ貼付又ハ押捺ス
- 第九條 検査取締上必要アリト認ムルトキハ知事ハ検査員ヲシテ工場、倉庫、店舗其ノ他ノ場所ニ臨檢シ物品、帳簿其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得
- 第十條 検査申請者検査ノ結果ニ不服アルトキハ検査後五日以内ニ再検査ノ申請ヲ爲スコトヲ得
- 前項ノ場合ニ於テハ第二號様式ノ再検査申請書ヲ知事ニ提出スベシ
- 再検査ノ結果ニ對シテハ不服ノ申立ヲ爲スコトヲ得ズ
- 第十一條 検査ノ申請ヲ爲シタル機械器具ニ付検査執行上生ジタル損害及天災其ノ他避ケベカラザル事由ニ因リ生ジタル損害ニ付テハ賠償ノ責ニ任セズ
- 第十二條 検査申請者ハ製品價額(請負ニ保ルモノニ在リテハ請負金額其ノ他ノモノニ在リテハ見積金額)ノ百分ノ二ニ相當スル検査手数料ヲ納付スベシ
- 前項手数料ハ検査申請ノ際之ヲ縣金庫ニ納付スベシ
- 第五條但書ノ規定ニ依リ抜取検査ヲ行ヒタルトキト雖検査申請ノ全數量ニ對スル手数料ヲ徴收ス
- 第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金若ハ科料又ハ拘

右検査相成度此段及申請候也

年月日	住所	氏名

第二號様式

機械器具再検査申請書

品名	數量	前受檢年月日	事由

右再検査相成度此段及申請候也

靜岡縣知事 宛 住所 氏名



第 號

年 月 日交付

機械器具検査員章

官職氏名

縣 印

静岡縣機械器具検査規則摘要

第四條 検査ハ検査申請書ニ記載シタル場所ニ於テ  
検査員ヲシテ之ヲ行ハシム但シ必要アリト認ムル  
トキハ検査ノ場所ヲ指定スルコトアルベシ  
検査員ハ第三號樣式ノ證券ヲ携帯スベシ

縦八種、横十二種中央點線ノ所ヨリニツ折トシ表面ニ金字ヲ以テ「機  
〔静岡令二五號〕

- 械器具検査員章」ト記入ス
- 第四號樣式
- 押捺印章
- 第一號 經三耗 原材料検査用
  - 第二號 經三耗 部分品検査用
  - 第三號 經三耗 水壓検査用
  - 第四號 經三耗 鑄物検査用
  - 第五號 經三耗 完成検査用
- 但シ貼付證券ノ經ハ六耗トス

●金銀細工業者及齒科醫ニ關スル  
調査ノ件

昭和二年一月二十九日  
商第二二號内務部長通牒

金銀貨幣及金銀地金ノ輸出並鑄渣取締上必要有之候ニ付毎年左記事項ヲ調  
査ノ上前年分ヲ二月十日迄ニ當廳宛御報告相成度  
追而本年ハ期日切迫ニ付取急キ御提出相成度

一、金銀細工業ニ關スル調査

區別	製作品種類	原料金銀ノ種類	同量目	同價格
内地用				

〔静岡令二七號〕

●静岡縣石油消費規正委員會規程

昭和十三年三月二十六日  
静岡縣告示第二百三十三號

- 静岡縣石油消費規正委員會規程左ノ通定ム
- 第一條 石油消費規正ノ目的ヲ達成スル爲静岡縣石油消費規正委員會（以  
下單ニ委員會ト稱ス）ヲ設ケ静岡縣廳内ニ之ヲ置ク
- 第二條 委員會ハ石油消費規正ノ實施ニ關シ重要ナル事項ニ付知事ノ諮問  
ニ應ズルモノトス
- 第三條 委員會ハ會長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第四條 會長ハ知事ヲ以テ之ニ充ツ
- 第五條 委員ハ左ノ者ノ中ヨリ知事之ヲ命ジ又ハ囑託ス
- 一、警察部長、經濟部長
  - 二、關係官廳職員
  - 三、石油供給關係者
  - 四、石油消費關係者
  - 五、其ノ他學識經驗アル者
- 前項ノ外必要アル場合臨時委員ヲ命ジ又ハ囑託ス
- 第六條 會長ハ會務ヲ總理ス
- 第七條 會長事故アル時ハ其ノ職務ハ會長ノ指名セル委員之ヲ代行ス
- 第八條 委員會ニ書記若干名ヲ置キ廳内關係課長及技術職員ノ中ヨリ知事  
之ヲ命ズ
- 幹事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ整理ス
- 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

外國輸出


備考

- 一、本表ハ製作品ノ種類及原料金銀ノ種類ノ異ナル毎ニ調査スルモノトス
- 二、原料金銀ノ種類ハ金銀貨幣ト金銀地金トニ區分スヘシ
- 三、各細工業者毎ニ區別スルコトヲ要セス
- 二、齒科醫ニ關スル調査

使用金銀ノ種類	量目又ハ價格	使用原料金銀量目	同價格

備考

- 一、前表備考一及二ニ據ルコト
- 二、各齒科醫毎ニ區別スルコトヲ要セス



第九條 委員會ハ必要ニ應ジ知事之ヲ招集ス  
 第十條 委員會ハ必要ニ應ジ分科會ヲ設ケルコトヲ得  
 第十一條 委員會及分科會ニシテ全委員ノ招集ヲ必要ト認メザルトキハ一部ノ委員ヲ以テ會議ヲ開催スルコトヲ得  
 第十二條 委員會ニ於テ審議答申シタル事項並議事内容ハ會長ノ承認ヲ受ケタル場合ノ外之ヲ發表スルコトヲ得ズ

附則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第二號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第三號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第四號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第五號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第六號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第七號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第八號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第九號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第十號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第十一號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第十二號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第十三號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第十四號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第十五號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第十六號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第十七號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第十八號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第十九號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第二十號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第二十一號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第二十二號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第二十三號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第二十四號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第二十五號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第二十六號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第二十七號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第二十八號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第二十九號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第三十號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第三十一號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第三十二號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第三十三號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第三十四號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第三十五號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第三十六號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第三十七號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第三十八號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第三十九號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第四十號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第四十一號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第四十二號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第四十三號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第四十四號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第四十五號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第四十六號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第四十七號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第四十八號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第四十九號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第五十號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第五十一號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第五十二號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第五十三號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第五十四號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第五十五號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第五十六號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第五十七號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第五十八號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第五十九號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第六十號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第六十一號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第六十二號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第六十三號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第六十四號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第六十五號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第六十六號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第六十七號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第六十八號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第六十九號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第七十號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第七十一號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第七十二號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第七十三號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第七十四號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第七十五號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第七十六號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第七十七號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第七十八號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第七十九號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第八十號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第八十一號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第八十二號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第八十三號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第八十四號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第八十五號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第八十六號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第八十七號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第八十八號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第八十九號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第九十號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第九十一號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第九十二號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第九十三號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第九十四號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第九十五號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第九十六號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第九十七號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第九十八號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第九十九號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則
第一百號	揮發油及重油販賣取締規則施行細則

【附則令二七號】

●揮發油及重油販賣取締規則施行細則

昭和十三年三月十四日  
 靜岡縣令第五號

【附則令三六號】

第一章 總則

第一條 揮發油及重油販賣取締規則（以下單ニ規則ト稱ス）第六條ニ依リ購買券ノ交付ヲ受ケントスル者ハ使用セントスル月ノ前月ノ五日迄ニ之ヲ申請スベシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ在リテハ期日後ト雖申請スルコトヲ得

一 新ニ事業ヲ開始セントスルトキ  
 二 設備ノ新設増設又ハ變更ヲ爲サントスルトキ  
 三 増車又ハ増船セントスルトキ  
 四 其ノ他臨時已ムヲ得ザル必要ヲ生ジタルトキ

船舶ニシテ特別ノ事情ニ因リ一時ニ二月分以上ノ購買券ノ交付ヲ受ケル必要アル場合ハ六月分以内ニ限り使用セントスル各月別數量ヲ同時ニ申請スルコトヲ得

第二章 申請書（別記第一號様式乃至第一號様式ノ九）ハ揮發油又ハ重油ヲ工場又ハ事業場ニ使用セントスル場合ニ於テハ其ノ所在地ノ、營業用自動車ニ使用セントスル場合ニ於テハ車庫所在地ノ、自家用自動車ニ使用セントスル場合ニ於テハ車庫所在地ノ、ガソリン機關車、ガソリン自動車、ガソリン機關車又ハガソリン自動車ニ使用セントスル場合ニ於テハ地方鐵道又ハ軌道ヲ經營スル者ノ主たる事務所所在地ノ、船舶ニ使用セントスル場合ニ於テハ船籍港（漁船並船隻札規則第一條第一項第一號及第二號ニ掲グル船舶ニ在リテハ其ノ所有者ノ住所所在地）ノ所轄警察署



第九條 規則第十二條ノ規定ニ依ル報告書(別記第三號様式及第三號様式ノ二)ニハ集計表(別記第三號様式ノ三及第三號様式ノ四)ヲ添附シ毎月五日迄ニ販賣場毎ニ所轄警察署ヲ經由提出スヘシ

第十條 規則又ハ本則ノ規定ニ依リ知事ニ提出スベキ書類ハ正副二通トシ第二條及前條ノ場合ヲ除クノ外住所所轄警察署ヲ經由スベシ

第十一條 申請者規則第六條若ハ本則第五條ノ規定ニ基キ申請ヲ爲シタル後死亡(法人ニ在リテハ解散)シタルトキハ相續人(法人ニ在リテハ清算人)ハ速ニ其ノ旨届出ツベシ

揮發油若ハ重油ノ販賣業者又ハ石油精製業者規則第十二條ノ規定ニ依ル報告書ノ提出前死亡(法人ニ在リテハ解散)シタルトキハ相續人(法人ニ在リテハ清算人)ハ同條ノ規定ニ依ル報告書ヲ提出スベシ

附則  
本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
昭和十三年五月分ノ購買券交付ヲ受ケントスル者ハ第一條ノ規定ニ拘ラズ本則施行ノ日ヨリ二週間以内ニ申請スベシ

附則 (昭和十三年昭令第五十七號)  
本令ハ昭和十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第九條ノ改正規定ハ昭和十四年二月一日ヨリ之ヲ施行ス本令施行前從前ノ規定ニヨリ知事ニ對シテ爲シタル申請ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

規則ニ依リ購買券(規則第八條ノ規定ニ依ル記載ナキモノニ限ル)ヲ引換ヘントスルモノハ引換申請書(別記第五號様式)ヲ昭和十四年一月十五日迄ニ購買券交付警察署ヲ經由シ知事ニ提出スベシ

第一號様式

用途	使用セントスル數量	前月使用シタル數量	使用豫定期間 自 月 日 至 月 日	交付ヲ受ケントスル購買券			前回交付ヲ受ケタル購買券	事由
				種別	枚數	枚數		
				一ガロン券				
				五ガロン券				
				五リットル券				
				一〇リットル券				
				一八リットル券				

〔靜岡令三六號〕

〔靜岡令三六號〕

前回交付ヲ受ケタル月 日	年 月 日	大型、普通、小型、特殊ノ別	車輛番號	車名	年式	馬力	氣筒容積	乗車定員又ハ積載量	一日平均走行	車庫所在地	使用車輛合計		走行		合計	
											概 要	概 要	走行	走行		

右購買券交付(團體交付)(再交付)ノ場合ハ其ノ事由ヲ記シ相成度此段及申請候也  
昭和 年 月 日

住 所

氏

名

靜岡縣知事 殿

注 一 再交付又ハ團體交付ノ場合ハ、不用ノ文字ヲ抹消シ再交付ノ場合ニアリテハ事由欄ニ盜難ニ罹リ又ハ燒失シタルニ付等ノ事由ヲ記入スルコト

二 用途欄ハ公署用乗用、公署用貨物、自家用貨物、營業用貨物、公營バス、民營バス、醫家用乗用、消防用自動車、新聞輸送用、靈柩用、病院用患者自動車、救急用ノ別ヲ又貨物自動車ニアリテハ主ナル輸送物品名ヲ記入スルコト

三 使用セントスル數量欄ニハ合計數量ヲ記入シ下部ノ購買券ノ種類及枚數ノ合計數量ト合致スルコト

四 前月使用シタル數量欄ニハ申請前月ニ於ケル使用數量ヲ記入スルコト

五 車名欄ハダツザラザリス、フォード等トス



第十二編 勸業 第八章 商工

四三六ノ一二

- 六 乗車定員又ハ積載量、馬力、氣筒容積ノ各欄ニハ車輛検査登記ノモノヲ記入スルコト
- 七 一日平均走行ノ使用豫定期間中ノ一日平均ヲ記入スルコト
- 八 使用車輛ノ概要欄ハ車輛多數ヲ有シ一枚ノ申請書ニ記入シ得ザル場合ハ本欄ノミノ別表ヲ作成添付スルコト
- 九 細則第一條第一項但書各號ノ場合ニ於ケル申請ハ欄外ニ「特別」ト朱書スルコト
- 一〇 法人又ハ團體ノ場合ハ住所欄ニ事務所所在地又ハ代表者ノ住所ヲ氏名欄ニハ名稱又ハ代表者名ヲ記入スルコト

第一號様式ノ乙

揮發油自動車用購買券團體交付申請添附書

使用設備ノ概要

用途	使用設備ノ概要	車種	年式	馬力	氣筒容積	乗車定員又ハ積載量	一日平均走行ノ燃料	所在地	住所又ハ事務所所在地	氏名又ハ名稱	記事
使用量	特別ノ別	番號	名	力	積載量	走行ノ燃料	所在地	住所又ハ事務所所在地	氏名又ハ名稱	記事	事

- 一 本書ハ揮發油自動車用購買券團體交付申請書ニ添付スルコト
- 二 用途欄ハ營業用旅客、營業用貨物等ノ別ヲ記入シ貨物ニアリテハ主タル運輸物品名ヲ記入スルコト
- 三 使用セントスル數量欄ハ各申請者ノ合計數量ヲ記入スルコト
- 四 前月使用シタル數量欄ハ申請前月ニ於ケル使用數量ヲ記入スルコト
- 五 車名欄ハ「フォード、ダツヂ、アラザース」等ノ別ヲ記入スルコト
- 六 乗車定員又ハ積載量、年式、馬力、氣筒容積欄ハ車輛検査登記ノモノヲ記入スルコト
- 七 住所又ハ事務所所在地欄ハ個人ニアリテハ住所、法人ニアリテハ事務所所在地ヲ記入スルコト
- 八 氏名又ハ名稱欄ハ個人ニアリテハ氏名、法人ニアリテハ名稱ヲ記入スルコト

〔附則令三六號〕

〔附則令三六號〕

第二號様式ノ二

船舶用揮發油購買券交付(團體交付)(再交付)申請書

用途	使用セントスル數量	使用豫定期間	前月交付ヲ受ケタル年 月 日	使用セントスル數量計	使用設備ノ概要	交付ヲ受ケントスル購買券種類	枚數	前月交付ヲ受ケタル購買券枚數	記事	事
漁業	ガロン リットル	自昭和 年 月 日 至昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	隻	一キロリットル券 一〇リットル券 一八リットル券 一〇リットル券	一カロン券 五カロン券 五リットル券 一〇リットル券				

右購買券交付(再交付)場合ハ其ノ事由ヲ記シ(再交付)(團體交付)相成度此段及申請候也

四三六ノ一三



昭和 年 月 日

住所又ハ  
事務所所在地

市郡

村町

字

番地

氏名又ハ名稱

静岡縣知事 股

- 註
- 一 再交付又ハ團體交付申請ノ場合ハ必要以外ノ文字ハ抹消スルコト
  - 二 再交付申請ノ場合ニアリテハ、盜難ニ罹リ又ハ焼失シタル等ノ事由ヲ記事欄ニ記入スルコト
  - 三 使用セントスル數量欄ニハ合計數量ヲ記入シ、下部ノ購買券ノ種類及枚數ノ合計數量ト合致スルコト
  - 四 使用設備ノ概要中「發動機ノ種類」ノ欄ニハ「ガゼール、燒玉、電氣著火」別ヲ記入スルコト
  - 五 使用設備ノ概要中「漁業ノ種類」欄ニハ「鱈、鮪、鮓、釣漁業、鮎釣漁業、鮎釣網漁業、定置網漁業、沿岸小釣漁業、網漁業、採藻漁業及鮮魚運搬業」八種トシ夫々該當セル主タル漁業名一種ヲ記入スルコト
  - 六 使用設備ノ概要中許可漁業ニアリテハ「許可漁業」欄ニ「静岡縣漁業取締規則第三條ニ依ル漁業及省令ニ依ル許可漁業」ノ許可香號ヲ記入スルコト
  - 七 使用設備ノ概要欄ハ船舶多數ヲ有シ、一枚ノ申請書ニ記入シ得ザル場合ハ本欄ノミノ別表ヲ作成添付スルコト
  - 八 船舶香號又ハ船體札香號ノ適用規則ナキ總噸數五噸未満ノ個人申請ニ依ル船舶ニ在リテハ所屬漁業組合ノ在船證明書ヲ添付スルコト
  - 九 團體交付申請ニ依ル使用設備ノ概要欄ハ本號様式ノ乙ニ依ルコト
  - 十 細則第一條第一項但書各號ノ場合ニ於ケル申請ハ欄外ニ「特別」ト朱書スルコト

第一號様式ノ二ノ乙

船舶用揮發油購買券團體交付申請添付書	使用設備ノ概要
--------------------	---------

〔静岡令三九號〕

船舶香號	船名	船型噸數又發動機	馬力	根據地	船籍港	用途	漁業許可	使用月	平均日	燃油	開始	使用	使用	所有	記事
札又ハ船體香號	船名	船型噸數又發動機	馬力	根據地	船籍港	用途	漁業許可	使用月	平均日 <td>燃油</td> <td>開始</td> <td>使用</td> <td>使用</td> <td>所有</td> <td>記事</td>	燃油	開始	使用	使用	所有	記事
丸	丸	丸													

〔静岡令三六號〕

第一號様式ノ三

船舶用揮發油購買券交付(團體交付)申請書		再交付(再交付)申請書	
用途	運 輸	種 類	枚 數
遊 覽	業 業	一ガロン券	枚
使用セントスル數量	ガロン	五ガロン券	枚
使用豫定期間	自昭和 年 月 日	五リットル券	枚
至昭和 年 月 日	至昭和 年 月 日	一〇リットル券	枚
前回交付ヲ受ケタル	昭和 年 月 日	一八リットル券	枚
年月日	昭和 年 月 日	一〇リットル券	枚
使用セントスル隻數	隻	一〇リットル券	枚
合計	隻	一キロリットル券	枚



船舶香號又ハ船體札香號		船名		船型噸數又ハ發動機馬力		根據地		船籍港		船舶ノ用途航域		一月使用日數		一日平均航走ノ開始ノ區別		使用セタル數量		記		
丸	丸	丸																		

右購買券交付(再交付)場合ハ其ノ事由ヲ記シ(再交付)團體交付)相成度此段及申請候也  
昭和 年 月 日

住所又ハ事務所所在地 市 郡 村町 字 番地  
氏名又ハ名稱

靜岡縣知事 殿

- 註
- 一 再交付又ハ團體交付申請ノ場合ハ必要以外ノ文字ハ抹消スルコト
  - 二 再交付申請ノ場合ニアリテハ盜難ニ罹リ又ハ燒失シタル等ノ事由ヲ記事欄ニ記入スルコト
  - 三 使用セントスル數量ニハ合計數量ヲ記入シ下部ノ購買券ノ種類及枚數ノ合計數量ト合致スルコト
  - 四 使用設備ノ概要中「發動機ノ種類」ノ欄ニハ「ガールセル」燒玉、電氣著火ノ別ヲ記入スルコト
  - 五 使用設備ノ概要欄ハ船舶多數ヲ有シ一枚ノ申請書ニ記入シ得ザル場合ハ本欄ノミノ別表ヲ作成添附スルコト
  - 六 船舶香號又ハ船體札香號ノ適用規則ナキ總噸數五噸未満ノ個人申請ニ依ル船舶ニ在リテハ所屬漁業組合ノ在船證明書ヲ添附スルコト
  - 七 團體交付申請ニ依ル使用設備ノ概要欄ハ本號様式ノ乙ニ依ルコト
  - 八 細則第一條第一項但書各號ノ場合ニ於ケル申請ハ欄外ニ「特別」ト朱書スルコト

〔靜岡令三六號〕

第一號様式ノ三ノ乙

〔靜岡令三六號〕

船舶香號又ハ船體札香號		船名		船型噸數又ハ發動機馬力		根據地		船籍港		船舶ノ用途航域		一月使用日數		一日平均航走ノ開始ノ區別		使用セタル數量		住所又ハ事務所所在地ハ名稱		
丸	丸	丸																		

船舶用揮發油購買券團體交付申請添附書

使用設備ノ概要

第一號様式ノ四

申請者ノ業務		揮發油工業用購買券交付(團體)申請書		交付ヲ受ケンタル購買券		前回交付ヲ受ケタル購買券	
申請者ノ業務		種	枚	種	枚	種	枚
使用セントスル數量		一ガロン券		一ガロン券		一ガロン券	
用途		五ガロン券		五ガロン券		五ガロン券	
使用兼定期間		五リットル券		五リットル券		五リットル券	
自 月 日	至 月 日	一〇リットル券		一〇リットル券		一〇リットル券	
		一八リットル券		一八リットル券		一八リットル券	



前 回 交 付 受 ケ タ ル 日	年	月	日	一〇〇リツドル券	一キロリツトル券	従業者數	使用ヶ月間	平均一日ノ 使用時間	記 事
種 類 型 式	馬 力	臺	數	從業者數	使用ヶ月間	平均一日ノ 使用時間	記 事		
使 用 概 要									

右購買券(再交付)場合ハ其ノ事由ヲ記シ(團體)相成度此段及申請候也

昭和 年 月 日

所在地 市郡 村町 字 番地 氏 名

静岡縣知事 殿

- 註
- 一 再交付又ハ團體交付ニアリテハ不要文字ヲ抹消シ尙再交付申請ノ場合ハ( )ノ上部ノ交付ノ文字ヲ抹消シ再交付事由欄ニ盜難ニ罹リ又ハ燒失シタル等ノ事由ヲ記入スルコト
  - 二 申請者ノ業務欄ハ紡織、織物、製油、塗料等ト記入スルコト
  - 三 買受ケントスル數量欄ハ合計數量ヲ記入シ下部ノ購買券ノ種類及枚數ノ合計數量ト合致スルコト
  - 四 用途欄ハ發動機用、浸出用、ドライグリーニング用、汚拔用、ゴム溶解用等直接用途ヲ記入スルコト
  - 五 種類型式ハ何々式カソリシ發動機又ハ何々式カソリシカート記入スルコト
  - 六 使用豫定期間ハ交付ヲ受ケントスル購買券ニ付記入スルコト
  - 七 細則第一條第一項但書各號ノ場合ニ於ケル申請ハ欄外ニ「特別」ト朱書スルコト

〔静岡令三六號〕

第一號様式ノ四ノ乙

- 八 従業員數欄ニ直接揮發油ヲ使用取扱ヒヲナス者ノ數ヲ記入スルコト
- 九 平均作業日數又ハ其ノ時間欄ハ實際揮發油ヲ使用シテ作業スル日數又ハ時間ヲ記入スルコト
- 十 團體申請ノ場合ハ第一號様式ノ四ノ乙ニ依リ別紙ニ添附スルコト

〔静岡令三六號〕

揮發油鑛工業用購買券團體交付申請添附書

使用設備ノ概要

種類型式	馬力	臺數	從業者數	一ヶ月間ノ 使用日數	一日平均 使用時間	使用セント 數量	住 所 氏 名 記 事

- 註
- 一 本表ハ團體毎ニ記入スルコト
  - 二 住所欄ハ法人ニ在リテハ事務所所在地ヲ記入スルコト
  - 三 氏名欄ハ法人ニアリテハ其ノ名稱ヲ記入スルコト

第一號様式ノ五

揮發油雜用購買券交付(團體交付)申請書

申請者ノ業務	交付ヲ受ケントスル購買券	前 回 交 付 受 ケ タ ル 購 買 券	事 由
使用セントスル數量	種 類 數 枚	數 枚	
	一 ガ ロ ン 券		







